

○海軍省達第六十二號

海軍艦船條例第三十七條ニ依リ乘員ヲ置キタル運送船病院船工作船ニ關スル諸般ノ取扱ハ適用シ得ル限リ軍艦ニ準スル儀ト心得ヘシ但シ全定員ヲ置キタルトキハ在役艦ニ、特別定員ヲ置キタルトキハ第二豫備艦ニ準ス

明治三十九年四月二十四日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第六十三號

職工人夫給與規則第四條中「貳圓」ヲ「貳圓五拾錢」ニ改正ス

明治三十九年四月二十四日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第六十四號

明治三十三年達第四號職工賃錢等級表中特別賃錢ノ等級金額ヲ左ノ通改正ス

明治三十九年四月二十四日

海軍大臣齋藤實

特別一等	貳圓五拾錢	特別六等	壹圓八拾錢
特別二等	貳圓參拾錢	特別七等	壹圓七拾錢
特別三等	貳圓拾錢	特別八等	壹圓六拾錢
特別四等	貳圓	特別九等	壹圓五拾錢
特別五等	壹圓九拾錢		

○海軍省達第六十五號

明治三十一年^{十一月}達第四百一十一號ハ海兵團ニ於テ新兵教員ノ職ヲ奉スル下士卒ニモ適用スルコトヲ得

明治三十九年四月二十四日

海軍大臣齋藤實

〔參照〕

海軍省達第四百一十一號(明治三十一年十一月八日)
學校及練習所ニ於テ教員ノ職ヲ奉スル下士卒技術拔群ニシテ特ニ選拔スヘシト認メタル者アルトキハ海軍准士官下士卒任用進級規則第三條ノ期限ニ關セズ臨時ニ試驗ヲ行ヒ海軍准士官下士卒任用進級取扱規則第十條及海軍卒進級條例第六條ノ期限ニ關セズ拔擢名簿候補名簿ヲ調製進達シ若ハ送附スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ決定候補名簿ノ順序ニ關セズ臨時ニ任用進級セシムルコトヲ得

○海軍省達第六十六號

海軍官印規程第三條中「艦團長」ノ下ニ「工作船指揮官」ヲ加フ

明治三十九年四月二十七日

海軍大臣齋藤實

○陸達第三十六號

三八式歩兵銃及同騎銃ノ制式別紙圖面ノ通定ム。(別紙圖面略ス)

但シ現在ノ三十年式銃ハ本文三八式銃ト併用ノ儀ト心得ベシ

明治三十九年五月五日

陸軍大臣寺内正毅

○陸達第三十七號

工科及理科大學陸軍砲工學校員外學生修學規則中左ノ通改正ス

明治三十九年五月十二日

陸軍大臣寺内正毅

第六條 員外學生ハ砲工學校卒業ノ翌年九月ニ於テ工科若ハ理科大學ニ入學シ該大學諸學科中ノ

一科目ヲ專修スルモノトス其ノ修學期ハ約三箇年トス

第七條及第八條 削除

〔参照〕

陸達第七號工科及理科大學陸軍砲工學校員外學生修學規則(明治三十三年一月二十九日)抄録

第六條 員外學生ハ砲工學校卒業ノ翌年九月ニ於テ工科若クハ理科大學ニ入學シ其修學期ハ總テ約三箇年トス

第七條 工科員外學生ニハ左ノ四學科中ノ一ヲ專修セシムルモノトス

一 土木工學科

二 機械工學科

三 電氣工學科

四 應用化學科

第八條 理化員外學生ニハ左ノ三學科中ノ一ヲ專修セシムルモノトス

一 數學科

二 物理學科

三 化學科

○陸軍第三十八號

本年度ニ限リ衛生隊演習ニ豫後備役下士兵卒ヲ召集セス

明治三十九年五月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第三十九號

今回陸軍服制ノ改正ニ依リ下士以下著裝被服ニ關スル件左ノ通定ム

明治三十九年五月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第一 從來ノ制服ハ改正ノ制式ニ改修シテ之ヲ使用セシム但シ憲兵及騎兵ニ限リ夏季著裝用夏衣及

第二 將來調製ノ第二種帽、絨衣袴、外套及雨覆ノ地質ハ濃紺絨地質ノ殘存スル限り之ヲ以テ代用

第三 各部隊ニ現在スル從來ノ制服ハ此ノ際左ニ掲クル員數ヲ限リ改正ノ制式ニ改修スヘシ

一 第二種帽 戰用及常用ノ全部但シ騎兵ハ常用ノ内平時人員ノ定員及定員外附屬ノ人員内地師團

一 絨衣袴 憲兵及騎兵ヲ除キ戰用ノ全部及常用ノ内平時人員ニ對シ各人ニ付二組三十八年滿鐵

一 夏衣袴 戰用ノ全部及常用ノ内平時人員ニ對シ各人ニ付二組發第一五二二

一 外套 憲兵及騎兵ヲ除キ戰用ノ全部及常用ノ内平時人員ニ對シ各人ニ付一箇

一 改修セサル從來ノ衣袴、外套、憲兵及騎兵ノ絨ハ肩章及袖章ヲ除去シ略服トシテ營内及通常ノ演習

等ニ於テ著用セシムルモノトス

第四 前項制服ノ改修ハ當該經理部長清國駐屯軍ニ在リテハ同シ之ヲ管理ス

第五 制服ノ改修ニ要スル經費ハ諸生徒ニ係ルモノハ軍事費定員外ノモノ其ノ他ハ臨時事件費ヨ

リ別途支出スルモノトス但シ第三項ノ規定員數以外ニ於ケル改修ノ費用ハ當該部隊ノ經費ヲ以

テ支辨スルモノトス

第六 憲兵上等兵ノ夏衣袴著裝ニ伴ヒ要スル第二種帽ハ此ノ際各兵ニ一箇ヲ限リ其ノ定員定員外

員ニ對シテモ亦同シ

第七 營外居住ノ下士兵卒憲兵上等兵ヲ除クニハ此ノ際茶褐色絨製ノ第二種帽、絨衣袴、肩章、外套、肩章、各一

箇ヲ支給ス但シ各自ノ所持スル從來ノ制服官ノ貨與ヲ除クヲ改修スルハ自辨トス

第八 服裝上特ニ茶褐色制服ヲ必要トスル場合ニ於ケル著裝用トシテ各隊ノ平時定員憲兵隊ハ上

ノ各兵ニ對シ茶褐色絨製ノ第二種帽、絨衣袴及外套各一箇ヲ當該隊ニ交付ス但シ各隊ニ現在スル

茶褐色制服ハ之ニ差繼クモノトス

前項ノ被服ハ憲兵隊以外ノ軍隊ニ在リテハ戰用ニ充當シ置クモノトス

第九 經理部長ハ所管内ニ於ケル各部隊毎ニ左ノ事項ヲ調査シ經理局長ニ通報スヘシ

一 改修ヲナスヘキ被服ノ員數及之ニ要スル經費ノ豫算但シ經費支出ノ月別ヲ要ス

二 改修ニ要シタル實費實際仕拂ヒタル金額

三 第六及第七項ニ係ル所要員數及其ノ兵種階級及大小號數ノ區分

四 第八項ニ依リ差繼キ交付ヲ受クヘキ員數及其ノ兵種階級及大小號數ノ區分

○陸軍第四十號

陸軍平時備入定員表中左ノ通改正ス

明治三十九年五月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

明治三十九年五月 遼 海軍省第七十一號 第七十二號 第七十三號 第七十四號 第七十五號 第七十六號 七四

○海軍省達第七十一號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「朝露」ノ次ニ「白雪」ヲ加フ

明治三十九年五月二十二日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第七十二號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「白雪」ノ次ニ「初春」疾風ヲ加フ

明治三十九年五月二十四日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第七十三號

吳鎮守府在籍

軍艦 筑紫

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

明治三十九年五月二十五日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第七十四號

艦艇類別等級別表中「筑紫」ヲ削ル

明治三十九年五月二十五日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第七十五號

艦艇類別等級別表中戰艦ノ欄周防ノ次ニ「香取」鹿島ヲ加フ

明治三十九年五月二十八日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第七十六號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「疾風」ノ次ニ「三日月」ヲ加フ

明治三十九年五月二十九日

海軍大臣齋藤實

○宮内省達甲第七號
膳部長小禮服制左ノ通相定ム

奉 勅

明治三十九年六月五日

宮内大臣子爵田中光顯

膳部長小禮服制

上		下		袴		帽		鈕	
地	式	地	式	地	式	地	式	一	二
深黒紺羅紗	通常禮服ノ製ニ同シテ腰下ヲクリ去リ後裾ニ及ホシ上襟ニ黒天鷲絨ヲ付シ左右ニ一號鈕八箇即チ半面ニ四箇ヲ付ス	白羅紗及ヒ白リンネル	襪大反シニ號鈕三箇ヲ付ス	深黒紺羅紗	通常ノ製ニ同シ	黒毛天鷲絨	山形長サ一尺三寸五分頂縁ニ駄島ノ黒毛ヲ付シ縁端ニ沿フテ幅五分ノ金線一條ヲ置ク	金製五七ノ柄徑七分	金製五七ノ柄徑四分五厘
深黒紺羅紗	乘留ノ兩邊ニ一號鈕二箇並ニ裾ヲ離ルル凡三四寸ノ位置兩端ニ同シク一號鈕各一箇ヲ付ス						上ニ向ヒ斜メニ幅五分ノ金線二條ヲ付ス其間六分五厘線外ニ紅白ノ日章ヲ現ハス紅ノ幅二分白ノ幅四分トス線内ノ下部ニ一號鈕ヲ以テテ帽ニ付著ス		大禮服ノ鈕ニ同シ

圖樣ハ明治二十一年ハ明宮内省達第十九號主獵前委任官小禮服制ニ同シ

明治三十九年六月 遼 宮内省甲第七號

○陸軍第四十三號

明治三十七八年戰役中特別補充ノ陸軍經理部士官ヲ陸軍經理學校ニ召集シ臨時學生ト爲スコトニ定メラル

明治三十九年六月一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第四十四號

臨時陸軍似島檢疫所服務規則左ノ通定ム

明治三十九年六月十二日

陸軍大臣寺內正毅

臨時陸軍似島檢疫所服務規則

第一條 臨時陸軍似島檢疫所長ハ陸軍運輸部本部長ニ隸シ所内全般ノ業務ヲ管理シ所員以下ニ業務ノ分掌ヲ命ス

第二條 臨時陸軍似島檢疫所ノ業務ヲ左ノ如ク分科ス

本部

檢疫部

運搬部

避病院

第三條 本部ハ庶務人事及經理其ノ他所内一般ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 檢疫部ハ船舶ノ臨檢及搭載人馬物件ノ消毒並細菌學上ノ檢査ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 運搬部ハ海陸ニ於ケル人馬物件ノ漕航運搬ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 避病院ハ陸軍所轄船舶及人馬物件檢疫規則第一條第二項ノ傳染病患者ヲ收容治療シ且衛生材料ノ保管及出納ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 避病院ニ附屬スル職員ノ勤務ハ衛戍病院服務規程ニ準據スヘシ

第八條 檢疫所長ハ毎月盡日業務報告書ヲ調製シ陸軍運輸部本部長ヲ經テ陸軍大臣ニ進達スヘシ
○陸軍第四十五號
陸軍所轄船舶及人馬物件檢疫規則左ノ通定ム

明治三十九年六月十二日

陸軍大臣寺內正毅

第一章 總則

第一條 清國、韓國及臺灣ヨリ宇品ニ入港スル陸軍所轄ノ船舶及搭載人馬物件ニ對シテハ傳染病豫防ノ爲當分ノ内臨時陸軍似島檢疫所ニ於テ檢疫ヲ施行ス

本規則ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、ペスト、猩紅熱、痘瘡、霍亂其ノ他海港檢疫法ニ依リ内務大臣ノ指定シタルモノトス

第二條 船舶ノ乗組員(船員及乗組員全部)ハ檢疫ニ關シテハ本規則ヲ遵守シ檢疫所所員ノ指示ニ從フヘキモノトス

第二章 船舶入港及出港手續

第三條 船舶檢疫所ニ來著スルトキハ所定ノ場ニ碇泊シ船長ハ明告書(附錄第一號)各欄ニ事實ヲ記入シ之ニ署名捺印シテ臨檢所員ニ差出シ船舶ノ檢査ヲ受クヘシ

輸送指揮官監督將校前項ノ船舶ニ乗組タルトキハ各責任ヲ以テ明告書ニ連署證明スヘシ部隊附醫官其ノ所屬部隊ト共ニ乗組員タルトキ亦同シ

第四條 入港船舶ハ檢疫ヲ受ケ許可證(附錄第二號)ヲ得タル後ニアフヤハ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ乗組員ノ上陸搭載物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス入港後乗組員ニシテ傳染病患者ヲ發生シタルトキ亦前項ニ準ス

第五條 入港船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ來著前(入港後傳染病患者ヲ發生シタル場合ニ於テハ患者發見ノトキ)

- ヨリ許可證ヲ得ル迄檢疫信號ヲ掲クヘシ
- 一 現ニ傳染病患者又ハ死者アルモノ
- 二 航海中傳染病患者又ハ死者アリタルモノ
- 三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病ニ汚染シタル船舶ト交通シタルモノ

檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前檣頭ニ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅白ノ二燈ヲ連掲スルモノトス
 第六條 前條以外ノ船舶ハ來著前ヨリ檢疫ヲ了スルマテ晝間ハ前檣頭ニ紅白二色旗(附錄第三號)ヲ掲揚シ夜間ハ同所ニ紅燈一箇其ノ下ニ白燈二箇ヲ上下ニ連掲スヘシ

第三章 船舶ノ検査及停船

第七條 船舶來著スルトキハ檢疫部所員ハ直ニ其船舶ニ至リ明告書ヲ徴シ必要ノ事項ヲ船長及明告書運署者ニ尋問シタル後船内ヲ検査シ若シ第五條第一項第一號乃至第三號ニ該當シ又ハ傳染病ノ疑アル患者死者アル爲メ船舶ノ一部又ハ全部ニ消毒ヲ爲スノ必要ヲ認メタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ檢疫所長ニ報告シ傳染病患者死者ヲ含ム以下同シニ觸接セル物件ハ蒸汽若ハ藥物消毒又ハ燒却ニ付スヘキモノニ區分シ且鏡檢ヲ要スル物件ニハ適當ノ符號ヲ付スヘシ但シ私有品ヲ燒却ニ付スルニハ成ルヘク所有者ノ承諾ヲ經ヘシ

傳染病患者死者所屬ノ貴重品ハ所員船長又ハ明告書運署者若ハ所屬部隊長立會ノ上之ヲ調査シ品目表(附錄第四號)ヲ作り立會者運署ノ後檢疫所長ニ差出スヘシ

第八條 臨檢所員ハ第五條第一項第一號乃至第三號ニ該當スル船舶ニ對シ停船ヲ命ス但シ第三號ニ該當スル船舶ニ對シ停船ヲ命スルハ同所員ニ於テ必要ト認メタル場合ニ限ル

前項停船ノ期間ハ第五條第一項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ消毒ヲ終リタルトキヨリ同第三號ノ場合ニ於テハ其ノ事故ノアリタルトキヨリ起算シ五日(ベストニ在リテハ十日)間トス

第九條 臨檢所員ハ傳染病ノ疑アル患者ヲ搭載シタル船舶ニ對シ必要ト認ムルトキハ第五條第一項第二號ノ船舶ニ準シテ停船ヲ命スヘシ

第十條 停船ヲ命セラレタル船舶ハ臨檢所員ノ指定シタル場所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得ルニアラサレハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第四章 消毒物件ノ運搬及消毒ノ方法並乘組員ノ停留

第十一條 消毒ヲ行フニ當リ搭載人馬物件ノ運搬ヲ要スルトキハ運搬部ハ之ヲ規定ノ場所ニ運搬スヘシ

前項ノ場合ニ於テ未消毒人馬物件ノ運漕ニ使用スル解舟ハ既消毒人馬物件ノ運漕ニ使用スル解舟ト確實ニ區別シ且使用後直ニ消毒ヲ施行スヘシ

第十二條 傳染病患者死者ハ避病院ニ送り其ノ所屬品ニシテ消毒スヘキモノハ之ヲ未消毒倉庫ニ移シ燒却ニ付スヘキモノハ直ニ避病院ニ送付スヘシ船舶内ニ於テ患者死者ト同室シタル健康者ノ所屬品ニシテ消毒スヘキモノ亦同シ

第十三條 傳染病患者ノ排泄物及該病ニ汚染シタル物件殊ニ燒却ニ付スヘキモノハ充分ニ消毒藥ヲ注キ鐵製罐中ニ納メ其ノ容積大ニシテ罐中ニ納ムルコト能ハサルモノハ消毒藥ヲ注キタル後結束シ適宜ノ方法ニ依リ嚴ニ病毒ノ散逸ヲ防ギ搬送スヘシ

第十四條 還送物件ハ一旦未消毒倉庫ニ收容シ然ル後消毒ニ付スヘシ

第十五條 船舶内ノ消毒及驅鼠ヲ要スル場合ニ在リテハ船員ヲシテ其ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 消毒ハ蒸汽消毒及藥物消毒トシ藥物消毒ニハ陸軍部内傳染病豫防細則ニ規定セル藥物ノ外「フォルマリン」及「クレシニン」ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 蒸汽消毒又ハ藥物消毒ヲ施シタル物件ニシテ乘組員ニ屬スルモノハ直ニ本人ニ還付シ

其ノ運送ニ係ルモノハ一時既消毒倉庫ニ格納シ假梱包ヲ爲シタル上之ニ所屬部隊ヲ明記シタル木札ヲ附シ陸軍運輸部本部ニ送付スルモノトス

第十八條 傳染病患者、死者ノ貴重品ニシテ消毒済ノモノハ検査所長之ヲ保管シ患者ノ貴重品ハ本人退所ノ際之ヲ返付シ死者ノ貴重品ハ遺骨ト共ニ陸軍運輸部本部ヲ經テ原所屬部隊ニ送付スヘシ

第十九條 傳染病毒ニ汚染シ又ハ其疑アル乗組人員ニシテ入浴ニ堪フル者ハ總テ入浴消毒ヲ施行シ入浴ニ堪ヘサルモノハ船内ニ於テ消毒衣ニ著換セシメ適當ノ消毒ヲ施スヘシ

傳染病毒ニ感染シ又ハ其ノ疑アル馬匹ノ消毒ハ適當ト認ムル方法ニ依ル

第二十條 停船ヲ命シタル船舶ノ乗組員ハ入浴消毒後停泊衣ヲ貸與シ停泊舎ニ收容ス

停泊舎ニ收容セラレタル者ハ掛員ノ許可ヲ得ルニアフサレハ本船其ノ他ト交通シ又ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第二十一條 停泊中傳染病又ハ其ノ疑似症ニ罹リタル者アルトキハ速ニ避病院ニ送り同患者ノ起居シタル室内及其ノ觸接セル物件ニハ制規ノ消毒ヲ施シ同室者ハ再ヒ消毒ノ後他室ニ移轉セシムルモノトス

第二十二條 入舎後五日(ベスト患者ノ在リタル船舶ノ乗組員ハ十日)間ヲ經過シ異狀ナキトキハ其著服及携帶品ヲ交付シ退舎ヲ命ス但シ退舎人員ハ運搬部員ヲシテ陸地ニ輸送セシム

第二十三條 停泊中傳染病發生シタルトキハ同船者ノ一部又ハ全部ニ對シ更ニ其ノ當日ヨリ五日(ベストニ在リテハ十日)間停泊ヲ繼續シ新患ナキニ至リ退舎ヲ許スヘシ若患者續々發生シ傳播ノ兆アルトキハ停泊者ノ一部ヲ他ノ區域ニ移ス等適宜ノ處分ヲ爲スヘシ

第五章 患者ノ隔離及死體其ノ他物件ノ燒却

第二十四條 傳染病患者到著シタルトキハ入院患者名簿(附録第五號)ニ記入シタル後運搬部員ヲシテ病室ニ搬送セシムヘシ

第二十五條 傳染病患者ノ被服ハ各人毎ニ麻布袋ニ入レ之ニ病室號患者氏名及年月日ヲ明記シタル票札(木製)ヲ附著シ運搬部ニ引渡シ未消毒倉庫ニ送付セシム

第二十六條 傳染病患者ニ屬スル物品ハ本人退院又ハ轉送ノ際之ヲ交付ス但シ入院中死亡シタルモノ、遺物ハ品目表ヲ添ヘ遺骨ト共ニ陸軍運輸部本部ヲ經テ原所屬部隊ニ送付ス

第二十七條 傳染病患者ノ死體ハ之ヲ火葬スルヲ例トス

第二十八條 傳染病患者又ハ燒却スヘキ物件ハ死者ニ在リテハ其ノ乘込船名所屬部隊等級(原籍身分)致死ノ病名及氏名ヲ死者名簿(附録第六號)ニ物件ニ在リテハ其ノ品目及見積代價ヲ燒却原簿(附録第七號)ニ記入シ検査所長ノ認可ヲ受ケ燒却スヘシ各病室ノ患者死亡シタルトキ亦同シ但シ死體ニハ火葬券(附録第八號)ヲ添付ス

第二十九條 死體ヲ火葬シタルトキハ遺骨ヲ小瓶ニ拾取シ更ニ小箱ニ納メ之ニ軍醫ノ作成セル死亡證書正本二通(軍人軍屬以外ニ在リテハ一通)ヲ添ヘ陸軍運輸部本部ヲ經テ所屬部隊ニ送付スヘシ但シ死亡證書副本一通ヲ検査所ニ保管スルモノトス

(附録略ス)

○陸軍第四十六號

陸軍運輸部運輸規程別紙ノ通改正シ明治三十九年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年六月十四日 陸軍大臣寺內正毅

陸軍運輸部運輸規程

第一條 軍隊及軍需品ノ海上輸送ハ陸軍運送船又ハ特約船(航海命令ニ依リ船積ノ一部ヲ以テ施行スルヲ例トス但シ急ヲ要スル場合及陸軍運送船特約船ナキ航路ニ在リテハ普通ノ商船便ニ據ルコトヲ得)

運輸部本部長ハ前項運送船ノ借上及普通商船ニ據ル輸送ニ就テハ其ノ船主ト契約シ特約船ノ使用ニ關シテハ航海命令ノ條件ニ據ルヘシ

第二條 陸軍官憲ノ命令ヲ以テ臺灣、樺太、韓國、關東及北清ニ往復スル軍人軍屬備役者及馬匹ハ前條ニ準シ之ヲ輸送ス但シ急ヲ要スル場合ニシテ普通ノ商船便ニ據ルヘキ者ハ所屬長ヨリ豫メ運輸部ニ通知スルカ又ハ其ノ命令書若ハ證明書ヲ旅行者ニ交付スヘシ

第三條 患者ヲ輸送スルニハ病院船運送特約船又ハ普通商船ヲ使用シ之ニ適當ノ衛生部員ヲ附スルヲ例トス若シ運輸部ノ衛生部員ニシテ不足ナルトキハ運輸部本部長ハ臺灣陸軍軍醫部長、關東總督府軍醫部長、韓國駐節軍軍醫部長、樺太守備隊軍醫部長、清國駐屯軍病院長又ハ第五師團軍醫部長ニ協議シ最寄部隊病院等ノ衛生部員ヲ使用スルコトヲ得

但シ之ニ要スル費用ハ運輸部ヨリ支辨ス

後送シタル患者ハ患者集合所ニ收容シ之ヲ廣島衛戍病院(若ハ同院)ニ送致スルモノトス但シ樺太ヨリ後送シタル患者ハ小樽ニ陸揚シ旭川衛戍病院(若ハ同院)ニ送致スルモノトス

軍隊輸送ノ場合ニ於テ隊附衛生部員ナキトキハ成ルヘク本條ニ準據シ衛生部員ヲ附スルモノトス

第四條 各部團隊長船舶輸送ヲ行ハントスルトキハ豫メ運輸部本部長(必要ノ場合ニハ臺灣、關東、北清、東及北清ニ在リテハ各最寄出張所長)ト協議シ乗船前日迄ニ所要ノ將校ヲ乘船地ニ差遣シ運輸部職員ト協議シ諸準備ヲ爲サシムヘシ但シ小部隊又ハ少數ノ軍需品ヲ輸送ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第五條 運輸部ハ輸送用船舶、人員、材料ヲ準備シ搭載陸揚ヲ指揮ス

運輸部ハ必要ニ應ジ船内ニ於ケル取締其ノ他必要ナル事項ヲ規定スルコトヲ得

第六條 第二條ニ掲クルモノノ乗船及上陸地ハ内地ニ在リテハ左ノ各號ニ依リ臺灣、樺太、韓國、關東及北清ニ在リテハ其ノ船舶ノ寄港地中發著地トノ往復最モ便利ナル地トス但シ特ニ理由アルモノハ所屬長ノ命令ニ依リ他ノ寄港地ニ於テ乘船上陸ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ當該

所屬長ヨリ豫メ運輸部ニ通知スルカ又ハ命令書若ハ證明書ヲ旅行者ニ交付スヘシ

一 韓國及關東ニ往復スル者ニ在リテハ字品又ハ門司、但シ門司ニテ乘船上陸スルハ九州及門司最寄ノモノニ限ル

二 臺灣ニ往復スルモノニ在リテハ門司又ハ字品但シ字品ニテ乘船上陸スルハ最近便船カ字品ニ寄港スル場合ニ限ル

三 北清ニ往復スル者ニ在リテハ門司

四 樺太ニ往復スル者ニ在リテハ小樽

第七條 船舶輸送中第二條ニヨリ乘船スルモノノ給養ハ運輸部ノ支辨トシ軍隊給養ニ係ル費用ハ該隊ノ支辨トス但シ臺灣ニ於テ乘船スル者ノ船内馬糧ハ運輸部ヨリ臺灣陸軍經理部ニ請求シ現品ノ交付ヲ受ケ之ヲ支給スヘシ又樺太、韓國、關東及北清ニ於テ乘船スルモノノ船内馬糧ハ乘船地ノ景況ニ依リ所屬部隊若ハ當該給養官衛又ハ運輸部ニ於テ支給ス

第八條 左ニ列記スル者ハ運輸部ニ請求シテ運送船及特約船ニ便乘スルコトヲ得但シ豫メ所屬長ヨリ照會スルカ又ハ所屬長ノ證明書ヲ携行スルヲ要ス

一 私事ノ爲メ許可ヲ得テ往復スル陸軍軍人軍屬

二 臺灣、樺太、韓國、關東及北清ニ在勤スル陸軍軍人軍屬ノ家族及從者

三 輸送物品ノ宰領者

第九條 運輸部ハ至急ノ官用ヲ以テ臺灣、樺太、韓國、關東及北清ニ往復スル陸軍外ノ官吏及其ノ屬員ニシテ所屬官衛ノ長官ヨリ照會アル者ニハ場合ニ依リ陸軍運送船ニ便乘ヲ許スコトヲ得

第十條 運輸部ハ第一條ノ輸送ニ在リテハ輸送券ヲ船長ニ、第二條ノ輸送ニ在リテハ乘船券及證明書ヲ、第八條第九條ノ輸送ニ在リテハ乘船券ノミヲ本人又ハ引率者ニ交付スルモノトス

前項輸送券乘船券及證明書ハ別紙雛形ニ據リ運輸部ニ於テ調製ス

第十一條 第八條及第九條ノ便乗者ハ船内食料及要スレハ乗船上陸ノ費用ヲ自辨スルモノトス
前項ノ船内食料類ハ運輸部本部長之ヲ定ム

第十二條 乗船者及便乗者ノ携帶スル荷物ノ定量ハ運輸部本部長ノ定ムル處ニ據ル但シ商品ハ携
帶スルヲ許サス

第十三條 乗船者及便乗者ハ船内ニ在リテハ監督將校輸送指揮官及船長ノ指示ニ服從シ且ツ船内
諸規則ヲ遵守スヘシ

第十四條 臺灣、樺太、韓國、關東及北清ニ在ル部隊附准士官以上高等文官及被服自辨ノ下士官雇
員傭人等ノ被服其ノ他私用品ヲ内地ヨリ追送セントスルトキハ木八内地ニ於ケル補充擔任部隊
又ハ運輸部ニ現品ヲ送付シ其ノ輸送ヲ委託スルコトヲ得但シ官衙附ノモノニ送付スルモノハ運
輸部ニ之ヲ送付スヘシ

運輸部以外ノ部隊ニ於テ前項ノ追送品ヲ受領シタルトキハ取纏メ其ノ品目員數表ヲ添ヘ之ヲ運
輸部ニ送付スヘシ但シ部隊ヨリ搭載地迄ノ運搬費ハ其ノ部隊ノ支辨トス

前項追送品ノ量目ハ高等官ハ一人一回三貫匁以内、判任官ハ二貫匁以内、他ハ一貫匁以内ニ
シテ其追送回數ハ一箇月一回トス

第十五條 臺灣、樺太、韓國、關東及北清ニ在ルモノ其ノ不用被服等ヲ還送セントスルトキハ前諸條
ニ準シ各自ニ捆包ヲ爲シ荷札ニ關係部隊號及留守宅ノ住所氏名ヲ明記シ所屬部隊ニ差出シ所屬
部隊ハ成ルヘク之ヲ取纏メ運輸部ヘ還送ヲ委託スヘシ

第十六條 臺灣、樺太、韓國、關東及北清ニ在ル軍隊ニ於テ所要ノ酒保品ヲ内地ヨリ購買セントスル
トキハ各隊長ハ其ノ品目員數量目(購買者アルトキハ其住所姓名等ヲモ)ヲ詳記シ其ノ輸送ヲ運輸部本部長ニ請求
スヘシ

前項酒保品ノ量目ハ別表ニ據ル

第十七條 運輸部ニ於テ前二條ノ輸送品ヲ受領スルトキハ便船毎ニ届先最寄寄港地ニ送付スルモ
ノトス但シ必要アルトキハ捆包ヲ解放シ検査スヘシ

前項陸揚地ヨリ到着部隊ニ至ル迄ノ運搬費ハ其ノ部隊(直接留守宅ニ送ルモノハ自辨)ノ支辨トス

第十八條 輸送物品ハ發送者ニ於テ捆包ヲ堅固ニシ各捆包ニ届先部隊號受領者ノ官氏名其ノ所屬
部隊號發送部隊號發送者ノ住所氏名物品ノ名稱ヲ記シタル木札ヲ固著スヘシ

火藥其ノ他爆發質ノ物品、油紙、油布、生石灰、燐寸等發火質ノ物品及石油、硫黃其ノ他燃焼シ易キ
物品並ニ油紙、塗油シタル布類其ノ他發火ノ虞アル物件ヲ以テ内部ヲ捆包シタルモノハ總テ危
險品トシテ取扱ヒ其ノ捆包ハ蘆包ニ在リテハ赤繩ヲ以テ縱横ニ圍繞シ箱物ニ在リテハ表面ニ太
キ二條ノ朱線(二線ノ間隔ハ)ヲ畫シ且捆包ニハ長サ七寸幅三寸ヨリ小ナラサル赤色ノ標牌四箇
以上ヲ附著シ之ニ危險品タル物品ノ名稱ヲ黑書スヘシ但シ一定ノ制式ニ依リ又ハ外部ヨリ其ノ
内容品ノ性質ヲ明知シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ物品ハ專ラ取扱ニ注意シ安全ニシテ且臨機ノ處置ヲ爲シ易キ船艙ニ搭載スルヲ要ス
貴重品ノ輸送ニハ宰領者ヲ附スルヲ可トス酒保品ノ輸送ニ於テ宰領者ヲ附スルトキハ一名ヲ限
リトス

第十九條 在外軍隊及人馬物件ノ輸送ニ付特ニ規定アルモノハ該規定ニ據ル
(別表)

各隊一箇月酒保物品量目表

隊	區分	量				計
		日用品	飲食品	雜品	品	
歩兵大隊	臺灣	五六〇〇〇	二、一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	二、七六〇〇〇	
	韓國關東樺太	四七五〇〇	一、七九〇〇〇	一五〇〇〇	二、四一五〇〇	

砲兵大隊	砲兵中隊		工兵中隊	輜重兵中隊	基隆要塞砲兵大隊	澎湖島要塞砲兵大隊	鎮海灣要塞砲兵大隊	永興灣要塞砲兵大隊	旅順要塞砲兵大隊
	臺灣	韓國 關東							
三六三〇〇〇	一三六二〇〇〇	九〇〇〇〇	一八一五〇〇〇	七五〇〇〇	二、三九四〇〇〇	一、一九七〇〇〇	七三九〇〇〇	七三九〇〇〇	二、八〇四〇〇〇
二四七〇〇〇	一、二〇二〇〇〇	一三五〇〇〇〇	一、六八四〇〇〇	六〇〇〇〇	一、七六四〇〇〇	九〇六〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、六〇〇〇〇
一五二〇〇〇	一、二〇二〇〇〇	一三五〇〇〇〇	一、六八四〇〇〇	六〇〇〇〇	一、七六四〇〇〇	九〇六〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、六〇〇〇〇
二七〇四〇〇	一、〇八三〇〇〇	八〇〇〇〇	一、四三三〇〇〇	八〇〇〇〇	一、七六四〇〇〇	九〇六〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、六〇〇〇〇
四七〇四〇〇	一、七六四〇〇〇	一、一五〇〇〇	一、四三三〇〇〇	八〇〇〇〇	一、七六四〇〇〇	九〇六〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、六〇〇〇〇
二二一〇〇〇	九〇六〇〇〇	五〇〇〇〇	一、一九七〇〇〇	五〇〇〇〇	一、七六四〇〇〇	九〇六〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、六〇〇〇〇
一四四〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	七三九〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、七六四〇〇〇	九〇六〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、六〇〇〇〇
一四四〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	七三九〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、七六四〇〇〇	九〇六〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、六〇〇〇〇
五五六〇〇〇	二、〇八八〇〇〇	一、六〇〇〇〇	二、八〇四〇〇〇	一、六〇〇〇〇	一、七六四〇〇〇	九〇六〇〇〇	五五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	一、六〇〇〇〇

一 本表ハ臺灣樺太及韓國關東駐屯諸部隊ノ爲メ海上輸送ノ數量トス
 二 韓國關東ノ歩騎砲兵隊ニ在テハ聯隊本部工輜重兵隊ニ在リテハ大隊本部ノ數量ヲ含有ス
 三 本表以外ノ在外諸部隊ニ在リテハ將校以下一人一箇月日用品八百匁 飲食品三百匁 雜品將校一人二五匁以內ノ酒保品ヲ輸送スルコトヲ得
 (輸送券乘船券及證明書並形略ス)

○陸軍第四十七號

馬政局職員タル陸軍現役將校同相當官ハ軍馬補充部本部ノ定員外トス

明治三十九年六月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第四十八號

當分ノ内電信教導大隊ノ要塞砲兵科士官學生ハ教育修了後約一箇月間要塞砲兵射擊學校ニ分遣シ

電燈ニ關スル學術ヲ修習セシム

明治三十九年六月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第四十九號

臺灣樺太清國韓國ニ在ル國隊附下士兵卒ノ兵籍及身上異動ニ關スル取扱ハ陸軍兵籍規則ニ準據スルノ外左ノ各項ニ依ルヘシ

明治三十四年陸軍第六十二號ハ之ヲ廢止ス

明治三十九年六月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 臺灣樺太清國韓國ニ在ル國隊附下士兵卒ノ兵籍ハ之ヲ原隊ニ留メ置キ其ノ階本ハ軍隊手帖ヲ以テ代用ス
- 二 前項下士以下ノ異動ハ本人ヨリ所屬部隊長ニ届出所屬部隊長ハ之ヲ兵籍ヲ備ヘ置ク原部隊長ニ通報スヘシ

〔參照〕

明治三十四年五月十日陸軍第六十二號ハ臺灣守備團隊其他同地ニ奉職ノ將校並同相當官以下ノ兵籍及身上異動ニ關スル取扱方ナリ

○陸軍第五十號

陸軍糧秣廠門司派出所ヲ閉鎖ス

明治三十九年六月三十日

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省達第七十七號

右本籍ヲ橫須賀鎮守府ニ改ム

明治三十九年六月二日

海軍大臣齋藤實

佐世保鎮守府在籍 汽船 歷山丸

○海軍省達第七十八號

佐世保鎮守府在籍

汽 船 國後丸

右遞信省ノ管理ニ移シタルニ付其本籍ヲ除キ且信號符字ヲ廢ス

明治三十九年六月五日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第七十九號

佐世保鎮守府所管泥濘船浮橋丸ニ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十九年六月十一日

海軍大臣齋藤實

G Q B K

浮橋丸

○海軍省達第八十號

五等卒教育規則及五等卒教育要旨左ノ通改ム

明治三十九年六月十三日

海軍大臣齋藤實

五等卒教育規則

第一條 五等卒ハ海兵團ニ於テ教育ス但シ五等看護ハ海兵團及病院ニ於テ之ヲ教育スルモノトス

五等卒ノ教育期限ハ六箇月以内トス

第二條 五等卒入團シタルトキハ海兵團長 勅諭ヲ奉讀シ其ノ大旨ヲ訓諭シ軍人ノ本分ヲ會得セシムヘシ

第三條 海兵團長及病院長ハ本則及教育要旨ニ基キ五等卒教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先チ海軍教育本部長ニ合議スルヲ要ス

海兵團長及病院長ハ五等卒教育主任ヲ定メ細則及教程實施ノ責ニ任セシムヘシ

第四條 海兵團長及病院長ハ五等卒教育ノ進歩ヲ檢スル爲メ便宜小試験ヲ行ヒ且其ノ教育ノ終ニ於テ卒業試験ヲ行フヘシ但シ試験ハ成ルヘク實地ニ就キ之ヲ行フモノトス

試驗ノ及第點數ハ各學科全點數ノ十分三以上 十分四以上 ハヲ得其ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分四以上 五等軍樂生ハトス

小試験得點ハ之ヲ卒業試験得點ニ合算シ卒業試験ノ成績トス

第五條 卒業試験ノ成績ハ海兵團長若クハ病院長之ニ意見ヲ附シテ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移附スヘシ

第六條 卒業試験ニ及第シタル者ハ之ヲ四等卒ニ進マシメ其ノ落第シタル者ハ更ニ之ヲ教育シ六箇月以内ニ進級セシム但シ病院ニ於テ卒業試験ヲ行ヒタル場合ニ於テハ之ヲ海兵團ニ復歸セシメ然ル後之ヲ進級セシム

第七條 五等卒ニシテ技藝優等ナルモノハ所定ノ期間間修業セスト雖臨時試験ノ上之ヲ四等卒ニ進マシムルコトヲ得

五等卒教育要旨

一 五等卒入團シタルトキハ先ツ左ノ諸項ニ就キ嚴格ナル教育ヲ爲スヘシ

一 勅諭奉讀及講話

二 體勢ノ整正

三 上官ノ官氏名武官ノ階級、服制、勳章徽章ノ種類及其ノ起因其ノ他各兵種ノ識別及性能等

四 敬禮式、海兵團内則其ノ他規律ニ關スル須要ノ事項等

五 衣服著裝方、鈞床取扱方及衣囊手箱ニ關スル心得等

右ノ諸項ハ五等卒教育ノ基礎タルヘキモノニシテ教育上極メテ重要ナルカ故ニ時ニ注意シテ之

ヲ教授スヘシ

- 二 五等水兵ニ教授スヘキ學科ハ之ヲ運用術及砲術ノ二科ニ分チ運用術ニ在テハ下級卒トシテ爲スヘキ職務ヲ實地ニ就キ簡單ニ教授シ特ニ重キヲ端舟及艦内事業ニ關スル實務ニ置キ砲術ニ在テハ初ニ陸上ニ於ケル諸操練ヲ主トシ次ニ艦砲ニ關スル事項ニ重キヲ措テ教授シ且彈藥火工品ノ大要ヲ教授スヘシ而シテ銃隊操練ニ於テハ分隊下士以下ノ職務ノミヲ教授シ且小銃射擊教範ニ掲クル彈數ヲ射擊セシム
- 五等水兵ニハ前項ノ外別科トシテ讀書習字、作文、登橋方、體操、和船漕方、塗具使用法大要、手旗信號、水雷術、裝填術、命令傳達法及水泳等ヲ教授スヘシ
- 三 五等軍樂生ニ教授スヘキ學科ハ之ヲ實際的音樂及學理的音樂ノ二科ニ分チ實際的音樂ハ成ルヘク各人ノ性能ニ應シテ之ニ適スル如キ樂器ニ就キ教育スルモノニシテ教育中之ニ適セスト認メタルトキハ他ノ樂器ニ更ムルコトヲ得
- 五等軍樂生ニハ別科トシテ體操、徒手教練、船體船具ノ重ナル名稱、端舟漕方、和船漕方、手旗信號、命令傳達法及水泳等ヲ教授ス
- 四 五等木工ニ教授スヘキ學科ハ工業、潛水術及武科ノ三科ニシテ工業ニ在テハ艦内ニ於ケル小工業ニ從事シ得ヘキヲ度トシ木挽及木削方等ハ成ルヘク熟練ノ域ニ達セシメ潛水術ハ職務上甚重要ナルカ故ニ勉メテ之ヲ練習シ五尋以上ノ水底事業ニ從事シ得ヘキヲ要ス又武科ハ木工トシテ修得スヘキ範圍内ニ於テ適當ノ科程ヲ設ケ之ヲ教授スヘシ
- 五等木工ニハ別科トシテ圖學、讀書、習字、作文、算術、體操、船體船具ノ重ナル名稱、端舟漕方、和船漕方、命令傳達法及水泳等ヲ教授スヘシ
- 五 五等機關兵ニ教授スヘキ學科ハ機關術、工業及武科ノ三科ニ分チ機關術ニアツテハ拍用機關ノ大要並ニ下級卒トシテ職務上必要ナル事項ヲ實地ニ就キ簡單ニ教授シ特ニ重キヲ汽缸ニ關

六

スル作業ニ置キ工業ニ在テハ艦内ニ於ケル小工業ノ補助ヲ爲シ得ヘキヲ度トシテ之ヲ練習セシメ武科ニ在テハ機關兵トシテ修得スヘキ範圍内ニ於テ適當ノ科程ヲ設ケ之ヲ教授スヘシ

五等機關兵ハ別科トシテ讀書、習字、作文、體操、船體船具ノ重ナル名稱、端舟漕方、和船漕方、手旗信號、水雷術、命令傳達法及水泳等ヲ教授スヘシ

七

五等看護ニ教授スヘキ學科ハ解剖學、生理學、藥劑學、綳帶術、看護術及患者運搬法及武科等ニシテ患者運搬法及武科ハ海兵團ニ於テ之ヲ教授シ他ハ悉ク病院ニ於テ教授ス綳帶術及看護術ハ看護ノ職務上最モ重要ナルカ故ニ修學期中ニ於テ勉メテ實際ニ職務ヲ遂行シ得ヘキ程度ニ達セシメ武科ニアツテハ看護トシテ修得スヘキ範圍内ニ於テ適當ノ科程ヲ設ケ之ヲ教授スヘシ

五等看護ニハ別科トシテ讀書、習字、作文、算術、體操、船體船具ノ重ナル名稱、端舟漕方、和船漕方、命令傳達法及水泳等ヲ教授スヘシ

八

五等卒ニハ前諸項ニ記載スル外尙ホ艦團隊下士卒教育規則ニ依リ精神教育ヲ施スヘシ

ヲ教授スヘシ

○海軍省達第八十一號
海軍四等木工練習生規則左ノ通定ム

明治三十九年六月十三日

海軍大臣齋藤實

海軍四等木工練習生規則

第一條 海軍四等木工練習生ハ海兵團ニ於テ教育スルモノトス
 第二條 海軍四等木工練習生ハ五等卒教育規則第七條ニ依リ臨時試験ノ上四等木工ニ進級シタル後及五等木工規定ノ教育ヲ終リ四等木工ニ進級シタル後海兵團長之レヲ命スルモノトス
 第三條 海兵團長ハ本則ニ基キ海軍四等木工練習生教育ニ關スル細則及教育ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先キ海軍教育本部長ニ合議スルヲ要ス

第四條 海兵團長ハ海軍四等木工練習生教育主任ヲ定メ細則及教育實施ノ責ニ任セシム可シ
 第五條 海軍四等木工練習生ノ教育期限ハ約六箇月ニシテ其ノ教育科目左ノ如シ

- 一 工業
- 二 潛水術
- 三 武科

別科

- 一 端舟和船漕方、水泳
- 二 讀書、作文、算術、圖學

第六條 海兵團長ハ海軍四等木工練習生教育ノ進歩ヲ檢スル爲メ便宜小試験ヲ行ヒ且其ノ教育ノ終リニ於テ卒業試験ヲ行フヘシ但シ試験ハ成ルヘク實地ニ就キ之ヲ行フモノトス
 試験ノ及第點數ハ各學科全點數ノ十分三以上ヲ得共ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分四以上トス小試験點數ハ之ヲ卒業試験ニ合算シ卒業試験ノ點數トス
 第七條 卒業試験ニ及第シタル者ハ直ニ補缺員ニ編入スヘシ
 第八條 卒業試験ニ落第シタル者ハ更ニ之ヲ教育シ六箇月以内ニ卒業セシム

第九條 卒業試験ノ成績ハ海兵團長之ニ意見ヲ附シテ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

第十條 海軍四等木工練習生ニシテ技藝優等ナル者ハ所定ノ期間修業セスト雖臨時卒業試験ヲ行ヒ及第シタル者ハ直ニ補缺員ニ編入スルコトヲ得

○海軍省達第八十二號
 海軍軍樂練習生規則中左ノ通改正ス

明治三十九年六月十三日

海軍大臣齋藤實

第三條中四等軍樂生ニ進級シタルノ下者ニ就キ「後」ト改ム

第六條中第一項ノ「六箇月」ヲ「十箇月」ト改メ學理ノ部ニ軍樂教科書第二編ヲ加フ

第二項中學理ノ部ニ軍樂教科書第三編ヲ加フ

〔參照〕

- 海軍省達第五十九號海軍軍樂練習生規則(明治三十九年六月二日)抄録
- 第三條 普通科練習生ハ五等卒ノ教程ヲ經テ四等軍樂生ニ進級シタル者ニ就キ横須賀海兵團長之ヲ命ス
- 第六條 各練習生ノ教程ハ左ノ如シ
 - 一 普通科練習生 六箇月
 - 音 樂 各國頌歌ノ類、軍樂行進曲、舞蹈曲ノ類、歌劇樂曲ノ類、踏雜歌樂曲ノ類
 - 學 理 軍樂教科書第一編
 - 二 高等科練習生 六箇月
 - 音 樂 軍樂行進曲、舞蹈曲ノ類、歌劇樂曲ノ類、踏雜歌樂曲ノ類
 - 學 理 軍樂教科書第二編
 - 三 特別練習生 八箇月
 - 音 樂 軍樂行進曲、舞蹈曲ノ類、歌劇樂曲ノ類、踏雜歌樂曲ノ類、奏樂指揮法等
 - 學 理 軍樂教科書第三編

○海軍省達第八十七號
海軍職工規則第一條中「海軍修理工場」ノ下ニ「旅順口海軍工作廠、大連灣海軍工作部」ヲ、第十二條中「他ノ廠、所、場」ノ下ニ「部」ヲ、第十四條中「各廠、所、場」ノ下ニ「部」ヲ追加ス
但シ本達ハ明治三十九年六月二十一日ヨリ施行ス

海軍大臣齋藤實

〔參照〕

海軍省達第六十三號海軍職工規則(明治三十七年三月二十七日)抄録
第一條 本則ニ於テ職工ト稱スルハ海軍工廠、海軍造兵廠、海軍下燭火藥製造所及海軍修理工場ニ於テ使役スル職工ヲ謂フ
第十二條 前條ニ依リ職工ヲ解僱シタルトキハ他ノ廠、所、場ニ其事故年齡、族籍及姓名ヲ通知シ再之ヲ職工ニ採用セス但シ
前條第四號乃至第六號ニ該當スル者ニシテ六箇月ヲ經過シタルトキハ之ヲ採用スルコトアルヘシ
第十四條 本規則ニ關スル施行細則ハ各廠、所、場長之ヲ定メ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

各官廳

本月十一日ヨリ來ル 九月十日マテ 諸官員暑中休暇ヲ賜フ 但明治七年 月第八十四號達ノ 通心得

明治三十九年七月十日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

〔參照〕

太政官第八十四號達(明治七年七月三日)
本月十一日ヨリ九月十日迄諸官員休暇ヲ賜候條各員申合御用差支無之權可致尤賜暇中旅行ノ儀モ 被差許候間其行先可届出
此旨相達候事
但各廳共長官ヨリ御用ノ都合見計休暇可申達事

○宮内省達甲第八號

御料局甲府支廳ヲ世キ 位置並ニ管轄區域左ノ通相定メ 明治三十九年八月一日ヨリ施行ス

位置 山梨縣甲府市
管轄 甲斐國

明治三十九年七月十九日

宮内大臣子爵田中光顯

奉 勅

○宮内省達甲第九號

宮内省官制第三十四條中御料局理事「四人」ヲ「五人」ニ改メ 明治三十九年八月一日ヨリ施行ス

明治三十九年七月十九日

宮内大臣子爵田中光顯

奉 勅

○陸軍第五十一號

在滿洲在樺太軍用通信所ト本邦及韓國間並滿洲及樺太各軍用通信所相互間ニ發著スル軍事電報取扱方ニ關スル明治三十七年陸軍第五十八號同年滿密發第六〇七號及明治三十八年滿密發第一〇二號並日韓滿間軍事電報取扱方ニ關シ遞信省ト特ニ協約セシ諸規定ヲ廢止シ更ニ別紙ノ通相定メ明治三十九年七月二十日ヨリ實施ス

明治三十九年七月六日

陸軍大臣寺內正毅

(別紙)

軍用通信所發著軍事電報取扱規程

- 第一條 在滿洲在樺太軍用通信所ト本邦及韓國トノ間ニ發著シ若ハ在滿洲軍用通信所ト在樺太軍用通信所トノ間ニ發著スル陸海軍部内ヨリ發スル電報ハ本規程ニ據リ之ヲ取扱フヘシ
- 第二條 在滿洲軍用通信所ト本邦及在樺太軍用通信所トノ間ニ發著スル軍事電報ハ佐世保大連線ヲ經由セシメ該線不通ノ場合ニハ韓國ヲ經由セシムルモノトス
- 第三條 軍用通信所ニ發著スル軍事電報料金ハ其經由線路ノ如何ヲ問ハス本邦内地電報料金同様トシ特ニ托送料金ヲ徵セサルモノトス
- 但シ本邦内地ニ於ケル托送料ニツキ特ニ協約シアルモノハ當分現在ノ儘トス
- 第四條 公衆電報ヲ取扱ハサル軍用通信所ニ發著スル軍事電報ハ公衆電報ヲ取扱フ最近軍用通信所ノ發著信トシテ托送ノ例ニ依リ取扱フモノトス
- 第五條 軍用通信所ヨリ發スル軍事電報料金ハ專變等已ムヲ得サル場合ノ外總テ郵便切手ヲ以テ前納スルモノトス

第六條 軍事以外ノ電報ト雖陸海軍官憲ノ特許ヲ受ケタルモノハ公衆電報ヲ取扱ハサル軍用通信所ニ於テ第四條ニ準シ之ヲ取扱フ但シ該電報ニハ局内心得ヲ以テ「ムフ」ト傳送シ猶公衆電報ヲ取扱ハサル軍用通信所發ノモノニアリテハ局内心得ニ「料金未納」ト添送シ原書及件名簿ニハ其料金額ヲ朱書スヘシ

前項料金未納ノ局内心得アル電報ノ料金ハ著信局所ニ於テ受信人ヨリ之ヲ徵收スルモノトス

第七條 本規程ニ規定ナキモノハ在滿洲軍用通信所發著公衆電報及在樺太軍用通信所發著公衆電報ニ關スル一般ノ規程ヲ準用ス

○陸軍第五十二號

陸軍運輸部本部兵庫出張所ヲ神戸出張所ト改稱ス

明治三十九年七月七日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五十三號

三八式及三十年式步兵銃制式中銃劍帶革及劍蓋ヲ削除ス

但シ其取扱ニ關シテハ左ノ通心得ヘシ (心得書略ス)

明治三十九年七月二十日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五十四號

明治三十八年十二月入隊ノ主計候補生ハ來九月十一日陸軍經理學校ヘ入校セシム

明治三十九年七月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省第八十八號

海軍戰時旅費規則第七條ニ左ノ但書ヲ追加ス

明治三十九年七月

陸軍省陸軍第五十二號

陸軍第五十三號

陸軍第五十四號

海軍省第八十八號

但シ時宜ニ依リ戰時給與規則實施中本規則ノ施行ヲ停止スルコトアルヘシ
明治三十九年七月三日
海軍大臣齋藤實

〔參照〕

海軍省達第百三十二號海軍戰時旅費規則(明治三十三年七月五日)抄錄
第七條 本規則施行停止ノ期日ハ戰時給與規則ノ該期日ニ依ル

○海軍省達第八十九號

海軍軍人軍屬以外ノ者ヲ内地ヨリ關東州樺太島北緯五十度以南ノ地及在韓國海軍ノ部隊官衙所在地ニ旅行セシメ又ハ之ヨリ内地ニ旅行セシムルトキ竝關東州內樺太島北緯五十度以南ノ地內及在韓國海軍ノ部隊官衙所在地內ヲ旅行セシメ又ハ其ノ各地間ヲ旅行セシムルトキハ當分ノ内明治三十一年達第四十九號中第一項及第四項ニ當ル者ヲ除クノ外海軍内國旅費規則ニ準據シ旅費ヲ支給ス
前項ノ旅費ハ左ノ區別ニ從ヒ關東州內樺太島北緯五十度以南ノ地內及在韓國海軍ノ部隊官衙所在地內又ハ其ノ各地間ニ於ケル旅行ニハ海軍内國旅費規則中臺灣ノ定額、其ノ他ノ旅行ニハ同規則中内地ノ定額ヲ支給ス但シ測定ナキ陸路ニ在リテハ車馬料ノ實費ヲ支給ス
一 華族從六位以上、勳六等以上ノ者並委任官待遇者 旅費等級 三等
二 正七位以下、勳七等以下ノ者並判任官待遇者 旅費等級 五等
三 無位無勳ノ者 旅費等級 七等
四 海軍ニ使役スル職工人夫 旅費等級 第五表 八等
前項第三號ニ當ル者ニシテ特ニ旅費等級ノ變更ヲ要スル者アルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ
内地工廠ヨリ在關東州工廠ニ轉セシムル職工ニハ海軍大臣ノ認許ヲ經テ雜費トシテ二十圓以内ヲ支給スルコトヲ得

在韓國海軍ノ部隊官衙又ハ其ノ所在地ニ關セサル用務ヲ以テ韓國ニ旅行セシムルトキハ本規定ヲ適用セス但シ在韓國海軍ノ部隊官衙又ハ其ノ所在地ニ關スル用務ト之ニ關セサル用務トヲ兼テ韓國ニ旅行セシムルトキハ該部隊官衙所在地發着ノ日ヲ以テ區分シ其ノ日ノ日當及食卓料ハ明治三十一年達第四十九號ニ依リ外國ノ額ヲ支給ス
本達ハ明治三十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年七月三日
海軍大臣齋藤實

○海軍省達第九十號

明治三十七年達第六十號ノ規定ハ韓國、關東州及樺太島北緯五十度以南ノ地各沿岸測量ノ爲出張スル者ニ之ヲ準用ス
本達ハ明治三十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年七月三日
海軍大臣齋藤實

○海軍省達第九十一號

明治三十八年達第三十三號ハ本年七月三十一日限り之ヲ廢止ス
明治三十九年七月三日
海軍大臣齋藤實

〔參照〕

明治三十八年七月七日海軍省達第三十三號ハ水路測量ノタメ韓國及清國盛京省ニ出張スル者旅費支給ノ件ナリ

○海軍省達第九十二號

海軍監獄領置物品取扱手續左ノ通定ム
明治三十九年七月九日
海軍大臣齋藤實

- 一 海軍監獄ニ於テ領置シタル物品ハ別紙書式ノ帳簿ニ記入シ其ノ出入ヲ明ニスヘシ
 - 二 海軍監獄則第十八條ニ依リ沒收シタル物品ハ其ノ事由ヲ記シ海軍監獄長(東京平法會議ニヨリ經理部(東京平法會議)ニ在テハ經理部)通常物品會計官吏ニ送付スヘシ
- 本達ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

(書式略ス)

○海軍省第九十三號

沒收及領置金銀出納規程左ノ通定

明治三十九年七月九日

海軍大臣齋藤實

沒收及領置金銀出納規程

- 第二條 沒收ノ裁判アリタル後定期間保管ヲ要スル金銀及海軍監獄規則ニ依リ領置スル金銀ノ出納ハ本規程ニ依ル
- 第三條 沒收及領置金銀ノ出納監督官及出納官吏ハ第二表ニ依ル
- 第四條 出納官吏ハ現金出納簿ヲ設ケ其ノ受拂ヲ登記スヘシ
- 第五條 出納官吏現金ヲ出納スルトキハ第三表現金受入票、現金拂出票ニ出納監督官ノ檢印ヲ受クルコトヲ要ス
- 第六條 現金拂出ノトキハ受取人ヲシテ記名調印セシムルコトヲ要ス但シ受取人記名調印スルコト能ハサル場合ニハ其ノ理由ヲ記載セル出納官吏ノ代用證ヲ以テ支出スルコトヲ得
- 第七條 出納官吏ハ年度經過後一箇月以内ニ現金出納計算書及第二表書式歳入歳出外沒收及領置金銀保管任證書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ下検査官吏ニ出タスヘシ

出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ依リ自身計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ臨時命セラレタル官吏計算書ヲ調製シ交替又ハ命ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 出納官吏天災其ノ他ノ事故ニ依リ保管ノ金銀ニ損失ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ出納監督官ニ報告シ出納監督官ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ當該經理部ヲ經テ東京平法會議之ヲ海軍大臣ニ具中スヘシ

此ノ場合ニ於テ出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト思料シタルトキハ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ下検査官吏ニ出スヘシ

第七條 沒收金及刑事被告人、懲治人ノ領置金ハ二十二年大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則ニ依リ金庫ニ委託シ囚徒ノ所持金ハ二十六年大藏省令第十九號預金取扱規程ニ依リ預金トシ其ノ證書ヲ以テ保管スルモノトス但シ刑事被告人、懲治人ノ領置金ハ場合ニ依リ委託セサルコトヲ得

第八條 沒收金銀ニシテ其ノ保管期限ヲ經過シタルモノハ科目、金員、事由等ヲ詳記シタル歳入金納付票ヲ添ヘ之ヲ當該收入官吏ニ納付スヘシ

海軍監獄則ニ依リ沒收シタル領置金銀ニ付キ亦同シ

第九條 現金出納計算書ノ書式及證明ニ關スル事項ハ會計検査院ニ於テ定ムルトコロノ歳入歳出外現金證明規程ニ依ル

第十條 本規程ニ要スル帳簿及證憑書類ノ様式ハ第三表ニ依ル

附則

本達ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一表

沒收及領置金錢出納監督官	出納官吏
出納監督官	出納官吏
東京軍法會議上席主理	東京軍法會議錄事
海軍監獄長	海軍監獄書記
備考 出納官吏ニハ辭令書ヲ附與ス	

第二表(用紙美濃十三行野紙)

保管區分	受部		拂部		科目
	越前受入 出納官吏トシテ 受付トス	計	下渡 雜渡 納入 出納官吏トシテ 受付トス	何ヶ 計	
現金					沒收金
現金庫保管					同
基金庫保管					領置金
合計					同

明治何年度歲入歳出外沒收及領置金保管區分書面之通相違無之候也

明治何年何月何日

經理局長 宛

東京軍法會議(海軍監獄)
沒收及領置金錢出納官吏官 姓名

備考 拂下部下渡ノ欄ニハ放棄ニ依リ還付シタルモノト請願ニ依リ債權者ノ指名人ニ下渡セシ分ヲ掲ク
雜渡ノ欄ニハ請願ニ由ル稅借書ノ郵便稅其ノ他ヲ掲ク
在監人死亡死體引取人へ下付セシカ如キモノハ其ノ事項ノ一欄ヲ設ケ掲クルモノトス

(第三表簿)票書式略ス

海軍省達第九十四號

明治三十九年十一月十一號沒收及領置金錢物品出納規程ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ廢止ス

明治三十九年七月九日

海軍大臣齋藤實

海軍省達第九十五號

鎮守府會計監督規程中左ノ通改正ス

海軍大臣齋藤實

明治三十九年七月九日

第十條 經理部長ハ艦船三箇月以上ノ航海ヲ爲ストキハ發航前及歸港後、軍港内ニ在リテ役務ヲ解カレタルトキハ其ノ際、軍港外ニ在リテ役務ヲ解カレタルトキハ歸港後ニ於テ會計ノ實況ヲ検査スヘシ

(參照)

海軍省達第三百三十五號鎮守府會計監督規程(明治三十年十月十四日)抄録
第十條 經理部長ハ艦船軍港内ニ在テ役務ヲ解カレタルトキ若クハ三箇月以上ノ航海ヲ爲ストキハ其ノ發航前及歸港後ニ於テ會計ノ實況ヲ検査スヘシ

帝國鐵道官署現金出納證明規程

- 第一條 帝國鐵道及同用品資金會計規則ニ依リ出納官吏ノ證明スヘキ現金出納計算書ハ別記書式ニ據リ調製シ翌月十五日以内又交替ヲ爲シタルトキハ其交替後十五日以内ニ提出スヘシ
- 分任出納官吏及出納員特ニ其計算ヲ證明スルトキハ主任出納官吏ヲ經テ提出スヘシ
- 第二條 左ノ事項ハ現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明書ヲ添附スヘシ
 - 一 借入金ヲ受入レタルトキ又ハ之ヲ返還シタルトキハ各其金額
 - 二 他ノ出納官ヘ送金シ又ハ送金ヲ受ケタルトキハ其氏名及金額
 - 三 會計規則第八十八條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其金額事由
 - 四 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由
 - 五 殘高ニシテ後任官吏又ハ他ニ引繼キタルモノアルトキハ其事由
- 第三條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ
 - 一 金庫ニ拂込ミタルモノ他ノ出納官吏ニ引繼キタルモノ及ヒ債主ニ拂渡シタルモノハ各其領收證書
 - 二 金庫ニ供託シタルモノハ當該上官又ハ金庫ノ保證書
 - 三 歳入歳出外ノ現金ヲ受入レタルモノハ命令書又ハ決議書
- 第四條 前條ノ證憑書類ハ受入拂出ニ大別シ計算書ニ掲グル事項毎ニ區分編纂シ其表紙ニ金額ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ
- 第五條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ現金出納計算書及證憑書類ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ
- 第六條 下検査書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 現金出納計算書ト現金出納簿トノ符合及殘額現存ノ保證

- 二 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額事由
- 第七條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

(別記)

明治何年度
何年何月分
現金出納計算書

一 計算書ヲ受授スルモノハ其年月日ヲ本書ニ記載スヘシ
 一 計算書用紙ハ製沙引厚質美濃紙ニ折用非左側ニ曲尺一寸餘ノ殺代ヲ存スヘシ
 一 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ和記脱字等ニア訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

冊何
何冊
書々
憑何
證何

名
廳

摘要	受 高		拂 高		備 考
	圓	角	圓	角	
定定金外	0		0		
勘勘安出	0		0		
本益品	0		0		
家收用納	0		0		
計高合計	0		0		金庫保管額若干
越境總	0		0		手許現金若干

明治何年度何年何月分現金出納計算証明候也
 職 官 氏 名 印
 會 計 檢 査 院 長 宛
 年 月 日

○會計検査院達第四號
 韓國ニ於ケル鐵道出納官吏ノ現金出納證明ハ明治三十九年七月會計検査院達第三號帝國鐵道官署現
 金出納證明規程ヲ準用ス
 明治三十九年七月三十一日
 會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎

明治三十九年七月 會計検査院第四號

(本欄ハ收入滞額ト金庫領收滞額ト差違アルトキ最終徴収計算書ニ付スヘシ)

摘 要	金 額		備 考
	圓	銭	
出納簿並年度五月三十一日迄 現金公米簿	0		前何箇ハ何々ニ出リ何箇ハ何々ニ出リ初公米簿 何年何月日据置認許ノ分
出納簿並本年度繰入ノ何年度繰 入トシテ年度五月三十一日迄ニ 取掛込額	0		
何々々 計	0		
出納簿並何年度繰入ノ本年度繰 入トシテ年度五月三十一日迄 ニ取掛込額	0		
何々々 計	0		
翌年度五月三十一日迄金庫ノ取 掛滞額	0		

摘 要	確 定 額			取 入 滞 額		
	前月迄	本 月	計	前月迄	本 月	計
	圓 銭	圓 銭	圓 銭	圓 銭	圓 銭	圓 銭
資本 勘 定						
何々(款)						
何々(項)						
何々(目)	0	0	0	0	0	0
何々	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0
何々(項)						
何々(目)	0	0	0	0	0	0
何々	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0

於テ收療スヘシ但シ廣島衛戍病院ノ患者多數ナル場合ニ於テハ大阪衛戍病院ニ收容スルコトヲ得

第三條 駐節地陸軍病院入院患者ニシテ内地衛戍病院ニ運送ノ必要アルトキハ當該病院長ハ病床日誌ハ該部隊名ヲ記入スヘシ之ヲ運送シ若ハ運送ノ目的ヲ以テ駐節地ニ於ケル他ノ病院ニ轉送シ患者ノ所屬部隊長ニ通報スヘシ但シ駐節地ニ於ケル他ノ病院ニ轉送シタル患者ニ在リテハ駐節地港灣出發ノ日ヲ駐節地ニ於ケル最後ノ收容病院長ヨリ所屬部隊長ニ通報スルモノトス

運送途中ニ在ルモ駐節地港灣出發前病症輕快シ内地ニ運送ノ必要ナキニ至リタル者アルトキハ駐節地ニ於ケル最後ノ收容病院長ヨリ患者ノ所屬部隊長及最初ノ收容病院長ニ通報シ本人ヲ所屬部隊ニ復歸セシムヘシ

患者ノ所屬部隊長前二項ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ所管長官ニ報告スヘシ
第四條 運送患者中被服官給者ニ在リテハ其ノ時服給與令ニ定メテ運送ノ際所屬部隊ヨリ受領シ患者ト共ニ内地衛戍病院ニ送致スルモノトス

第五條 運送患者中下士兵卒ハ駐節地ノ港灣出發ノ日ヲ以テ駐節地ニ於ケル部隊ノ所屬ヲ脱シ同時ニ内地ニ在ル原部隊ノ所屬ニ移ルモノトス但シ内地ニ原部隊ナキ者ハ内地衛戍病院ニ收容ノ後當該病院ノ所管師團長ニ於テ所屬部隊ヲ指定スヘシ其ノ所屬移動ノ限界ハ駐節地港灣出發ノ日トス

運送ノ監獄病囚モ前項ニ據リ所屬移動スト雖其ノ囚籍ハ收容シタル病院所在地監獄ニ移ルモノトス

第六條 内地衛戍病院ニ於テ下士兵卒ノ運送患者ヲ收容シタルトキハ衛戍病院長ハ其ノ駐節地所屬部隊官等級、氏名、病名、駐節地港灣出發ノ日及内地衛戍病院ニ收容ノ日ヲ内地ノ原師團司令

部師團長ニ於テ所屬ヲ指定シタル者ハ該部師團長又師團長所管外ノ者ハ原所屬部隊ニ通報スヘシ但シ編制上定員外トナルトキハ所管長官ヨリ陸軍大臣ノ區處ヲ受クヘシ

運送セラレタル准士官以上及文官ニ在リテハ衛戍病院長ハ前項ニ掲グル事項ヲ所管師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第七條 運送セラレタル准士官以上及文官ニシテ治療ノ未現在ノ職務ニ堪フルニ至リタルトキハ衛戍病院長ハ所管師團長ニ稟申シ師團長ハ其ノ所屬部隊ニ復歸ヲ命シ之ヲ陸軍大臣ニ報告シ且本人ノ所管長官駐節地ニ所管長官ニ通報スヘシ但シ病症ニ依リ職務ノ轉換ヲ要スル者ニ在リテハ師團長ハ附表様式ニ依リ調査シタル狀況ヲ陸軍大臣ニ具申シ其ノ區處ヲ受クヘシ

第八條 運送セラレタル准士官以上及文官ニシテ特ニ後任者ヲ速ニ補充スル必要アルトキハ所管長官ハ理由ヲ具シ順序ヲ經テ其ノ命課替ヲ稟申シ同時ニ本人ヲ收容スル内地衛戍病院所管師團長ニ通報スヘシ

第九條 運送セラレタル下士兵卒ニシテ現役、常備後備役若ハ永久服役ニ堪ヘスト認ムルトキハ病院長ハ診斷證書ヲ作り所管師團軍醫部長ノ審査ヲ經テ之ヲ所屬部隊ハ應兵司令部ニ移送シ其ノ處分ヲ請求スヘシ

憲兵司令官ハ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ陸軍服役條例第六十八條、第百十條若ハ第百三十三條ノ取扱ヲ爲シ其ノ結果ヲ本人ノ所屬隊長ニ告達スヘシ
准士官以上及文官ニシテ發病後六箇月ニ至リ尙ホ恢復ノ徵ナキトキハ病院長ハ所管師團長ニ具

申シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十條 還送セラレタル准士官以上並營外居住ノ下士以下及文官ニ限り病症ニ依リテハ木八又ハ親族ノ願ニ依リ病院長ハ所管師團長ノ認可ヲ經テ轉地若ハ自宅療養ヲ爲サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ治療ニ係ル諸費、糧食、旅費等總テ官給セス

前項ノ者ハ衛戍病院長ノ監督ニ屬スルモノトス

第十一條 雇員 陸軍通譯ヲ含 傭人ニシテ内地衛戍病院收容ノ日ヨリ起算シ二箇月以内ニ痊愈シタル者ハ所屬部隊ニ復歸セシメ共ノ二箇月ニ至リテ痊愈セサル者ハ解雇 以下同シ 但シ情願又ハ病況ニ依リ二箇月以内ニ解雇スルコトヲ得

前項解雇者ニシテ各採用地駐劄地ニ至ラシムル者ノ旅費ハ當該病院ニ於テ支給ス

陸軍以外ノ官廳ノ在職者ヨリ採用シタル雇員傭人ニシテ二箇月ニ至リテ痊愈セサル者アルトキハ病院長ハ病況書ヲ作り陸軍省ニ送付シ其ノ指示ヲ受クヘキモノトス

第十二條 前條ニ據リ解雇スヘキ者アルトキハ病院長ハ其ノ所屬部隊、氏名及病名ヲ記シ所管師團長ニ上申シ師團長ニ於テ解雇スヘシ但シ各部隊ニ於テ採用シタル陸軍省雇員ニ在リテハ解雇ノ上其ノ年月日、所屬部隊、氏名ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ又陸軍省ヨリ配屬シタル雇員ニ在リテハ第七條中職務轉換ヲ要スル者ノ取扱ニ準シ陸軍大臣ノ區處ヲ受クヘキモノトス

第十三條 内地衛戍病院入院中ノ俸給、給料、宅料ハ所屬部隊駐劄地部隊ノ所屬ヲニ於テ之ヲ給シ其ノ他ノ諸費ハ當該病院ニ於テ之ヲ給ス

准士官以上、營外居住下士以下及軍屬ニシテ其ノ傷疾疾病公務ニ基因セサル者ノ糧食並衛戍病院條例第七條ノ治療諸費ハ自辨トス

附則 第十四條 還送患者ハ本規則ニ規定スル内地衛戍病院所在地ニ豫備病院在ル間ハ當該豫備病院ニ收療シ本規則ニ準シテ取扱フモノトス豫備病院復員ノ際衛戍病院ニ引繼タル患者ニツキテモ亦同シ

内地衛戍病院還送患者命課轉換見込報告

駐劄地所屬部隊	内地元所屬部隊	傷病ノ種類及還後ノ状態	勤務ニ堪フル程度	官 等	氏 名
歩兵第何聯隊	歩兵第何聯隊	公務ニ基因シ若ハ公務ニ基因セサル何創又ハ何病ニシテ何々ノ原因ヲ胎シ又ハ何々ノ機能ヲ損ニ妨ク等	内地隊附勤務ニ差支ナシ(隊附勤務ニ堪ヘサルモ官衙又ハ學校ノ勤務ニ差支ナシ)	歩兵少佐	何 某

〔参照〕

明治三十二年一月陸軍第三十三號ハ 臺灣及海外駐劄部隊ヨリ陸島衛戍病院へ航送スル患者ノ取扱方同三十四年十月日陸軍第六十五號ハ 瀋陽駐屯軍、大連運輸通信支部及上海駐屯隊所屬ノ航送患者取扱ノ件ナリ

○陸軍第五十六號

本年十二月更ニ陸地測量部修技所生徒六名ヲ募集ス

但シ募集手續ハ明治三十六年三月陸軍省令第三號陸地測量部修技所生徒募集規則ニ據リ志願者名簿ノ進達ハ九月盡日迄、試験書類ノ進達ハ十月盡日迄トス

明治三十九年八月十六日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五十七號

陸軍平時備人定員表中左ノ通改正ス

明治三十九年八月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍總務部ノ欄ノ次ニ韓國駐節軍司令部ノ欄 臺灣總督府陸軍幕僚ノ欄ノ次ニ關東都督府陸軍部ノ欄 臺灣陸軍法官部ノ欄ノ次ニ東京海兵院ノ欄ヲ左ノ通加フ

韓國駐節軍司令部					一五	三	一八
關東都督府陸軍部					一五	二	一七
東京海兵院	一〇〇				五	二	一〇七

○陸軍第五十八號

陸軍經理學校學生採用規程左ノ通定ム

明治三十九年八月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍經理學校學生採用規程

- 第一條 陸軍經理學校學生ノ採用人員ハ毎年二十名以内ニシテ六月一日入校セシム
- 第二條 各經理部長陸軍省經理局各課長陸軍會計監督部長陸軍經理學校長及清國駐屯軍司令部附主計正ハ附表第一ニ據リ學生候補名簿ヲ調製シ毎年十一月盡日迄ニ陸軍省經理局長ニ進達ス
- 第三條 陸軍省經理局長ハ檢定試験ヲ受ケシムヘキ者ノ名簿ヲ十二月盡日迄ニ陸軍大臣ニ進達シ認可ヲ受ケ之ヲ本人ノ所管長官ニ移牒シ所管長官ハ順序ヲ經テ本人ニ達スヘシ

第四條 檢定試験ハ之ヲ分テ筆記試験口述試験トス其ノ試験格例ハ附表第二ニ依ル

筆記試験ハ毎年三月五日ヨリ口述試験ハ毎年五月二十七日ヨリ施行ス

第五條 試験委員長ハ筆記試験問題ヲ祕封シ之ヲ各經理部長 第一師管內ニ在リテハ陸軍經理學校附主計正ニ送付スヘシ 以下同シニ送付スヘシ 長清國駐屯軍ニ在リテハ同軍司令部

各經理部長ハ受験者ヲ當該經理部所在地ニ集メ同官監視下ニ於テ各地同時ニ筆記試験ヲ行フ 筆記試験終レハ各經理部長ハ答解書類ヲ取纏メ速ニ之ヲ試験委員長ニ送付スヘシ

第六條 試験委員長ハ筆記試験ノ成績ヲ審査シ口述試験ヲ受ケシムヘキ者ヲ定メ之ヲ陸軍經理學校ニ集メ口述試験ヲ行フ

(附表第一)

陸軍經理學校學生候補名簿

官 姓 名	陸 軍 (何) 等	主 計 姓 名	候 補 列 次	何 番
陸 軍 出 身	士官候補生、主計候補生、何兵科 (部) 生徒、一年志願兵、徵兵等	本 業 序 列 校	主計候補生 (監督講習生) (臨時學生) (軍史學生) 何名ノ内何番 (新製檢定入試)	
所 管 職 名	何	年 齡	十一月一日調	
主 計 任 官	何年何月何日 三等主計	職 役	何年何月何日	
賞	何	罰	何年何月何日何々ノ科ニ依リ 取 (輕) 謹慎何日	
主 計 服 役 年 數	十一月一日調 何年何月何日 內隊外隊 何年何月何日 (休) 職何年何月何日			

備	一 受験階級 二 考科表以外ニ注意スル事項
考	一 口述試験ノ際必要アルトキハ筆記試験科目ノ全部或ハ一部ニ付更ニ筆記試験ヲ行フ 二 口述試験ノ際必要アルトキハ筆記試験科目ノ全部或ハ一部ニ付更ニ筆記試験ヲ行フ 三 監督講習生トシテ經理學校ニ入學シ卒業シタル者ニハ數學及外國語學ノ試験ヲ行ハス

(附表第二)

陸軍經理學校學生入學試驗格例

年	記	試	口	備
概テ經理學校生徒教育ノ程度ニ依ル	概テ經理學校生徒教育ノ程度ニ依ル	初等代數、平面幾何、立體幾何、平面三角、文法、原文和譯、和文翻譯	概テ筆記試験ノ程度ニ依リ應用ヲ主トス	一 外國語學ハ英、佛、獨、露、清ノ内受験者ノ希望ニ依リ必ス其ノ一ヲ試験ス 二 口述試験ノ際必要アルトキハ筆記試験科目ノ全部或ハ一部ニ付更ニ筆記試験ヲ行フ 三 監督講習生トシテ經理學校ニ入學シ卒業シタル者ニハ數學及外國語學ノ試験ヲ行ハス

○陸軍第五十九號
濠兵院基金整理規程左ノ通定ム
明治三十九年八月三十日

陸軍大臣寺內正毅

濠兵院基金整理規程

- 第一條 濠兵院基金ハ左ノ二種ニ分チ各別ニ之ヲ整理スルモノトス
- 一 資金
- 二 利子共ノ他ノ果實
- 第二條 濠兵院ニ於テ寄附ヲ受ケタル不動産金錢及有價證券ハ之ヲ資金ニ編入ス
- 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス
- 第三條 資金ニ屬スル物件ヲ賣却セムトスルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 利子共ノ他ノ果實ヲ使用セムトスルトキハ院長ハ其ノ使途及金額ヲ定メ師團長ヲ經テ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 基金ニ屬スル現金ハ大藏省預金ニ寄托シ有價證券ハ保管ノ爲大藏省ニ寄托スヘシ
- 第六條 基金ノ出納ヲ爲サシムル爲濠兵院長ハ其ノ職員ニ出納官吏ヲ命スヘシ
- 第七條 出納官吏ハ基金ニ屬スル金錢物件ノ整理簿ヲ備ヘ出納ノ事實ヲ登記スヘシ
- 第八條 出納官吏ハ毎月基金ニ屬スル金錢物件ノ受拂ヲ記載セル計算書及處分濟報告書ヲ調製シ翌月十日迄ニ師團經理部ヲ經テ陸軍省ニ送付スヘシ
- 第九條 大藏省ニ寄托スル現金及有價證券ハ基金ヲ取扱フ出納官吏ノ名義ヲ以テ預入ルヘシ
- 第十條 基金ニ屬スル金錢物件ノ検査及責任解除ハ所管經理部長ニ於テ之ヲ行フヘシ
- 第十一條 前各條ニ掲グル外基金ニ屬スル金錢物件ノ検査證明其ノ他取扱ニ關シテハ一般委託検査ニ係ル金錢物品ニ關スル諸規定ヲ準用ス
- 第十二條 本規程施行ノ細則ハ濠兵院長之ヲ規定シ師團長ヲ經テ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○海軍省達第百號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「三日月」ノ次ニ「野分」ヲ加フ

明治三十九年七月二十七日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百一號

海軍下士卒身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十九年八月四日

海軍大臣齋藤實

第六條ノ二中「海兵團ニ入團セシムルコトヲ得」ヲ「海兵團ニ入團 海兵團ノ在ラサル地ニ在テハセシムルコトヲ得」ニ改ム

第六條ノ三中「一時附近ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得」ヲ「一時附近ノ海兵團ニ入團 海兵團在ラサル地ニ在テハ一時附近ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得」ニ改ム

第六條ノ四ヲ左ノ通り改ム

第六條ノ四 前諸條ニ於テ入團者 水雷敷設隊等ニノ身上ニ關スル事項ハ之ヲ其本所屬長ニ通知スルモノトス但シ急速ヲ要スルモノハ該海兵團長ニ在テハ敷設隊司令等

〔參照〕

海軍省達第九十七號海軍下士卒身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日)抄録
第六條ノ二、前條ノ場合及其ノ他ノ事由ニ依リ下士卒ヲ所屬ノ艦團其ノ他各部ニ送ルニ方リ事故アリテ出發セシムルコトヲ得
第六條ノ三、下士卒轉勤若ハ出張等ノ爲メニ出發シ途中事故アリテ滞在ヲ要スルトキハ一時附近ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得
第六條ノ四、前諸條ニ於テ入團者ノ身上ニ關スル事項ハ之ヲ其本所屬長ニ通知スルモノトス但シ急速ヲ要スルモノハ該海兵團長之ヲ處分スルコトヲ得

○海軍省達第百二號

艦營需品經理規程第十六條別表艦營需品直買品名表中「蠅捕用網」ノ一廉ヲ加フ

明治三十九年八月八日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百三號

水路圖誌水路測器經理規程中左ノ通改正ス

明治三十九年八月八日

海軍大臣齋藤實

第一條 水路圖誌ト稱スルハ水路圖誌供給表、水路圖誌貸與品表ニ掲ケタル圖誌及其ノ製造材料品ヲ謂ヒ水路測器ト稱スルハ水路測器供給表、水路測器貸與品表ニ掲ケタル測器及其ノ修理材料品ヲ謂フ

第三條第一項中「水路圖誌ハ」ノ下ヲ「備品、消耗品、製造材料品及貸與品トシ水路測器ハ備品、修理材料品及貸與品トス」ニ改ム

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

圖誌製造材料品ハ水路部ニ測器修理材料品ハ水路部及海軍測器庫ニ限り供給ス

○海軍省達第百四號

技術獎勵金品出納規程左ノ通定ム

明治三十九年八月八日

海軍大臣齋藤實

技術獎勵金品出納規程

第一條 技術獎勵金ハ砲術、水雷術、機關術、船匠術、運用術、信號術及之ニ類スル諸技ノ實驗、競技等ノ場合ニ於ケル賞與又ハ物品補給ノ資ニ充ツルモノトス

技術獎勵品ハ前項ノ場合ニ於ケル賞與又ハ其ノ他ノ用ニ供スルモノトス

第二條 技術獎勵金ハ歳入歳出外ノ現金トシテ技術獎勵品ハ通常物品及兵備品外ノ物品トシテ之ヲ取扱フモノトス

第三條 技術獎勵金ノ出納ハ經理局局長、技術獎勵品ノ保管出納ハ經理局通常物品會計官吏ヲ出納官吏トシテ之ヲ指揮監督セシム

第四條 技術實驗機等ノ場合ニ於テ艦團共ノ他ニ交付スヘキ技術獎勵金ノ金額及用途又ハ技術獎勵品ノ品種數量及用途等ハ其ノ都度海軍大臣之ヲ定ム但シ寄附又ハ寄贈スル者ニ於テ特ニ交付スヘキ者ヲ指示セル金品ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第五條 經理局長ハ時宜ニ依リ艦團共ノ他ノ職員ヲ分任官吏トシテ技術獎勵金ノ出納ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該經理部長ヲシテ之ヲ監督セシム

第六條 出納官吏ハ現金又ハ物品出納簿ヲ備ヘ現金又ハ物品ノ收支ヲ登記シ別ニ補助簿ヲ設ケ技術毎ニ口座ヲ置キ其ノ收支ヲ記入シテ受拂ノ顛末ヲ明カニスヘシ

第七條 出納官吏現金又ハ物品ヲ出納スルトキハ別紙書式ノ受入票又ハ拂出票ヲ作り當該出納監督官ノ檢印ヲ受クヘシ

第八條 出納官吏ハ一年度内ニ執行シタル出納ニ對シテ經理局ノ検査判決ヲ受ゾル爲年度經過後二箇月以内ニ出納計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ同局ニ送付スヘシ

出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ交替ノ日ヨリ三十日以内ニ、死亡共ノ他ノ事故ニ依リ特ニ出納計算書ノ調製ヲ命セラレタル官吏ハ命ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 出納官吏天災共ノ他ノ事故ニ因リ保管ノ金銀又ハ物品ニ損失ヲ生シタルトキハ事由ヲ詳

記シ當該出納監督官ニ報告シ出納監督官ハ之ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ此ノ場合ニ於テ出納官吏負擔ノ責ヲ免カルヘキ理由アリト思料シタルトキハ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ經理局ニ送付スヘシ

第十條 出納官吏ニ於テ受領シタル現金ハ之ヲ確實ナル銀行ニ預ケ保管スヘシ

第十一條 出納計算書ノ書式及證明ニ關スル事項ハ會計検査院ニ於テ定ムル所ノ歳入歳出外現金出納證明規程又ハ物品出納證明規程ニ依ル

第 號(明治三十九年八月何月何日)

出納監督官

出納官吏

技術獎勵金(品)受入(拂出)票

一金何程(何々)

(何箇)

金何程(何々)

(何箇)

但シ何々貸與

(何箇)

金何程(何々)

(何箇)

但シ何々

右受入(拂出)ヲ要ス

○海軍省達第百五號

英國ニ於テ製造シ滑國上海ニ於テ組立タル第二號淺喫水砲艦ヲ伏見ト命名セラル

○海軍省達第百六號

軍艦伏見ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十九年八月八日

信號符字

G Q F K

艦名 伏見

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百七號

雇員備入規則別表關東丸ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

明治三十九年八月十四日

海軍大臣齋藤實

		從	俵	給	仕	割	夫	割	煮
伏	生								
見	駒	一	一	八	四	一	一	一	一

○海軍省達第百八號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「野分」ノ次ニ「白妙」ヲ加フ

明治三十九年八月十五日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百九號

艦營用品中左記ノ物件ハ自今艦船附屬ニ編入ス

但シ現在品ハ此際保管轉換ヲナスヘシ

明治三十九年八月十五日

海軍大臣齋藤實

機關長主管備品 管ノ栓 鐵 蓋 及
同 鐵 蓋 及
水 罐 用 蓋

○海軍省達第百十號

艦艇類別等級別表中砲艦ノ欄ニ等ノ下「隅田」ノ次ニ「伏見」ヲ加フ

明治三十九年八月十六日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百十一號

戰利軍艦「ノヴヰヰ」ヲ鈴谷ト命名セラル

明治三十九年八月二十日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百十二號

軍艦鈴谷ニ左ノ通信號符ヲ點付ス

明治三十九年八月二十日

海軍大臣齋藤實

G Q F L 鈴 谷

○海軍省達第百十三號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治三十九年八月二十二日

海軍大臣齋藤實

第十一表中事業服上衣袴ノ欄「二箇年及一年六箇月」ノ傍ニ「潜水艇乗組」ヲ加ヘ第十四表末位ニ左ノ通加フ

夏服	略帽	一箇	潜水艇ニ必要ノ數ヲ準備シ夏期ニ際シ航海若ハ諸機運轉事業ニ從事スルトキニ限リ乗組甲ノ部下士ニ貸與ス
折メス組	一箇	潜水艇乗組一、二等兵曹ニ貸與ス	

○海軍省達第百十四號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「白妙」ノ次ニ「夕凧」ヲ加フ

明治三十九年八月二十九日

海軍大臣齋藤實

○宮内省達甲第十號
爵位局高等官禮服ノ制左ノ通相定

明治三十九年九月十八日

奉勅

爵位局高等官大禮服制

宮内大臣子爵田中光顯

衣		上		地	式	式	
肩章	領章	袖章	後面				前面
七ノ袖伸縮七分五厘ノ鈕釦ヲ以テス	寸五分ト定ムレトモ肩幅ノ長短ニヨリ少シク伸縮ヲ加フ上衣ニ付著スルニ金製五	電紋金線ニ條ヲ付シ内ニ菊模樣ニ枝ヲ起シ後部ニ至リ兩襟相對ス	袖口ヨリ三寸ヲ去リ電紋金線一條ヲ繞ラシ其ノ内毎半面ニ下リ折レ口先キニ及ホシ	及堅菊模樣又其ノ兩端ハ單ニ凸凹金線ヲ付シ所ニ上リ菊模樣三枝ヲ金線シ其ノ兩邊ニ金製五ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦ニ付著ス	深淵紺羅紗	腰下ヲ割キ其ノ兩端ハ單ニ凸凹金線ヲ付シ所ニ上リ菊模樣三枝ヲ金線シ其ノ兩邊ニ金製五ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦ニ付著ス	襟ヨリ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模樣九枝ヲ金線ス
		凸凹金線ニ條ヲ付シ内ニ菊模樣ニ枝ヲ起シ後部ニ至リ兩襟相對ス	袖口ヨリ三寸ヲ去リ凸凹金線ヲ繞ラス他ハ上ニ同シ	腰下ヲ割キ其ノ兩端ハ單ニ凸凹金線ヲ付シ所ニ上リ菊模樣三枝ヲ金線シ其ノ兩邊ニ金製五ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦ニ付著ス	同上	襟ヨリ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模樣九枝ヲ金線ス	

劔	帽			袴	衣		下	
	頂 線 章	右 側 章	製 式		製 式	鈕 式		地 質
大禮服ノ劔ニ同シ	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ム トモ頭ノ大小ニヨリ少シク伸縮ヲ加フ 頂ノ線端ニ白ノ飾毛ヲ付ス	菊模樣一丈上ニ向ケ斜メニ付シ餘邊ニ 徑七分五厘ノ金製五七ノ桐鈕ヲ以テ電 ニ付テス模樣ニ沿フテ桐鈕ニ幅三分ノ電 紋線ヲ際ク其間一吋五厘トス又兩邊ニ紅 白ノ草ノ形ヲ現ハス紅ノ幅二分白ハ四分 兩側ニ幅三分ノ電紋金線ニ條ヲ付シ其ノ 間六分五厘ノ中ニ菊模樣ヲ金線ス	深黒紺羅紗	深黒紺羅紗	金製五七ノ桐徑五分トス距離二寸 胸部ヨリ下及腰圍ニ無紋金線幅三分ノ線 ヲ付ス	白羅紗特別大禮ノトキ用フ	深黒紺羅紗	白羅紗特別大禮ノトキ用フ
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	

圖樣ハ明治二十一年十月八日宮内省達第十九號主務局勅委任官大禮服制ニ同シ
爵位局高等官小禮服制

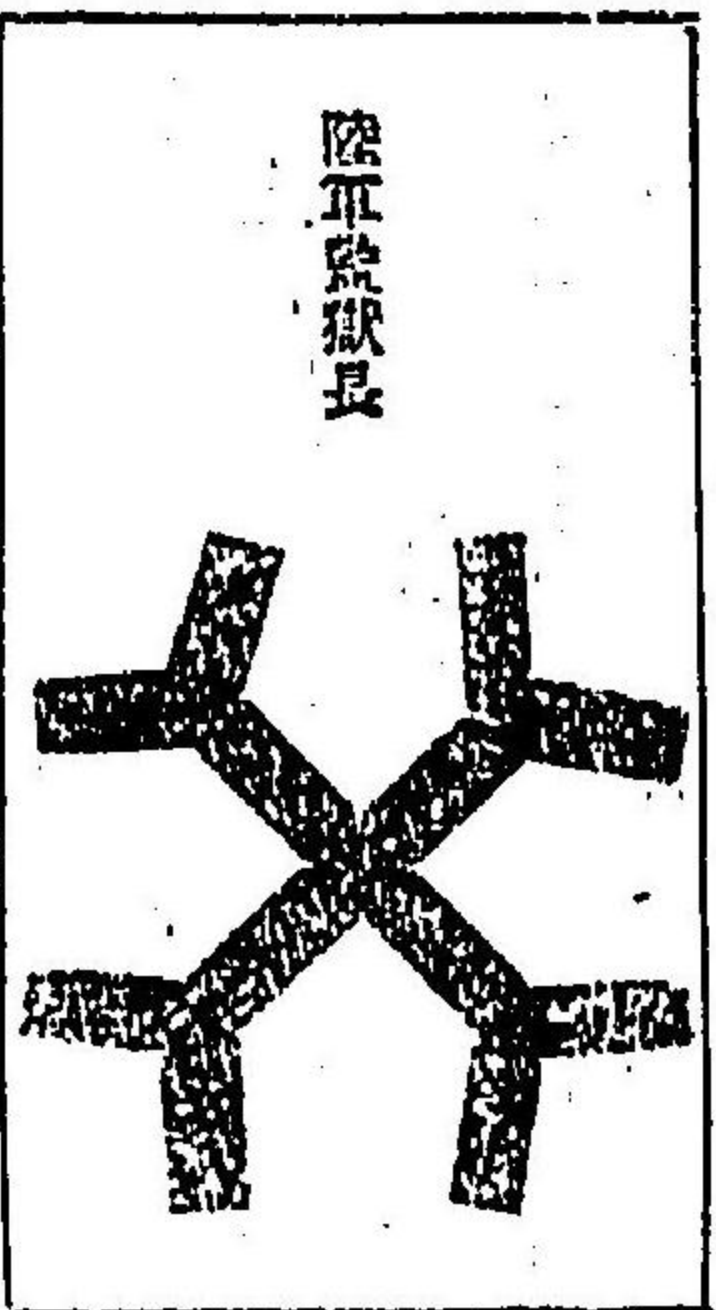
勅 任 官 奏 任 官

劔	帽			袴	衣		下	上
	一 號	二 號	右 側 章		製 式	製 式		
大禮服ノ劔ニ同シ	山形長サ一尺三寸五分頂線ニ幅五分ノ黒毛ヲ 付シ線端ニ沿フテ幅五分ノ金線一條ヲ際ク 上ニ向ヒ斜メニ幅五分ノ金線二條ヲ付ス 其ノ間六分五厘線外ニ紅白ノ草ノ形ヲ現ハ ス紅ノ幅二分白ハ四分トス線内ノ下部ニ 一號鈕ヲ以テ帽ニ付テス	金製五七ノ桐徑七分	金製五七ノ桐徑四分五厘	深黒紺羅紗	深黒紺羅紗	通常ノ製ニ同シ	黒ノ毛天窓絨	深黒紺羅紗
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

圖樣ハ明治二十一年十月八日宮内省達第十九號主務局勅委任官小禮服制ニ同シ

○陸軍第六十號
今回ノ戰役ニ際シ建築セシ假建物ヲ利用シ演習地ニ廠舎等建築工事竝ニ其維持ニ限リ師團長ヲシ

陸軍監獄長



○陸軍第六十五號

明治二十四年陸軍第七十號(入學及分遣派遣者條)中左ノ通改正ス

明治三十九年九月二十八日

陸軍大臣寺内正毅

第三項第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 陸軍大學校及陸軍經理學校學生候補者ノ受験ニ要スル旅費ハ左ノ區分ニ依ル

イ 初審試験又ハ筆記試験ノ爲ニ要スル旅費ハ所屬部隊所管ノ經理部ニ於テ支給スヘシ

ロ 再審試験又ハ口述試験ノ爲派遣ノトキハ所屬部隊所管ノ經理部ニ於テ之ヲ支給シ受験中ノ滞在日當及復歸旅費ハ當該校所管ノ經理部ニ於テ支給スヘシ

○海軍省達第百十五號

艦艇類別等級別表中通報艦ノ欄内「姉川」ノ次ニ「鈴谷」ヲ加フ

明治三十九年九月三日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百十六號

雇員備人規則別表中伏見ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

明治三十九年九月四日

海軍大臣齋藤實

鈴	谷	從	俣	給	仕	制	夫	制	蒸
		一			五		二		一

○海軍省達第百十七號

職工人夫給與規則別表備考第四號中「二日以上ニ及フトキハ」ノ下ニ「糧食給與ノ場合ヲ除クノ外」ヲ追加ス

明治三十九年九月八日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百十八號

海軍港務部處務規程中左ノ通改正ス

明治三十九年九月十三日

海軍大臣齋藤實

第一條第十一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十一ノ二 軍港境域内ニ在ル見張所及信號所ヲ管理スルコト

○海軍省達第百十九號

艦船造修試験検査規則中左ノ通改正ス

明治三十九年九月十五日

海軍大臣齋藤實

第十條 内國私立製造所ニ於テ製造シタル艦艇ヲ其ノ製造所ニ於テ授受スルニハ海軍大臣受領スヘキ鎮守府ヲ定ム鎮守府司令長官ハ該艦艇首席乘員若ハ首席回航委員ヲシテ海軍艦政本部員立

會ノ上製造所長ヨリ之ヲ受領シ海軍大臣ノ指定セル軍港ニ回航セシム
前項ノ艦艇ニ乗員ヲ置カレザルトキハ回航ノ爲乗員ノ増加ヲ要スルトキハ當該鎮守府司令長
官ハ其ノ麾下職員中ヨリ適宜回航委員ヲ編制シ若ハ必要ノ人員ヲ臨時乘組マシムルモノトス

○海軍省達第百二十號
艦營需品經理規程中左ノ通改ム

明治三十九年九月二十日

海軍大臣齋藤實

第九條第二項但書中「及」ノ上ニ「又備品中食器ト他ノ備品ト」ノ十二字ヲ加フ
第十六條別表艦營需品直買品名表中備考記事第一項ヲ「薪、木炭ハ軍港外ニ在ル艦團共ノ他各部ノ
ニ適用ス」ト改ム

〔參照〕

海軍省達第九十三號艦營需品經理規程(明治三十六年九月二十九日)抄録
第九條 鎮守府艦政部長艦團共ノ他各部ノ主管別金額増減ノ必要ヲ認メタルトキハ艦政本部長ニ請求スヘシ
前項ノ場合ニ於テ同一艦團共ノ他各部ノ主管別金額ニ在テハ鎮守府艦政部長之ヲ増減シ艦政本部長ニ報告スヘシ但シ備
品ト消耗品ト及消耗品中石炭ト他ノ消耗品トヲ増減スルコトヲ得ス

○海軍省達第百二十一號

明治三十八年達第七十二號中笠戸丸ノ部ヲ削除ス

明治三十九年九月二十二日

海軍大臣齋藤實

〔參照〕

明治三十八年海軍省達第七十二號ハ笠戸丸信號符字點附ノ件ナリ

○海軍省達第百二十二號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「夕風」ノ次ニ「卯月」ヲ加フ

明治三十九年九月二十五日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百二十三號

治療品經理規程中左ノ通改正シ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス

明治三十九年九月二十八日

海軍大臣齋藤實

第二十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

兵備品會計官吏ハ前項ノ期間ニ於テ兵備品取扱主任ヨリ出シタル消耗療用品若ハ藥品ノ亡失毀
損届書アルトキハ其ノ寫ヲ前項ノ報告書ニ添付シ出スヘシ

(表中改正加除アリ略ス)

○海軍省達第百二十四號

明治三十年達第百一號歳入歳出取扱規程第六十二條ヲ左ノ通改正ス

本達ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス

明治三十九年九月二十八日

海軍大臣齋藤實

第六十二條 軍港内及旅順鎮守府所在各廳、臺灣總督府海軍幕僚、海軍採炭所、海軍煉炭製造所、旅
順海軍工作部大連支部ノ歳入歳出官、委任仕拂命令官ハ此ノ規程ニ據リ歳收額計算書、支出計算
書及其ノ證憑書類ヲ經理局ニ送付スルニハ當該海軍經理部ヲ經由スヘシ經理部長ハ之ヲ調査シ
意見ヲ付シテ經理局長ニ送付スヘシ

○海軍省達第百二十五號

明治三十六年達第百二十四號海軍省所管收入及經費ニ係ル支出收入區分及委任仕拂命令官、炭入
徵收官、收入官吏別表中左ノ通改正ス

本達ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス
明治三十九年九月二十八日

海軍大臣齋藤實

一「常備艦隊」ヲ「艦隊」ニ改ム
一海軍煉炭製造所ノ支出收入ノ次ニ左ノ通追加ス

旅順留守府所在各島同嶺守 府所轄部隊附屬ノ艦隊艦船 艇ノ支出收入	旅順海軍經理部長 支那海軍經理部部長
旅順海軍工作部大連支部 支那海軍工作部大連支部	支那海軍工作部大連 支那書記

○海軍省達第百二十六號

明治三十二年達第二十一號委任仕拂命令官代理規程別表中左ノ通追加ス
本達ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス

明治三十九年九月二十八日

海軍大臣齋藤實

別表中「預頭」ヲ「先任將校」ニ「海軍經理部先任課長」ヲ「海軍經理部先任課長、先任部員」ニ改メ「海
軍煉炭製造所長」ノ次ニ左ノ一欄ヲ追加ス

旅順海軍工作部 大連支部長	支那海軍工作部 支那主計長	大連
------------------	------------------	----

○陸軍第六十六號

陸軍將校同相當官准士官用靴留草拍車及脚絆制式別紙ノ通定ム
但シ明治三十九年陸軍第五號ハ之ヲ廢止ス

明治三十九年十月三十日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍將校同相當官准士官用靴留草拍車及脚絆制式

名	稱	品	質	製	式
長	靴	黑色革 但シ從軍ノトキ及普通ノ勤 務、演習等ニハ自然色革ノ モノヲ用ウルコトヲ得	長 略膝ノ直下ニ至ル	深履製但シ從軍ノトキ及普通ノ勤務、演習等ニ ハ襪上著ハ半靴製トナスコトヲ得	
短	靴	同上			
留草 (拍車用及脚絆用)	拍車	將官同相當官ハ金色金屬上 長官以下ハ銀色金屬		長靴用ニハ留草ヲ用井短靴用ハ挿込トス但シ普通 ノ勤務、演習等ニハ長靴用ニモ挿込トナスコトヲ得	
脚	絆	茶褐絨	卷上クニシテ幅約二寸		
備考	脚絆ハ當分ノ内從前規定ノモノヲ以テ本表ノモノニ代用スルコトヲ得				

〔參照〕

明治三十九年十月二十七日ニ陸軍第五號ハ將校同相當官用靴留草拍車下襟脚絆制式ナリ

○陸軍第六十七號

滿洲韓國樺太駐劄陸軍部隊給與令細則左ノ通定ム

明治三十九年十月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

滿洲韓國樞密院陸軍部陸軍給與令細則

- 第一條 本細則ニ於テ長官ト稱スルハ關東都督、韓國駐軍司令官、樞密院陸軍部陸軍司令官、樞密院陸軍部陸軍司令官經理部長ト稱スルハ長官ニ隸屬スル經理部長ヲ謂フ
- 第二條 在外國大使館附及公使館附陸軍武官並統監附陸軍武官ニシテ駐節部隊ニ兼勤スル者ノ給與ハ匪徒鎮定等ノ爲行動ヲ爲ス場合ニ於ケル糧食及本令第六條第七條第十一條第十四條第十五條ノ外本令ニ依リ給與ヲ爲サス
- 第三條 本令第五條第一項第二號乃至第四號ノ糧食及憲兵騎兵砲兵輜重兵隊馬ノ馬糧本令第五條第一項合ヲ除クハ軍隊ヲ含ムニ在リテハ隊長病院ニ在リテハ院長監獄ニ在リテハ監獄長ニ其ノ經理ヲ委任ス
- 前項ニ依リ糧食ノ經理ヲ委任セラレタル部隊附ノ者ニ本令第五條第一項第五號但書ニ依リ糧食ヲ給スルトキハ該糧食モ亦委任經理トス
- 第四條 陸軍給與令ニ於テ毎月下旬ニ給スヘキモノハ毎月二十五日之ヲ給ス
- 第五條 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ駐節地ニ於テ入院若ハ療養ヲ爲ス者ノ俸給若ハ給料ハ時日ノ長短病症ノ等差ニ拘ラス之ヲ減スルコトナシ但シ傭人ニシテ特ニ規定傭人給料支アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ者ニシテ内地ニ航送スルトキハ入院者ニ在リテハ内地病院ニ入院ノ日療養者ニ在リテハ内地港灣上陸ノ日ヨリ一般給與ノ規定ニ依ル
- 第六條 陸軍給與令細則第二十條ニ依リ通譯加俸ヲ支給スヘキ者ハ憲兵隊長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ之ヲ選拔シ技能檢案書ヲ作り當該長官ノ認可ヲ經テ之ニ通譯ヲ命シ憲兵司令官ニ報告ス

- 第七條 雇員傭人雇員傭人給料支給規則傭給表及明治二十年ノ給料ハ月額三十圓又ハ日額一圓ヲ最上限トス但シ醫師通譯又ハ技術者ノ傭給其ノ他特別ノ役務ヲ爲サシムル者ハ此ノ限ニ在ラス第八條 傭人ニシテ増給ヲ給スルハ雇員傭人給料支給規則傭給表及明治二十八年陸軍第六十號別表ニ掲グル者ニ限ル
- 第九條 本令第四條ノ増給ノ算出ハ准士官以上ハ陸軍給與令ノ現役俸ニ職務俸若ハ特別俸、上級職務心得助加給俸ヲ加算シ下士以下ハ同令第三表甲ノ給料ニ同第六表ノ諸加俸憲兵通譯加ヲ加算シ軍屬ハ一般規定ノ俸給若ハ給料ニ依ルモノトス
- 文官ニシテ加俸ヲ受クル者駐節部隊ノ職員ヲ兼務スルモ本令ニ依ル増給ヲ支給セズ
- 第十條 駐節隊附下士以下ニシテ内地出發ノ際營内居住ヨリ營外居住ノ職ニ轉シ又ハ營外居住ヨリ營内居住ノ職ニ轉スルモ諸加俸ハ舊ニ依ル
- 第十一條 増給ノ始期及終期ハ左ノ區分ニ依ル
 - 一 赴任スル者ハ駐屯地ニ到着ノ日ヨリ
 - 二 駐節地ニ於テ新ニ採用ノ者ハ就職ノ日ヨリ
 - 三 轉任、轉職スル者ハ駐屯地出發ノ日迄
 - 四 交代ノ爲派遣ノ者ハ駐屯地ニ到着ノ日ヨリ歸還ノ者ハ駐屯地出發ノ日迄
 - 五 離職休職停職除職後復職後復職官退官免職等ニ在リテハ俸給ノ支給期間ニ伴フ
- 第十二條 左ノ期間ハ増給ノ支給ヲ停止ス

一 請願休暇若ハ轉地療養等ニ依リ内地ニ歸還スル者ハ駐屯地ニ入院患者ニシテ内地ニ航送ノ者
ノ病院 出發ノ翌日ヨリ歸著ノ前日迄請願休暇若ハ轉地療養等ニテ駐劄地外ニ出發スル者亦
所在地 同シ

二 修學ノ爲内地ノ學校若ハ軍隊等ニ派遣スル者ハ入校若ハ入隊ノ日ヨリ復歸ヲ命セラレタル
日迄

三 生死不明トナリタルトキハ其ノ翌日ヨリ歸投ノ前日迄

四 陸軍給與令細則第二十八條第一項乃至第三項及同第二十九條第一項ニ依リ俸給ヲ減却又ハ
停止スルトキハ其ノ期間但シ無罪若ハ免訴トナリ又ハ未決中死亡スルモ之ヲ追給スルコト
ナシ

五 懲罰若ハ懲戒處分ニ依リ俸給ヲ減却又ハ停止スルトキハ其ノ期間

第十三條 雇員及傭人ニ糧食ヲ給スルハ編制 細則表備考ニ依リ増 又ハ定員表ニ掲グル者將校同
相當官ノ馬丁及以上ノ代用者ニ限ル
前項以外ノ雇員及傭人ニ糧食官給ノ必要アルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

本令第五條第二項ニ依リ軍人軍屬以外ノ者ニ糧食ヲ給スルハ匪徒鎮壓等ノ爲行動ヲ爲ス場合ニ
限ル

第十四條 糧食ノ定額ハ左ノ區分ニ依ル

一 本令第五條第一項第一號ニ依リ現品ヲ給スルトキハ陸軍戰時給與規則第一表 加給品
ノ定額ヲ基準トスヘシ但シ時宜ニ依リ時價相當ノ代金ヲ交付シ實費支辨セシムルコトヲ得

二 本令第五條第一項第二號及第三號ノ定額ハ第一表 陸軍中ノ者 同第四號ノ定額ハ第二表

ニ依ル

三 本令第五條第一項第五號ノ定額ハ第三表ニ依リ同號但書ノ糧食ハ現人員ニ應シ第一表ノ定
額ヲ各部各隊ニ交付シ賄ハシム但シ經理ヲ委任セラレサル部隊ニ在リテハ定額ヲ標準トシ
實費支辨スヘシ

四 陸軍給與令第二十四條ニ該當スル夜食料ノ定額ハ第一表ニ依ル

第十五條 食料ヲ受クル者ニシテ休暇等ニテ内地ニ歸還スル者ニハ駐屯地出發ノ時ヨリ駐屯地ニ
歸著ノ時迄食料ノ支給ヲ停止ス休暇等ニテ駐劄地外ニ出發スル者亦同シ

第十六條 匪徒鎮壓等ノ爲行動ヲ爲ス場合ニ在リテ必要アルトキハ當該長官之ヲ指定シ糧食ノ定
額ニ増給加給ヲ爲シ又ハ部隊長ニ委任シテ増給加給ヲ爲シシムルコトヲ得

前項ノ増給額ハ陸軍戰時給與規則第一表定額ヲ加給品ノ三分ノ一以內トシ加給品ハ同表加
給品ノ定額以內ヲ目途トスヘシ

第十七條 馬糧ノ定額ハ陸軍給與令第二十一表ニ依ル但シ防塞ノ爲増給スル藥ノ數量及支給期間
ハ第七師管ニ同シ

匪徒鎮壓等ノ爲行動ヲ爲ス場合ニ在リテハ陸軍戰時給與規則第二表ノ定額ヲ基準トスヘシ

第十八條 馬糧ノ經理ヲ委任セラレタル部隊ニ於テ乘馬本分者ノ馬匹ニ係ル馬糧給與ヲ擔任シタ
ルトキハ該馬糧亦委任經理トス

第十九條 本令第七條ノ繋畜料ノ支給停止ハ駐屯地ニ到着ノ日ヨリ駐屯地出發ノ日迄トス

第二十條 本令第七條ノ馬匹手當ハ駐劄部隊ニ於テ離職スル者又ハ内地ニ歸還ノ後上長官ノ職務
心得勤ヲ繼續セザル者ニハ之ヲ給セス

内地ニ於テ上長官ニ昇進シ若ハ上長官ノ職務心得勤ヲ命セラレ直ニ駐節部隊ニ赴任スル者ノ馬匹及少佐同相當官ニシテ内地ヨリ駐節部隊ニ轉シタルカ爲増加シタル馬匹ニ對スル馬匹手當ハ舊所屬部隊ニ於テ之ヲ給ス

第二十一條 陸軍給與令細則第五十條及第八十六條ニ依ル代金算出ノ相場ハ當該經理部長之ヲ指定シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 軍人軍屬ニ貸與ノ被服並各部隊備附被服ノ種類、員數及保存期限ハ第四表及第五表ニ依ル

陸軍監獄看守、陸軍警守及傭人ニハ第六表ノ被服料定額ヲ本人ニ給シ第七表ノ被服ヲ新調保績セシム

第二十三條 前條第一項ノ貸與被服及備附被服ハ初度定員ノハ現人員及定數ニ應シ現品ヲ當該部隊ニ交付シ爾後保存期限ニ依リ算出シタル金額内ニ於テ所要被服ノ補給ヲ爲ス

前項ノ補給被服ハ所要ニ先チ陸軍省ニ請求スヘシ

第二十四條 貸與被服ノ補給費ハ其ノ現人員ニ對シ一名月額金二十五錢ヲ目途トスヘシ

第二十五條 内地部隊ヨリ駐節部隊ニ補充又ハ派遣スル下士以下ニハ原部隊ニ於テ第八表ノ時服ヲ著セシムヘシ

前項著裝ノ被服ハ駐節部隊ニ於テ取纏メ速ニ之ヲ原部隊ニ返送スヘシ但シ補充又ハ派遣ノ者ト交代シテ其ノ補充又ハ派遣者ヲ出シタル内地部隊ニ歸還スル者ノ著裝被服ハ返送數ニ差繼クモノトス
第二十六條 内地部隊ニ歸還スル者ハ其ノ貸與被服ヲ還納セシメ下士以下ニハ第八表ノ時服ヲ著裝セシムヘシ但シ傷痍疾病ニ依リ病院ヨリ還送スル者ニハ病衣ヲ貸與スルコトヲ得

前項歸還者ノ著裝被服ハ前條第二項ニ準シ駐節部隊ニ返送スヘシ

第二十七條 宿舍ハ家屋ノ構造ニ依リ各箇又ハ數人合同ニテ之ヲ貸與ス其ノ區分ハ當該長官之ヲ定ム

家具ノ種類及員數ハ別ニ之ヲ定ム

第二十八條 宿舍ニ要スル防寒用薪炭ノ焚方期限及標準額ハ第九表ニ依ル

第二十九條 本令第十三條陣營具ノ定數ハ内地各隊ノ例ニ準ス

第三十條 軍人軍屬以外ノ者ニ藥餌ヲ官給スルハ糧食ヲ官給スル者ニ限ル

第三十一條 本令第十五條ノ埋葬費ハ第十表ヲ標準トシテ實費支辨スヘシ

第三十二條 營内居住下士以下死亡シタルトキ其ノ遺骨ヲ内地ニ輸送シ之ヲ親族ニ引渡ストキハ陸軍給與令第五十八條ニ依リ埋葬料ヲ親族ニ下付スヘシ

第三十三條 本細則ニ明文ナキモノハ陸軍給與令細則、雇員傭人給料支給規則並陸軍監獄看守陸軍警守及陸軍傭人被服給與規則ヲ準用ス

附則

本細則ハ明治三十九年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年陸軍第六十六號ハ之ヲ廢止ス

第一表 軍隊及病院糧食

駐節地區分	精		米		日ノノ類		夜食料
	一	人	一	日ノノ類	一	日ノノ類	
滿洲、韓國	六	一	一	一	一	一	一
合	二	十	一	一	一	一	一
							以下

考	備
一	經理部長ハ地方ノ狀況ヲ酌量シ當該長官ノ認可ヲ受ケ各地方ノ賄料定額ヲ定メ之ヲ陸軍大臣ニ報告シ且關係各部隊ニ通報スヘシ但シ各地屯在部隊ノ人員ト本文所定額トニ依リ算出シタル一八二日ノ金額ハ本表賄料標準額ヲ超過スルコトヲ得ス
二	病院ノ賄料ハ各其ノ所在地ノ額ニ依ル
三	挽割麥ヲ糶米ニ代用スル場合ニ在リテハ糶米一合ニ對シ挽割麥一合五勺ノ割合ヲ以テ現品ヲ交付シ陸軍給與令細則第四十五條ヲ適用セス

第二表 拘禁懲罰者糧食

區分	米	日	額
力業ニ服スル者	六	合	十
力業ニ服セザル者	五	合	二
懲戒減食ノ者	二合乃至三合		
重懲有ニ處セラレタル者	六	合	五
輕懲有ニ處セラレタル者	六	合	
總額	合		當該地方賄料定額ニ依ル

考 備
 一 各隊ノ懲有ニ留置セラレタル者ハ輕懲有ニ處セラレタル者ノ定額ニ依ル
 二 糶米五合ノ糶食計算ハ一合七勺トス
 三 貨表ヲ有スル四人ニ附菜ヲ與フル場合ハ一回二錢五厘ヲ増給ス
 四 本表賄料金額ハ糶米ニ在リテハ十分ノ三ヲ増給ス
 五 監獄ニ於テ在監人十五名以下ナルトキハ別ニ商賈雜費トシテ一日二十錢ヲ交付ス

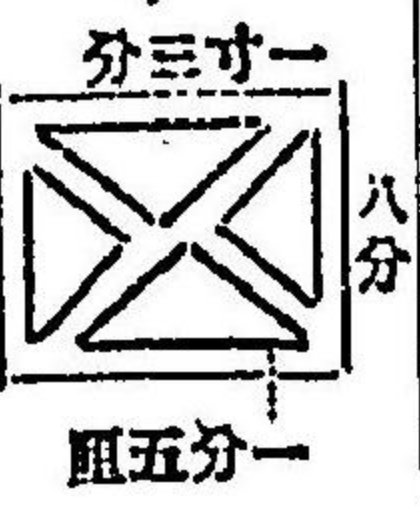
第三表 食料

階級	滿洲	韓	日	朝鮮	日	太
將官同	二十六錢	三十九錢	六十五錢	四十二錢	七十錢	四十四錢
相當官	二十錢	三十錢	五十錢	三十三錢	五十五錢	四十四錢
上等官	十四錢	二十一錢	三十五錢	二十錢	三十三錢	四十四錢
士官	十一錢	十六錢	二十八錢	十六錢	二十四錢	四十四錢
准士官	九錢	十三錢	二十錢	十三錢	十九錢	三十三錢
下士	八錢	十二錢	二十錢	十錢	十五錢	二十六錢
兵卒	七錢	十錢	十八錢	八錢	十二錢	二十錢
備	七錢	十錢	十八錢	八錢	十二錢	二十錢

第四表 貸與被服

品目	貸與區分	在勤者	演習區集ノ者
第一種帽	樂手種	三箇二箇年	三箇二箇年
第二種帽	憲兵上等兵、警内居住下士兵卒	一箇七箇年	一箇五箇年
絨衣	憲兵上等兵、樂手種、警内居住下士兵卒	三箇四箇年	一箇四箇年

考	備	草
一	成手ノ帽表袴及外袴ハ看病人ノ製式ニ同シ但シ絆袖ノ帽草	十二組
二	左腕ニ縫著ス	
三	府夫ノ帽ハ小使ノ製式ニ法被服引ハ馬丁ノ製式ニ外袴ハ看病人ノ製式ニ同シ馬丁ノ外袴ハ看病人ノ製式ニ準ス	



第八表 著裝被服

品	目	區	分	時	夏	服
第一種	種帽	樂手袖	一	箇	一	箇
第二種	種帽	廠兵上等兵營內居住下士兵卒	一	箇	一	箇
日	襪	樂手袖	一	組	一	組
日	襪	廠兵上等兵樂手袖營內居住下士兵卒	一	組	一	組
外	袴	廠兵上等兵營內居住下士兵卒	二	組	二	組
外	袴	營內居住下士兵卒	一	組	一	組

考	備	厚	水	飯	脚	靴	軍					
一	營外居住下士兵卒ノ飯盒、水筒及毛巾ハ所屬部隊若ハ投寄部隊ニ於テ貸與スヘシ	下士兵卒	一	一	一	一	一					
二	廠兵上等兵ニシテ三十二年制制服ヲ著裝スル場合ニハ第二種帽ニ換ヘ第一種帽ヲ著用セシムルモノトス							一	一	一	一	一
三	廠兵第一種帽及絆袖製第二種帽ヲ著用スル者ニハ夏服ニ在リテハ日服一箇ヲ貸與スルモノトス											

第九表 宿舎用薪炭焚方期限及標準額

考	備	樺	滿洲、韓國	駐	樺	地	焚	方	期	限	煙	日	窗	ノ	標	準	額			
一	長官ハ地方ノ狀況ニ應ジ本表標準額内ニ於テ適宜薪炭ノ定置ヲ定メ焚方期限ヲ伸縮スルコトヲ得但シ煙燻及代用火鉢備付致ト本表標準額トニ依リ算出シタル金額ヲ超過スルヲ得ス	太	自五月十一日	自五月十一日	三十	箇	二十	箇	十二	箇	大	代	用	火	鉢	小	代	用	火	鉢

第十表 埋葬費標準額

名	稱	金	額
將官	同相營官	高等官二等以上	五圓
上長	官	高等官五等以上	十圓
士	官	高等官六等以下 委任待遇者	三圓
准士	官	試	二圓
下士	官	判任官 預員	二圓
兵	卒	看守警守	十圓
備	人		十圓

一 士官候補生、主計候補生、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習獸醫官ハ下士ノ額ニ依ル

〔參照〕

明治三十二年七月陸軍第六十六號ハ韓國駐衛隊部隊給與ニ關スル件ナリ

○陸軍第六十八號

陸軍給與令細則中左ノ通改正シ明治三十九年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年十月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

第二十條第二項割註ヲ削ル

第四十四條中「臺灣守備隊及韓國駐衛隊」ヲ「臺灣、樺太、韓國、清國、^{滿洲}駐衛隊」ニ改ム

○海軍省達第百二十七號

雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治三十九年十月一日

海軍大臣齋藤實

第二條左表中技生ノ欄「鎮守府」ノ次ニ「旅順海軍經理部」ヲ加フ

第三條左表中兵器保護手ノ欄「下瀬火藥製造所」ノ次ニ「旅順海軍工作部」ヲ加フ

同表中割烹ノ欄「水雷術練習所」ノ次ニ「旅順海軍經理部、旅順海軍工作部大連支部」ヲ加フ

同表中削夫ノ欄「水雷術練習所」ノ次ニ「旅順海軍工作部大連支部」ヲ加フ

同表中倉庫丁ノ欄「海軍煉炭製造所」ノ次ニ「旅順海軍工作部」ヲ加フ

同表中賄夫ノ欄「監獄」ノ次ニ「旅順海軍經理部」ヲ加フ

同表中「傳書、^{傳書}夫」ノ欄ヲ削除ス

同表中電機工夫ノ欄「下瀬火藥製造所」ノ次ニ「旅順海軍工作部大連支部」ヲ加フ

同表中水栓番人ノ欄「舞鶴海軍經理部」ノ次ニ「旅順海軍經理部」ヲ加フ

別表備考第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 木表ノ外竹敷敷設隊ニ於テハ割烹一名ヲ使役シ旅順敷設隊ニ於テハ給仕四名割夫二名割烹一名ヲ使役スルコトヲ得

○海軍省達第百二十八號

海軍兵備品會計規程第三條別表中左ノ通改正ス

明治三十九年十月一日

海軍大臣齋藤實

一 品名ノ欄「兵器彈藥水雷及附屬品」ノ項中「造兵部長 武庫主管」ノ次ニ「旅順工作部長 旅順工作部部長」ヲ加フ

- 二 同上 秘密圖書ノ項中 鎮守府參謀長 鎮守府後任副官
測器庫主管
- 三 同上 測器海圖ノ項中 測器庫主管 *測器庫書記 ノ次ニ 鎮守府參謀長 測器庫主管
*測器庫書記
- 四 同上 艦務備品ノ項中 煉炭製造所長 煉炭製造所主計長 ノ次ニ 鎮守府後任副官
*測器庫書記
- 五 同上 艦務備品ノ内 教育圖書ノ項中 測器庫主管 *測器庫書記 ノ次ニ 鎮守府後任副官
*測器庫書記
- 六 同上 被服糧食ノ項中 衣糧科長 衣糧科科員 ノ次ニ 鎮守府後任副官
*測器庫書記
- 七 同上 浴場品ノ項中 藥品庫主管 煉炭庫主管 先任藥劑官(旅順病院) ニ改ム

○海軍省達第百二十九號

明治三十六年十一月一達第百三十一號通常物品出納命令官會計官吏表中左ノ通改正ス

海軍大臣齋藤實

明治三十九年十月一日

- 一 品名ノ欄 鎮守府所在各處(學校練習所ヲ除ク)ノ項中 經理部第二課長 *經理部科員
經理部科員 ニ改ム
- 二 同上 經理部建築用物品ノ項中 建築課長 *建築課課員 鎮守府後任副官
*建築課課員
- 三 同上 糧食被服服所屬物品ノ項中 衣糧科長 衣糧科科員 鎮守府後任副官
*衣糧科科員
- 四 同上 鎮守府所在各處患者費所屬物品ノ項中 藥品庫主管 煉炭庫主管 先任藥劑官(旅順病院) ニ改ム

五

工廠資金所屬物品及特ニ保管ニ關シシメラルベキ遊兵遊艇材
料物品 工廠(艦務所屬物品並兵器保管運搬用物品ヲ除ク)所屬物品 工廠會計部長 材料庫主管
ニ改ム

加ス

工作部所屬物品	旅順工作部長	旅順工作部主計長
艦船取外シ物品(遊艇船)	旅順工作部大	旅順工作部大連支
遊兵遊艇材料物品	遊支部長	遊支部主計長
衆用器具機械		

六 品名ノ欄 大發水雷圖 軍港要港我所屬物品ノ項ヲ刪除ス

○海軍省達第百三十號

驅逐艦疾風外六隻ニ在リ通信號符字ヲ附付ス

明治三十九年十月一日

海軍大臣齋藤實

信號符字	艦名
G Q F R	疾風
G Q F W	夕風
G Q H J	三日月

○海軍省達第百三十一號

旅順鎮守府處務規程左ノ通定ム

明治三十九年十月一日

海軍大臣齋藤實

旅順鎮守府處務規程

第一條 旅順鎮守府司令長官、旅順鎮守府條例第八條ニ依リ港内ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルハ

其ノ港ノ守備共ノ他港内一般ニ關スルコトニ限ル但シ如何ナル場合ヲ問ハス共ノ本務ヲ妨グルコトヲ得ス

第二條 司令長官ハ軍機上必要ト認ムルトキハ己ノ閱覽ヲ經スシテ麾下職員一切ノ私信ヲ發送スルコトヲ禁シ又他トノ交通ヲ禁スルコトヲ得

第三條 司令長官ハ銃砲ノ射擊水雷ノ發射發火若ハ陸上操練等ヲ施行セシムルニ當リ所在人民ノ生業ニ影響シ又ハ危險ノ虞アリト認ルトキハ勿論共ノ然ラサル場合ニ於テモ成ルヘク地方ノ官衙公署ニ豫報スヘシ

第四條 司令長官ハ麾下軍艦ノ日課週課ヲ制定シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五條 司令長官ハ麾下驅逐隊司令艇隊司令敷設隊司令等ヲシテ軍艦ニ準シ共ノ日課週課ヲ制定提出セシメ之ヲ承認シタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 司令長官ハ麾下ノ候補生及准士官ニ轉勤轉乘ヲ命シタルトキ又ハ麾下ノ准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行若ハ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ海軍省ヨリ發スル辭令ト抵觸スル場合ニ於テハ海軍省ノ辭令ニ從フヘシ

第七條 司令長官ハ所在憲兵ヲ指揮セントキハ速ニ其ノ狀況ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 司令長官ハ海軍定員令第三條ニ依リ置カレタル准士官以上ノ部屬ヲ定メ又ハ之ニ適當ノ職務ヲ命スヘシ

第九條 司令長官ハ艦船ノ新造改造等ニ際シ艦裝委員ヲ置カレサルトキハ必要ニ應シ麾下職員中本職アル者ニ艦裝ノコトヲ掌ラシムルコトヲ得

第十條 司令長官ハ法令ニ依ルカ又ハ許可ヲ得ルニアラサレハ船舶職工ヲ傭ヒ入ル、コトヲ得ス

若シ緊急ノ必要アリテ其ノ手續ヲ履ム能ハサルトキハ事後其ノ詳細ヲ具シ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條 司令長官ハ事情止ヲ得スト認ムル場合ニアラサレハ麾下艦船ニ海軍部外ノ者ヲ便乗セシムルコトヲ得ス若シ之ヲ便乗セシメタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十二條 司令長官ハ時々所轄諸部ヲ歴巡シ防備並業務ノ實況ヲ監視シ府務ノ整備ヲ圖ルヘシ

第十三條 參謀長ハ司令長官ノ職務ニ參與シ其ノ命令ノ普及並之カ實施ヲ監視スヘシ

第十四條 參謀長ハ海軍省海軍軍令部海軍教育本部海軍艦政本部佐世保鎮守府等關係アル官衙ノ主務官ト常ニ相通報シ事情ニ疎隔ナキコトヲ期スヘシ

事務分課

第十五條 參謀ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 管区内港灣ノ防禦計畫ニ關スルコト
- 二 所轄艦船及軍隊ノ進退役務ニ關スルコト
- 三 兵力ノ増減ニ關スルコト
- 四 管区内海岸海面ノ警備ニ關スルコト
- 五 出師準備ノ計畫ニ關スルコト
- 六 演習及檢閲ニ關スルコト
- 七 教育訓練ニ關スルコト但シ別ニ規定アルモノヲ除ク
- 八 通信及運輸ニ關スルコト
- 九 諜報ニ關スルコト

第十六條 副官ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 儀式禮式ニ關スルコト
- 二 服制服裝ニ關スルコト
- 三 旗章ニ關スルコト
- 四 准士官以上及文官ノ人事ニ關スルコト
- 五 雇員傭人ニ關スルコト
- 六 機密文書ニ關スルコト
- 七 公文書類ノ接受及發送ニ關スルコト
- 八 成案文書ノ調査ニ關スルコト
- 九 司令長官ノ官印及鎮守府印ノ管守ニ關スルコト
- 十 祕密圖書ノ管理貸與展覽ニ關スルコト
- 十一 軍紀風紀ニ關スルコト
- 十二 戒嚴徵發ニ關スルコト
- 十三 前記ノ外參謀及各部ノ所掌ニ屬セサルコト
- 第十七條 參謀及副官ノ主務前掲ノ如ク之ヲ分ツモ常ニ互ニ連絡ヲ保ツヲ要ス
- 第十八條 參謀及副官ハ又差使傳令ノ勤務ニ服スルモノトス
- 第十九條 機關長ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 機關官以下ノ勤務ニ關スルコト
 - 二 機關官ノ管理ニ屬スル船體機關兵器ニ關スルコト

- 三 機關官以下ノ教育訓練ニ關スルコト
- 四 艦艇機關動作ノ統計ニ關スルコト
- 五 出師準備中機關部ニ屬スル事項ニ關スルコト

第二十條 軍醫長ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 軍醫官及藥劑官以下ノ勤務ニ關スルコト
- 二 軍醫官及藥劑官以下ノ教育訓練ニ關スルコト
- 三 軍人ノ體格ニ關スルコト
- 四 恩給ニ係ル診斷及傷痕疾病ニ因ル免官免役診斷ニ關スルコト
- 五 傳染病豫防ニ關スルコト
- 六 艦船建築物、被服糧食、給水、排水ノ衛生ニ關スルコト
- 七 海軍病院ニ關スルコト
- 八 出師準備中患者治療ニ關スルコト
- 第二十一條 主計長ハ主トシテ會計經理ニ關スル諸報告ノ調査及被服糧食ノ出師準備ニ關スルコトヲ掌ル
- 第二十二條 主理ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 海軍刑法、海軍治罪法、刑法、刑事訴訟法其ノ他刑事諸法令ノ適用ニ關スルコト
- 二 海軍懲罰令、文官懲戒令、海軍監獄則、軍事司法警察及捕獲審檢令ニ關スルコト
- 三 軍法會議ニ關スルコト
- 四 訴訟ニ關スルコト

五 監獄事務ニ關スルコト

○海軍省達第三百三十二號
旅順海軍港務部處務規程左ノ通定ム

海軍大臣齋藤實

明治三十九年十月一日

旅順海軍港務部處務規程

- 第一條 旅順海軍港務部ノ所掌事務ヲ細別スルコト左ノ如シ
- 一 旅順港境域内海上ノ取締及整頓ニ關スルコト
- 二 旅順港内ノ船渠ニ艦船ヲ出入スルコト
- 三 旅順港内ニ於テ艦船ヲ繫止スルコト
- 四 旅順港内浮標ノ配置及之ヲ繋維スル錨鎖ノ検査ニ關スルコト
- 五 旅順港内艦船ノ錨地轉換及錨泊ヲ監督若ハ指示スルコト
- 六 旅順港境域内水路嚮導ニ關スルコト
- 七 旅順港内ニ於ケル海軍所屬ノ浮標礁標里標其ノ他海標ヲ管理スルコト
- 八 旅順港内浚渫要否ノ調査及海軍所屬ノ浚渫船ヲ以テ直營スル浚渫ニ關スルコト
- 九 運輸ニ關スルコト
- 十 旅順港内ノ艦船ニ清水ヲ供給スルコト
- 十一 旅順港境域標ヲ管理スルコト
- 十二 旅順港境域内ニアル見張所及信號所ヲ管理スルコト
- 十三 難破船等ノ救助ニ關スルコト

十四 消防具ノ管理及旅順港境域内官有物ノ消防ニ關スルコト

十五 旅順港防禦トシテ防材設備ニ關スルコト

十六 旅順港内ニ繋維スル未成艦船ノ保護ニ關スルコト

十七 他ノ所屬ニアラサル鎮守府所轄艦船ノ保管ニ關スルコト

第二條 部長ハ必要アラハ其ノ部ノ内規ヲ制定シ鎮守府司令長官ノ承認ヲ經ヘシ

第三條 部長ハ部下諸員ヲ統括訓練シ軍紀風紀ヲ維持スルコトヲ努ムヘシ

第四條 部長ハ部員ニ事務ノ分擔ヲ命スルコトヲ得

第五條 部長ハ部下ノ准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行若ハ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキ

ハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 副官ハ部長ノ處分ニ係ル人事及公文ノ接受發送並其ノ保管整理ヲ掌ルヘシ

第七條 副官ハ部長ノ命ヲ承ケ諸文書ノ立案ヲ掌ルヘシ

第八條 副官ハ部長ノ差使傳令ノ勸務ニ服スルモノトス

○海軍省達第三百三十三號

旅順海軍工作部處務規程分ノ内左ノ通定ム

海軍大臣齋藤實

明治三十九年十月一日

旅順海軍工作部處務規程

- 第一條 部長ハ左ノ如ク事務ノ分科ヲ定メ部員ニ各科ノ事務掌理ヲ命シ其ノ各科ニ諸職員ヲ分屬セシムヘシ
- 一 検査調査並取締等ニ關スルコト

- 一 造兵及兵器ニ關スルコト
 - 二 造船ニ關スルコト
 - 三 造機ニ關スルコト
 - 四 前條各科ニ屬スル事務ノ細目ハ海軍工廠處務細則ニ於テ相當部ニ就キ定メタルモノヲ準用ス
 - 五 大連支部ニ於ケル事務分科及掌理ハ第一條ニ準シ大連支部長之ヲ定ム但シ支部長ハ艦船出入渠ヲ掌理シ又場合ニ依リ分科事務ヲ掌理ス
- 海軍省達第三百三十四號
旅順敷設隊職員勤務令左ノ通定ム
- 明治三十九年十月一日
海軍大臣齋藤實
- 旅順敷設隊職員勤務令
- 第一條 司令ハ水雷敷設部署防火部署等ヲ定メ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ
 - 第二條 司令ハ定員中ノ兵曹水兵ヲ以テ衛兵ヲ組織シ隊内及旅順港境域内並附近海軍官廳倉庫等ヲ守衛セシムヘシ但シ現ニ海軍守衛アル官廳倉庫等ハ此限ニアラス
 - 第三條 司令ハ水雷敷設部署及衛兵配置等ニ基キ部下ノ下士卒ヲ數箇ノ分隊ニ編成スヘシ
 - 第四條 司令ハ所屬ノ船艇及敷設要具ヲ整頓シ常ニ實用ニ支障ナカラシメ又水雷敷設方面ノ狀態ヲ知悉シ迅速敷設ニ支障ナカラシムヘシ
 - 第五條 司令ハ部下ノ規律ヲ維持シ之ヲ教育訓練シ部署ニ應シテ正確迅速ニ任務ヲ施行セシムルコトニ注意スヘシ

- 第六條 分隊長ハ各部署ノ長トナリ分擔ノ要具ヲ整頓シ敷設方面ノ狀態ヲ知悉シ水雷敷設ニ際シ毫モ遲滞ナキヲ期スヘシ
 - 第七條 衛兵司令タル分隊長ハ規定ニ遵ヒ衛兵ヲ配備シ之ヲ監督シ警備ノ任務上毫モ遺漏ナキヲ期スヘシ
 - 第八條 分隊長ハ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ誘掖督勵シ其ノ職務ヲ確實ニ施行セシメ且其ノ行狀技能ヲ熟知シ隊員ニ係ル事務ヲ掌理スヘシ
 - 第九條 司令ハ前諸條ニ規定セサル事項ニ就テハ適用シ得ル限り軍艦職員勤務令中總長ノ爲ノ規定ニ據ルヘシ
 - 第十條 分隊長共ノ他ノ職員ハ適用シ得ル限り軍艦職員勤務令ノ規定ニ據ルヘシ
- 海軍省達第三百三十五號
旅順海軍病院規則ハ内地海軍病院ニ就テ定メタル海軍病院規則ヲ準用スヘシ
- 明治三十九年十月一日
海軍大臣齋藤實
- 海軍省達第三百三十六號
旅順海軍經理部處務規程ハ内地海軍經理部ニ就テ定メタル海軍經理部處務規程ヲ準用スヘシ
- 明治三十九年十月一日
海軍大臣齋藤實
- 海軍省達第三百三十七號
海軍望樓規則中左ノ通改正ス
- 明治三十九年十月二日
海軍大臣齋藤實
- 第二條及第十五條中「望樓監督官」ノ下ニ「旅順鎮守府ニ在テハ參謀長」ヲ加ヘ第十一條及第十九條

中望樓監督官ヲ鎮守府望樓監督官(旅順鎮守府ニ在テハ參謀長)ニ改ム

○海軍省達第四百二十八號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治三十九年十月二日

海軍大臣齋藤實

第三十條第一項中乃至第三項ヲ及第二項ニ改メ第七表ノ下ニ「第二欄以下」ヲ加ヘ第二項中「第四項」ヲ「第三項」ニ改ム

○海軍省達第四百二十九號

明治三十八年達第四百二十八號ヲ廢ス

明治三十九年十月十六日

海軍大臣齋藤實

〔參照〕

明治三十八年九月海軍省達第四百二十八號ハ汽船捕保丸信號符字點付ノ件ナリ

○海軍省達第四百四十號

舞鶴鎮守府在籍

軍艦 天龍

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

明治三十九年十月二十日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第四百一十一號

艦艇類別等級別表中「天龍」ヲ削ル

明治三十九年十月二十日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第四百一十二號

關東州在勤者海軍給與令施行細則左ノ通定ム

明治三十九年十月三十日

海軍大臣齋藤實

第一條 關東州在勤者海軍給與令第二條ノ俸給支給ニ關シテハ海軍給與令施行細則第十一條第二項ノ例ニ依ル

第二條 關東州在勤者海軍給與令第三條ノ増給支給及停止ニ關シテハ海軍給與令施行細則中臺灣左勤加俸支給及停止ノ例ニ依ル

第三條 關東州在勤者海軍給與令第六條ノ加俸支給ニ關シテハ海軍給與令施行細則第三十八條及第四十三條ノ例ニ依ル

第四條 雇員傭人在勤地ニ於テ入院若ハ療養ヲ爲ストキハ傷病疾病ノ原因故意ニ出テタル場合ヲ除クノ外其ノ間給料及雇員傭人給與規則第八條ノ二ノ増給ヲ停止セス

第五條 關東州在勤者海軍給與令第七條ノ手當ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス

前項ノ手當支給及停止ニ關シテハ海軍給與令施行細則中臺灣ニ於ケル宿舍手當支給及停止ノ例ニ依ル

第六條 關東州在勤者海軍給與令第九條第一項ニ依リ給與スル被服物品ハ別ニ之ヲ定ム下士卒ニハ海軍給與令第十三表ニ掲グル所持定數ノ外左ノ被服物品ヲ臨時交付スルコトヲ得但シ在勤地外ニ轉スルトキハ之ヲ還付セム

事業服 一著 襦袢 一枚

第七條 下士卒所持ノ被服物品ニシテ交換期限内ニ交換若ハ交付ノ必要ヲ生シタルモノアルトキハ海軍給與令施行細則第一百五條ノ手續ヲ要セス直ニ分隊長若ハ監督ノ任アル者ノ證明ヲ得テ隨

○宮内省達甲第十一號

明治二十二年七月宮内省達第十一號中諸王家ノ註「朝香宮」ノ次ニ「東久邇宮」ヲ加フ

明治三十九年十一月三日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

〔参照〕

明治二十二年七月三日宮内省達第十一號ハ皇族職員官等ナリ

○宮内省達甲第十二號

明治二十二年七月宮内省達第十號宮内省官制中左ノ通改正ス

但明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年十一月八日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

一第三十七條中「皇宮警部補判任六等」ノ九字及「皇宮警部」ノ項五等以上ノ四字ヲ削除ス

一第五十條宮内省判任官俸給表中「警部警部補」ノ二欄ヲ削除シ「皇宮警部」ノ四字ヲ加フ

一同條宮内省判任官俸給表中「皇宮警部」ノ欄「自十一圓至二十四圓」ニ改ム

○陸達第六十九號

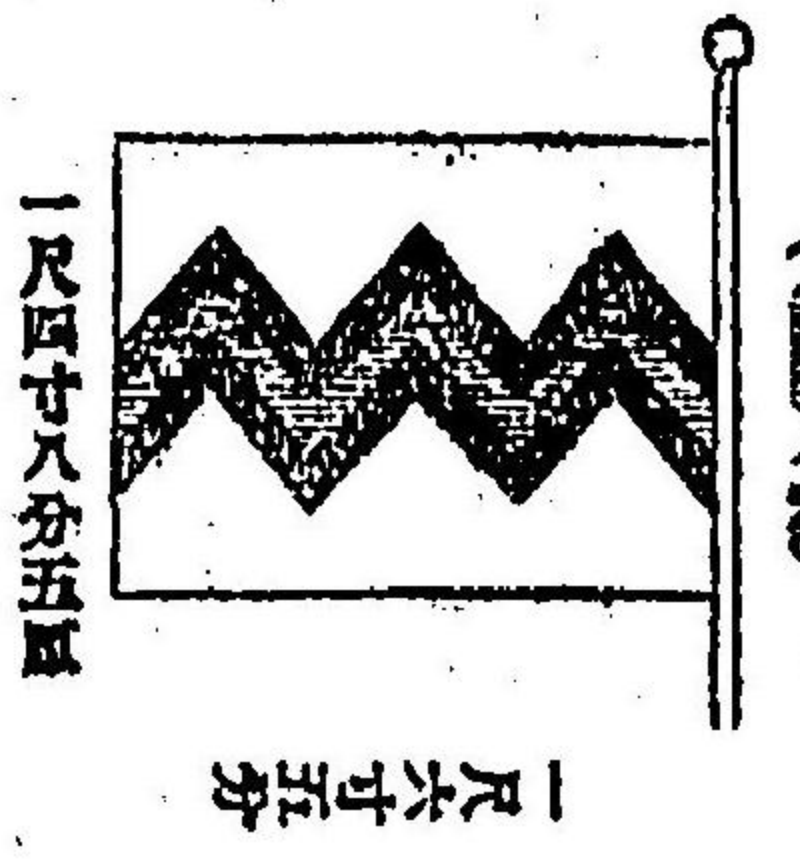
後備歩兵聯隊第三大隊旗左ノ通定ム

但シ明治三十年陸達第六十三號別紙中屯田歩兵大隊屯田歩兵補充大隊旗、後備屯田歩兵大隊旗及備考第二ヲ削ル

明治三十九年十一月一日

陸軍大臣寺内正毅

陸軍第三師團步兵備後



一尺四寸八分五厘

陸軍省

○陸軍第七十號
陸軍省行體書附與規則中左ノ通改正ス

明治三十九年十一月二日

陸軍大臣寺內正毅

第三條中近衛都督又ハヲ削リ第六條中臺灣守備隊ヲ滿韓樺太臺灣及北清駐屯部隊ニ改ム

○陸軍第七十一號

明治三十二年陸軍第三百三十四號中左ノ通改正ス

明治三十九年十一月九日

陸軍大臣寺內正毅

第五號中臺灣ヲ削リ看護長ヲ計手ニ改ム

第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 本連ハ第五號ヲ除クノ外當分ノ內臺灣樺太滿洲韓國ニ在ル部隊及清國駐屯軍ニ之ヲ適用セ

〔參照〕

明治三十二年十一月九日陸軍第三百三十四號ハ陸軍省現下士及現役兵卒中管外居住又ハ外泊セシムヘキ人員及ノ件ナリ

○陸軍第七十二號

見習醫官見習藥劑官見習獸醫官ノ軍事學術教育課程左ノ通定ム

明治三十九年十一月九日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 見習醫官見習藥劑官見習獸醫官ノ其ノ所屬隊ニ於テ受クヘキ學術教育課程左表ノ如シ
- 二 見習醫官見習藥劑官見習獸醫官ノ教育ハ士官候補生及一年志願兵ノ教育ト同一ノ方針ニ基キ實施ス但シ學術科授業時間ハ當該部士官勤務ノ習得時間ヲ願慮シ所屬隊長ニ於テ適宜之ヲ定ム
- 三 歩兵隊配屬者ノ乘馬教育ハ乘馬隊ニ於テ施行ス其ノ方法ハ師團長之ヲ定ム

見習醫官見習藥劑官見習獸醫官教育科目

術科	各 種 射 擊 演 習 小 隊 演 習 射 擊 演 習 射 擊 演 習 射 擊 演 習	術 科
學 科	所屬部隊教育限次第一期間ノモノニ準ス	學 科
考 察	見習醫官ニ在リテハ前項ノ術科ヲ其ノ所屬隊教育限次第一期間ノモノニ代フルモノトス但シ 砲操法服準法柵位散放演習及部隊教練ヲ除ク	

○陸軍第七十三號

臺灣島及澎湖島駐軍陸軍部隊給與規則及清國駐軍陸軍部隊給與令ニ依ル旅行手當ハ駐地ニ出發前一箇年以内ニ陸軍戰時給與規則ニ依リ手當金ヲ受ケタル者及本年省令第十二號ニ依リ支度料ヲ受ケタル者ニハ之ヲ給セス但シ旅行手當ノ額既ニ受ケタル額ヨリ多キトキハ其差額ヲ給ス

明治三十九年十一月十三日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七十四號

明治三十二年陸軍第二十二號雇員備人給料支給規則第一條中「臺灣」ノ下ニ「樺太」ヲ加フ
本達ハ明治三十九年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年十一月十二日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

陸軍第二十二號雇員備人給料支給規則(明治三十二年三月十七日)抄録
第一條 雇員ノ給料ハ月給又ハ日給トシ其ノ月額金貳拾圓ヲ限トス但シ臺灣及清國駐軍部隊ニ在テハ當該給與規則
附ノ規定ニ依テ

○陸軍第七十五號

明治二十八年陸軍第八十號(臺灣其ノ他海外派遣者ハ病)中「臺灣」ノ下ニ「樺太」ヲ加フ
本達ハ明治三十九年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年十一月十二日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七十六號

明治三十一年陸軍第六十五號陸軍監獄看守宿料支給細則第一條中「臺北衛戍監獄」ヲ「臺灣、清國所在監獄」ニ改メ「在勤地」ノ下ニ「若ハ採用地」ヲ加フ

本達ハ明治三十九年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年十一月十二日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七十七號

繙帶包ノ製法並其取扱手續左ノ通定ム
明治二十七年陸軍第二號ハ之ヲ廢止ス

明治三十九年十一月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 繙帶包ハ三角巾一枚昇秉ガ一セ四枚ガ一セ包紙二枚及被包布一枚ヨリ成ル
- 繙帶包ノ包方ハ昇秉ガ一セ一枚ヲ二回半折シテ方形ト爲シ更ニ半折シテ三等分スル如ク折込ミ約縦二寸五分横一寸七分ノ長方形ト爲シタルモノ二枚ヲ重ネガ一セ包紙ニテ包ミ又三角巾ハ先ツ尖尾ヲ把リテ之ヲ半折シ更ニ兩尖尾ヲ尖頂ニ向ケ折リテ方形ト爲シ其ノ左右何レカノ隅角ニ前ノガ一セ包二包ヲ重ネ置キ之ヲ固ク包ミテ壓搾ヲ施シ約縦二寸七分横一寸九分厚サ四分ノ長方形ト爲シ其ノ上ヲ被包布ニテ縫綴被包シ兩布端ヲ裏面ニ折リテ毛抜合ニ縫著シ之ニ製造シタル年月日及部隊名表記ノ封紙紙ヲ貼付シ再ヒ壓搾ヲ施スヘシ
- 昇秉ガ一セノ製法ハ陸軍藥局方ニ據リ共大サハ約方一尺トスガ一セ包紙ハ方六寸ノ透映防水紙ニシテ蒸汽消毒ヲ行ヘルモノヲ用井、三角巾ハ樹脂酸礬土ニテ防水シタル薄織木綿縮ニシテ基底ノ長サ約百三十五仙米突、基底ノ中央ヨリ尖頂ニ至ル長サ約六十七、五仙米突トス又被包布ハ約縦一尺一寸七分横六寸三分ニシテ三角巾ト同一ノ方法ニ依リ防水シタル茶褐色ノ綾織綿布ニシテ其ノ表面ニ使用上ノ注意ヲ印刷ス
- 二 繙帶包ハ其ノ效力ヲ保タシムル爲常ニ繙帶包貯藏箱中ニ密封貯藏スヘシ

- 三 綑帶包ノ調製ハ所在地備成病院ニ依テスルコトヲ得
- 四 從來各隊ニ備フル綑帶包ハ改正綑帶包整備ノ上之ヲ廢ス

(綑帶包及同貯藏箱格式アリ略ス)

〔參照〕

明治二十七年十月陸軍第二號ハ本號ト同伴ナリ

○陸軍第七十八號

衛生材料取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十九年十一月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

第十三條第二項中「要藥砲兵射擊學校」ノ下ニ「陸兵院」ヲ加フ
 第一表甲備考十三ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

十四 陸兵院ノ定數ハ要藥砲兵射擊學校ノ定數ニ準シ必要ニ應ジ之ヲ備フ

第二表備考三ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

四 陸兵院ノ定數ハ要藥砲兵射擊學校ノ定數ニ準シ必要ニ應ジ之ヲ備フ

第三表甲備考六ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

七 陸兵院ノ定數ハ要藥砲兵射擊學校ノ定數ニ準シ必要ニ應ジ之ヲ備フ

○海軍省陸軍第四十六號

海軍煉炭製造所採炭及煉炭製造規程左ノ通定ム

明治三十九年十一月十日

海軍大臣齋藤實

海軍煉炭製造所採炭及煉炭製造規程

第一條 海軍煉炭製造所長ハ海軍艦政本部長ノ命ヲ承ケ所屬炭礦ノ保存石炭ノ採掘煉炭ノ製造ヲナス

第二條 石炭及煉炭ハ其ノ精粗品質ニ依リ左ノ如ク區別ス

採掘炭

上等炭 煉炭原料トナスモノ

下等炭 工業用ニ充ツルモノ(採炭及煉炭製)

海軍製煉炭

第一種煉炭 楕形ノ刻印ヲ附ス

第二種煉炭 波形ノ刻印ヲ附ス

第三種煉炭 櫻花形ノ刻印ヲ附ス

但シ第三種煉炭ハ廢炭利用ノ目的ヲ以テ臨時製造ス

第三條 石炭及煉炭ハ凡テ海軍煉炭製造所通常物品會計官吏之ヲ保管シ石炭中不用ニ屬スル下等炭及渣滓等ハ成規ニ依リ處分シ煉炭ハ海軍艦政本部長ノ指揮ニ依リ艦營用品ヲ掌ル所ノ兵備品會計官吏ニ保管轉換ヲナス

第四條 海軍煉炭製造所長ハ配付豫算内ヲ以テ專業ニ必要ナル職工人夫ヲ使役ス

第五條 採炭事業請負規則ニ依リ請負ニ附スル事業ハ其設計圖面及仕様書豫定價格ヲ定メ一口金五千圓以内ハ海軍煉炭製造所長之ヲ決行シ金五千圓以上ハ海軍艦政本部長ノ指揮受クヘシ

第六條 煉炭ハ石炭ノ採掘費(採炭材料及職工)及其運搬費並ニ製造費(煉炭材料及職工)ヲ併算シタル金額ヲ以テ其ノ原價トス

第六條 煉炭ハ石炭ノ採掘費(採炭材料及職工)及其運搬費並ニ製造費(煉炭材料及職工)ヲ併算シタル金額ヲ以テ其ノ原價トス

本條ノ算出ハ各其ノ費額ヲ一箇月毎ニ平均シタル金額ヲ一千疋ニ算ス

第七條 海軍煉炭製造所長ハ毎月採掘シタル石炭及製造シタル煉炭ノ費額竝ニ保管轉換及供給若クハ處分シタル炭量ヲ翌月十五日迄ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第八條 海軍煉炭製造所長ハ事業ノ情況及其ノ進捗ニ隨ヒ坑内實測圖ヲ追補シ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各八月末日及二月末日迄ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第九條 海軍煉炭製造所ニ於テ餘力アルトキハ海軍部内ヨリスルモノニ限リ製造ノ依托ヲ受クルコトヲ得

○海軍省達第百四十七號

軍艦筑波外一隻ヘ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十九年十一月十三日

海軍大臣齋藤實

G Q J P

筑波

G Q K P

生駒

○海軍省達第百四十八號

艦艇機關高力運轉規則第三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ字治、隅田、伏見ニ在リテハ運轉時間ヲ二時間トシ自然通風全力ニ達スルヲ目的トシ繼續運轉スヘシ

明治三十九年十一月十三日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百四十九號

橫須賀海軍工廠ニ於テ製造ノ乙號戰艦ヲ薩摩ト命名セラル

明治三十九年十一月十五日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百五十號

艦艇類別等級別表中戰艦ノ欄内「鹿島」次ニ「薩摩」ヲ加フ

明治三十九年十一月十五日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百五十一號

本年達第八十九號第二項第一號中「竝奏任官待遇者」第二號中「竝判任官待遇者」ヲ削除ス

明治三十九年十一月十六日

海軍大臣齋藤實

〔参照〕

明治三十九年七月海軍省達第八十九號ハ海軍軍人軍屬以外ノ者關東州樺太島在韓國海軍ノ部隊官衙所在地等ニ旅行スルトキ旅費支給ノ件ナリ

○海軍省達第百五十二號

明治二十四年五月達第九十一號會計規則第九十三條ニ依リ調製スヘキ檢定書書式左ノ通改ム

明治三十九年十一月十九日

海軍大臣齋藤實

檢定書

一金何程 何年何月何日現金出納簿殘高

内

金何程 現金前渡官吏ノ分

金何程 收入官吏ノ分

金何程 何年何月何日金權現在金高

内

金貨何程

銀貨何程

兌換券何程

銅貨何租(白銅貨共)
為換手形何租
(右ノ外現金ノ種類アルトキハ一々之ヲ掲クヘシ)
何金庫へ委託金何租
何(艦關部)出納官更何某取扱ニ係ル帳簿及金櫃ヲ検査候處得面之通相違無之候也
明治何年何月何日

檢査員
出納官吏
職官氏名
職官氏名

備考 検査員ハ帳簿及金櫃ノ検査ヲ了シタルトキハ此ノ書式ニ依リ検査書ニ通テ製シ出納官更若ハ其ノ代理官ノシテ之ニ署名捺印セシメ其ノ一通ハ出納官更若ハ其ノ代理官ニ交付シ一通ハ直ニ海軍大臣ニ送付スルモノトス

○海軍省達第百五十三號
三十六年達第九十號海軍各屬附屬雜役船ノ種類及定數表中へ左ノ通追加ス
明治三十九年十一月十九日
海軍大臣齋藤實

一港務部ノ欄「舞鶴」ノ次ニ旅順ヲ加フ
一水雷敷設隊ノ欄「馬公」ノ次ニ旅順ヲ加フ

○海軍省達第百五十四號
明治二十七年達第三十三號艦關部隊金錢出納規程第三號書式ヲ左ノ通り改ム (書式略ス)
明治三十九年十一月十九日
海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百五十五號
明治二十七年三月達第三十三號艦關部隊金錢出納規程中左ノ通改正ス

明治三十九年十一月二十二日

海軍大臣齋藤實

第七條第二項中増減額ヲ掲載スヘシヲ増減ノ事由ヲ掲載スヘシト改ム

○海軍省達第百五十六號
明治三十年達第百一號歳入歳出取扱規程書式中左ノ通改正ス (書式略ス)
明治三十九年十一月二十二日
海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百五十七號
艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「卯月」ノ次ニ「水無月」ヲ加フ
明治三十九年十一月二十二日
海軍大臣齋藤實

○海軍省達第百五十八號
要港部處務規程中左ノ通改正ス
明治三十九年十一月二十二日
海軍大臣齋藤實

第四條 司令官ハ軍艦ニ準シ艦下ノ驅逐隊艦隊敷設隊ノ日課週課ヲ制定シ之ヲ海軍大臣ニ報告ス

第四條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
第四條ノ二 司令官ハ艦下各隊ヲシテ軍艦ニ準シ戰術防火防水等ニ關スル部署ヲ制定提出セシム

第四條ノ三 司令官ハ艦下各隊ヲシテ其ノ隊ノ内規ヲ制定シ己ノ承認ヲ得テ之ヲ實施セシムヘシ
第五條 司令官ハ要港部條例第九條ノ五ニ依リ准士官以上ヲ臨時配置シタルトキ及同條例第十一條ニ依リ准士官以上ヲ驅逐隊艦隊ニ配置シ又ハ驅逐艦水雷艇ニ乗組マシメタルトキ並之ヲ復シ

マルトキハ海軍大臣ニ報告スヘシ
第五條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第五條ノ二 司令官ハ麾下ノ准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行又ハ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ海軍省ヨリ發スル辭令ト抵觸スル場合ニ於テハ海軍省ノ辭令ニ從フヘシ

第五條ノ三 司令官ハ要港部條例第九條ノ五ニ依リ臨時職員ヲ配置スル場合ニハ將校同相當官兵曹長同相當准士官並兵曹機關兵曹水兵機關兵ニ在リテハ各其ノ定員ヲ超過セシムヘカラス但シ特別ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第五條ノ四 司令官ハ要港部條例第十一條ニ依リ職員ヲ配置スル場合ニハ兵曹機關兵曹水兵及機關兵ニ在リテハ各其ノ定員ヲ超過セシムヘカラス但シ驅逐艦水雷艇ヲシテ難船救助其ノ他特別ノ任務ニ服セシムル場合ハ此ノ限ニアラス

第六條 司令官ハ本部下士卒及傭人ヲ敷設隊ノ分隊ニ編入セシメ其ノ人事ニ就テハ總テ該隊ニ屬シムヘシ但シ場合ニ依リ之ヲ敷設隊ニ編入セス他ノ職員ヲシテ其ノ人事ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十二條中第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 驅逐隊艦隊及敷設隊ノ役務ニ關スルコト

〔參照〕

海軍省通第百五十八號要港部處務規程(明治三十四年五月十四日)抄錄
第四條 司令官ハ軍艦ニ乗シ麾下ノ水雷敷設隊水雷艇隊ノ日課巡邏ヲ制定シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五條 司令官ハ麾下ノ准士官以上ニ水雷艇乗組ヲ命シタルトキ又ハ麾下ノ准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行若ハ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ海軍省ヨリ發スル辭令ト抵觸スル場合ニ於テハ海軍省ノ辭令ニ從フヘシ

第六條 司令官ハ水雷敷設隊水雷艇隊ニ屬セサル下士卒ヲ水雷敷設隊ノ分隊ニ編入セシメ其ノ人事ニ就テハ總テ該隊ニ屬セシムヘシ但シ場合ニ依リ之ヲ敷設隊ニ編入セス他ノ職員ヲシテ其ノ人事ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十二條 參謀ハ左ノ事務ヲ掌ル
二 水雷敷設隊及水雷艇隊ノ役務ニ關スルコト

○海軍省通第百五十九號

水雷團職員勤務令ノ通改正ス

明治三十九年十一月二十二日

海軍大臣齋藤實

水雷團職員勤務令

第一條 團長ハ本團及部下諸隊ノ日課巡邏ヲ制定シ鎮守府司令長官ノ承認ヲ經テ之ヲ施行スヘシ
第二條 團長ハ所屬各隊ヲシテ軍艦ニ準シ戰團防火防水等ニ關スル部署ヲ制定セシメ又其ノ團ノ戰團防火部署等ヲ制定シ之ヲ鎮守府司令長官ニ提出スヘシ

第三條 團長ハ其ノ團ノ内規ヲ制定シ又所屬各隊ヲシテ其ノ内規ヲ制定セシメ鎮守府司令長官ノ承認ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

第四條 團長ハ水雷團條例第五條ニ依リ准士官以上ヲ部下驅逐隊艦隊敷設隊ニ配置シ又ハ驅逐艦水雷艇ニ乗組マシメタルトキ及同條例第六條ニ依リ准士官以上ヲ臨時配置シタルトキ並之ヲ復シタルトキハ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五條 團長ハ部下准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行又ハ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 團長ハ水雷團條例第五條ニ依リ職員ヲ配置スル場合ニハ兵曹、機關兵曹、水兵及機關兵ニ在リテハ各共ノ定員ヲ超過セシムヘカラス但シ驅逐艦水雷艇ヲシテ難船救助共ノ他特別ノ任務ニ服セシムル場合ハ此ノ限ニアラス

第七條 團長ハ水雷團條例第六條ニ依リ臨時職員ヲ配置スル場合ニハ將校同相當官兵曹長同相當官准士官並兵曹機關兵曹水兵機關兵ニ在リテハ各共ノ定員ヲ超過セシムヘカラス但シ特別ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第八條 團長ハ本團下士卒及傭人ヲ敷設隊ノ分隊ニ編入セシメ共ノ人事ニ就テハ總テ該隊ニ屬セシムヘシ但シ場合ニ依リ之ヲ敷設隊ニ編入セス他ノ職員ヲシテ共ノ人事ヲ掌ラシムルコトヲ得

第九條 團長ハ本團職員ニ對シテハ艦長ノ職責ニ準シ部下諸隊ニ對シテハ艦隊司令官ノ職責ニ準シ職務ヲ執行スヘシ

第十條 副官ハ本團及部下諸隊一般ニ關スル事務ニ服シ文書ノ立案公文ノ接受發送保管整理及其ノ他ノ庶務ニ任シ又人事ヲ掌ルヘシ

第十一條 機關長ハ適用シ得ル限り軍艦職員勤務令中機關長ノ爲ノ規定ニ準シ服務スヘシ但シ驅逐艦艇隊及敷設隊ニ對シテハ適用シ得ル限り艦隊職員勤務令中機關長ノ爲ノ規定ニ準シ服務スルモノトス

第十二條 軍醫長ハ本團及所屬諸隊ノ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌リ又軍醫部員ノ勤務及教育ヲ監督スヘシ

第十三條 主計長ハ本團及所屬諸隊ノ會計給與ニ關スルコトヲ掌リ又主計部員ノ勤務及教育ヲ監督スヘシ

第十四條 水雷團職員ノ勤務ニ就キ前諸條ニ掲ケサルモノハ適用シ得ル限り軍艦職員勤務令ニ準據スヘシ

○海軍省通第百六十號
驅逐艦艇隊及驅逐艦水雷艇職員勤務令左ノ通定ス

明治三十九年十一月二十二日
海軍大臣齋藤實

驅逐艦艇隊及驅逐艦水雷艇職員勤務令

第一條 司令ハ軍艦ニ準シ其ノ所屬艦艇ノ戰闘防火防水等ニ關スル部署ヲ制定シテ鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ提出シ又其ノ隊ノ内規ヲ制定シ鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ノ承認ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二條 司令ハ所屬在役驅逐艦又ハ水雷艇ヲシテ常ニ役務ニ支障ナカラシムルコトヲ期スヘシ

第三條 司令ハ所屬豫備驅逐艦又ハ豫備艇ノ就役準備ヲ整頓セシムルコトニ注意スヘシ

第四條 司令ハ常ニ所屬驅逐艦又ハ水雷艇ノ現狀及性質等ヲ熟知スヘシ

第五條 司令ハ部下ノ紀律ヲ維持シ之ヲ監督訓練シ各部署ヲ迅速正確ニ施行セシムルコトニ注意スヘシ

第六條 司令ハ司令驅逐艦又ハ司令艇ヲ定メタルトキ及之ヲ變更シタルトキハ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告スヘシ

第七條 司令ハ部下准士官以上ニ他ノ職務ヲ執行又ハ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキ並部下准士官以上ノ配員ヲ爲レタルトキ及之ヲ變更シタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

ヲ責ニ任スヘシ

第九條 司令ハ同所ニ在ル部下艦船ノ時辰ヲ齊一ナラシムルヲ要ス

第十條 司令其ノ部下ヲ率ヒテ航行中ハ天候ノ模様ニ依リ又ハ其ノ他ノ必要ニ應ジ艦艇ノ集合地點ヲ指示スルヲ要ス

第十一條 司令ハ所屬驅逐艦又ハ水雷艇ノ解役又ハ就役ノ手續ヲ了リタルトキハ之ヲ鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ報告スヘシ

第十二條 司令ハ所屬豫備驅逐艦又ハ豫備艇ニシテ定製港内ニ在ルトキハ要港部司令官又ハ水雷團長ノ承認ヲ經テ其ノ乗員中保安ニ必要ナル人員ヲ置キ他ハ兵舎ニ宿泊セシムルコトヲ得

第十三條 驅逐隊機關長ハ其ノ隊各艦機關部ニ屬スル業務並機關部員ノ勤務及教育ヲ監督スヘシ

第十四條 艇隊機關長ハ其ノ隊ニ屬スル諸船艇ノ船體機關並機關官ノ管理ニ屬スル兵器ニ關スルコトヲ掌リ又機關部員ノ勤務及教育ヲ監督スヘシ

第十五條 驅逐艦長艇長ハ司令ノ命ヲ承ケ乗員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ勝按訓練シ又其ノ艦艇ノ構造性質等ヲ熟知シ諸兵器及諸器具ヲ整備シ艦艇ノ保安ヲ掌ルヘシ

第十六條 驅逐艦長艇長ハ戰闘防火防水其ノ他諸般ノ部署ニ就キ乗員ヲ訓練シ精熟ノ度ニ達セシムヘシ

第十七條 驅逐艦又ハ水雷艇乘組機關官ハ該艦艇長ノ命ヲ承ケ機關長監督ノ下ニ其ノ職務ヲ執行シ又其ノ隊司令又ハ其ノ艦艇長ノ指示ニ從ヒ機關長ノ命スル事務ニ服スヘシ

第十八條 驅逐隊又ハ艇隊附軍醫官ハ其ノ隊司令ノ命ヲ承ケ要港部軍醫長又ハ水雷團軍醫長監督ノ下ニ隊内ノ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ルヘシ

第十九條 驅逐艦又ハ水雷艇乘組軍醫官ハ該艦艇長ノ命ヲ承ケ要港部軍醫長又ハ水雷團軍醫長監督ノ下ニ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第二十條 驅逐隊艇隊條例第十一條ニ依リ艦隊其ノ他ニ附屬シタル驅逐隊艇隊又ハ驅逐艦水雷艇ニ在リテハ其ノ隊又ハ艦艇ノ首席軍醫官ハ艦團軍醫長ト同一ノ職權ヲ執行シ同隊ノ後任軍醫官ハ該首席軍醫官ノ指示監督ノ下ニ服務スヘシ

第二十一條 驅逐隊附主計官ハ其ノ隊司令ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌リ又要港部主計長若ハ水雷團主計長ノ指示スル處ニ依リ會計給與ノ事務ヲ分掌スヘシ

第二十二條 艇隊附主計官ハ其ノ隊司令ノ命ヲ承ケ要港部主計長又ハ水雷團主計長ノ指示スル處ニ依リ會計給與ノ事務ヲ分掌スヘシ

第二十三條 驅逐艦又ハ水雷艇乘組主計官ハ該艦艇長ノ命ヲ承ケ要港部主計長又ハ水雷團主計長ノ指示スル處ニ依リ會計給與ノ事務ヲ分掌スヘシ

第二十四條 驅逐隊艇隊附又ハ驅逐艦水雷艇乘組ノ主計官ハ驅逐隊艇隊條例第十一條第二項ノ場合ニ在リテハ會計給與ニ關シ當該艦團部隊ノ主計長ノ指示スル處ニ依リ其ノ事務ヲ分掌スヘシ

第二十五條 司令以下職員ノ勤務ニ關シ前諸條ニ掲ケサルモノハ適用シ得ル限リ軍艦職員勤務令ニ準據シ尙驅逐隊ニ在リテハ軍艦長ノ爲メノ規定ヲ司令ニ、副長ノ爲メノ規定ヲ驅逐艦長ニ適用シ

艇隊ニ在リテハ軍艦長ノ爲メノ規定ヲ司令ニ、將校分隊長ノ爲メノ規定ヲ艇長ニ適用スヘシ但シ驅逐艦長ハ司令ノ命アルトキハ其ノ部下ニ對シテハ艦長ト同一ノ職權ヲ施行スヘシ

第二十六條 獨立驅逐艦長艇長又ハ司令ト同所ニアラサル首席驅逐艦長艇長ハ司令ト同一ノ職責ヲ有スルモノトス

第二十七條 驅逐隊艦隊ニ編入セラレサル驅逐艦水雷艇ノ醫務衛生及會計給與ニ關シ特令ナキトキハ直屬長官ニ於テ部下相當職員ヲ指定シテ之ヲ處理セシムヘシ

附則

驅逐隊及驅逐艦職員勤務令ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○海軍省達第六十一號

敷設隊職員勤務令左ノ通定ム

明治三十九年十一月二十二日

海軍大臣齋藤實

敷設隊職員勤務令

- 第一條 司令ハ水雷敷設部署防火部署等ヲ制定シテ鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ提出シ又其ノ隊ノ内規ヲ制定シ鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ノ承認ヲ經テ之ヲ實施スヘシ
- 第二條 司令ハ水雷敷設部署ニ基キ部下ノ下士卒並要港部司令官若ハ水雷團長ノ配員セル下士卒及要港部處務規定第六條若ハ水雷團職員勤務令第八條ニ依リ編入セル人員ヲ數個ノ分隊ニ編成スヘシ
- 第三條 司令ハ所屬ノ船艇及敷設要具ヲ整頓シ常ニ實用ニ支障ナカラシメ又水雷敷設方面ノ狀態ヲ熟知シ迅速敷設ニ支障ナカラシムヘシ
- 第四條 司令ハ部下ノ紀律ヲ維持シ之ヲ監督訓練シ部署ニ應シテ迅速正確ニ任務ヲ履行セシムルコトニ注意スヘシ
- 第五條 司令ハ敷設隊條例第十條ニ依リ分置セララルヘキ臨時敷設隊ニ關シテハ前諸條ノ規定ヲ準用シ部下ヲ部署シテ其ノ業務ヲ分擔セシメ急速事ニ應スルノ準備ヲ整頓スヘシ

第六條 司令ハ前諸條ニ規定セサル事項ニ就テハ適用シ得ル限リ軍艦職員勤務令中艦長ノ爲ノ規定ニ準ルヘシ

第七條 將校分隊長ハ各部署ノ長トナリ分擔ノ要具ヲ整頓シ敷設方面ノ狀態ヲ熟知シ水雷敷設ニ際シ毫モ遲滞ナキヲ期スヘシ

第八條 分隊長ハ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ誘掖督勵シ其ノ職務ヲ確實ニ施行セシメ且其ノ行狀技能ヲ熟知シ隊員ニ係ル事務ヲ掌理スヘシ

第九條 敷設隊附軍醫官ハ其ノ隊司令ノ命ヲ承ケ要港部軍醫長又水雷團軍醫長ノ監督ノ下ニ隊内ノ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ルヘシ

第十條 敷設隊條例第十條ニ依リ分置シタル敷設隊又ハ同第十一條ニ依リ艦隊其ノ他ニ附屬シタル敷設隊ニ在リテハ其ノ隊附首席軍醫官ハ艦國軍醫長ト同一ノ職務ヲ執行シ同隊附後任軍醫官ハ該首席軍醫官ノ指示監督ノ下ニ服務スヘシ

第十一條 敷設隊條例第十條ニ依リ分置シタル敷設隊ニ在リテハ其ノ隊附主計官ハ司令ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 敷設隊附主計官ハ敷設隊條例第十一條第二項ノ場合ニ在リテハ會計給與ニ關シ當該艦隊部隊ノ主計長ノ指示スル處ニ依リ其ノ事務ヲ分掌スヘシ

第十三條 分隊長機關長以下諸職員ハ適用シ得ル限リ軍艦職員勤務令ノ規定ニ據リ服務スヘシ

○海軍省達第六十二號

海軍上長官士官任用進級取扱規則表中左ノ通改正ス

明治三十九年十一月二十二日

海軍大臣齋藤實

鎮守府所管ノ部「驅逐隊司令」ノ欄ヲ削除シ「團長」ヲ「海兵團長」ニ改メ左ノ二欄ヲ加フ

按擬名簿調製官	被 拔 擢 者	記 事
水 雷 團 長	直屬諸員各司令	水雷團條例第五條ニ依リ配置セラレタル准士官以上ヲ含ム
司 令 部	下	

「常備艦隊」ヲ「艦隊」ニ「常備艦隊司令長官」ヲ「艦隊司令長官」(司令長官ヲ置カレサル艦隊)ニ改ム
 「艦船長」ヲ「艦船長(驅逐艦長)」ニ「艦長」ヲ「艦長(驅逐艦長)」ニ改ム
 「要港部」ノ欄中司令官ノ記事ニ「要港部條例第十一條ニ依リ配置」ヲ加フ

○海軍省達第百六十三號

停年計算規則第六條第五及第五乙號ヲ左ノ通改メ第五丙及第五丁ヲ加フ

明治三十九年十一月二十二日

海軍大臣齋藤實

- 五 水雷隊攻撃部、水雷艇隊、驅逐隊、艇隊、潜水艇隊勤務中ノ日數
- 五乙 明治三十九年十一月二十一日以前水雷團條例第六條及要港部條例第十一條ニ依リ艦隊ニ配員セラレタル機關官、軍醫官及主計官ノ定數港外ニアル日數
- 五丙 水雷團條例第五條第六條及要港部條例第九條ノ五並第十一條ニ依リ驅逐隊及艇隊ニ配員セラレタル准士官以上ノ其乘組中ノ日數
- 五丁 明治三十九年十一月二十二日以後驅逐艦、水雷艇、潜水艇(未製艦艇ヲ除ク)ノ准士官以上ノ其乘組中ノ日數

〔參照〕

海軍省達第八號停年計算規則(明治三十九年二月十九日)抄錄

第六條 左ニ掲クル日數ハ海上勤務ニ算入セス

五 水雷艇攻撃部及水雷艇隊勤務中ノ日數

五乙 水雷團條例第三條第三項若クハ要港部條例第十一條ニ依リ艇隊ニ配員セラレタル機關官、軍醫若クハ主計ノ定數港外ニアル日數

○海軍省達第百六十四號

海軍武官考課表規則別表第二號中左ノ通改正ス

明治三十九年十一月二十二日

海軍大臣齋藤實

水雷團ノ部團長ノ欄記事ニ「水雷團條例第五條第六條ニ依リ」ヲ加ヘ「司令」及「分隊長」ノ二欄ヲ削除シ左ノ五欄ヲ加フ

考課表調製官	被 考 課 官	記 事
驅 逐 隊 司 令	直屬准士官以上	驅逐隊條例第四條ニ依リ配屬セシムラレタル同第二條ノ准士官以上ヲ含ム
艦 隊 司 令	部下上長官、士官、兵曹長、上等兵	
驅 逐 艦 長	部下士官、兵曹長、上等兵曹	
艇 隊 機 關 長	部下機關兵曹長、上等機關兵曹	驅逐艦ニ在テハ各艦乘組機關尉官ヲ考課表調製官トス
艇 隊 機 關 長	部下機關兵曹長、上等機關兵曹	驅逐艦ニ在テハ分隊長ノ職務ヲ執ル者ヲ考課表調製官トス
分 隊 長	下士(ハコトナク下士ヲ含ム)	

驅逐隊ノ欄ヲ削除ス
要港部ノ記事ヲ左ノ通改ム

要港部ノ記事ヲ左ノ通改ム
「要港部」ノ欄中司令官ノ記事ニ「要港部條例第十一條ニ依リ配置」ヲ加フ

佐世保鎮守府在籍

汽船 奉天丸

汽船 廣南丸

右奉天丸ハ内務省へ他ノ二隻ハ農商務省へ管理換ニ付其本籍ヲ除キ且其信號符字ヲ廢ス

明治三十九年十一月三十日

海軍大臣齋藤實

○宮内省達甲第十三號

明治三十一年宮内省達東宮御所御造營局官制ハ明治三十九年十二月三十一日限り之ヲ廢止シ其ノ殘務ハ内匠寮ニ於テ掌理ス

明治三十九年十二月十八日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

○宮内省達甲第十四號

東宮御所御造營ノ殘務ニ從事セシムル爲臨時内匠寮ニ技師二人ヲ置ク

明治三十九年十二月二十四日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

○陸軍第七十九號

陸軍傳染病豫防ニ關スル清潔方法及消毒方法別冊ノ通定ム

明治三十九年十二月三日

陸軍大臣寺内正毅

(別冊)

清潔方法及消毒方法

第一條 清潔方法ノ要項左ノ如シ

- 一 傳染病者ヲ發生シタル室及病汚染ノ疑アル場所ニ消毒方法ヲ施シ要スレハ苛性曹達水ヲ以テ洗ヒタル後掃除ヲ行ヒ塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ
- 二 溝渠ノ流利ヲ務メ必要ト認ムルトキハ之ヲ浚渫スヘシ
- 三 疑ハシキ便所又ハ芥溜ハ消毒方法ヲ施シタル後掃除セシムヘシ

- 四 右ノ汚泥塵芥類ハ豫メ撰定シアル場所ニ之ヲ棄テ散逸セサラムコトヲ務ムヘシ
- 五 必要ノ場合ニハ井戸浚ヲ爲シ汚便所等ノ修理改造ヲ營ムヘシ
- 六 以上各號ノ外各部隊ニ於テ平常施行スヘキ清潔方法ハ此際特ニ勵行スヘシ

第二條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 焼却
- 二 蒸気消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 藥物消毒

第三條 焼却ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 傳染病者若ハ其ノ屍骸ニ用井タル蒲團ノ藥病衣ノ綿布片等廉價ナルモノ又ハ燒却ニ由ルニ非レハ完全ノ消毒ヲ期シ難キモノ
- 二 傳染病者ノ排泄物汚穢物及傳染病ニ罹リタル獸畜ノ死體

第四條 蒸気消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 被服、寝具、窓簾、敷物等
 - 二 硝子器、陶器、磁器其ノ他金屬製品、木製品ノ類ニシテ汽熱ニ堪フルモノ
- 蒸気消毒ニハ流走蒸気ヲ用井ルヘシ
- 消毒時間ハ消毒物件ノ内隙ニ於テ攝氏百度ニ達シテヨリ十五分以上トス
- 革製品、護謨製品、糊附品、膠附品、塗物、毛皮、象牙、藍甲、角ノ類ハ蒸気消毒ヲ避クヘシ

第五條 煮沸消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

一 飲食器、金銀場合ニ依リテハ手術器械類

二 其ノ他蒸気消毒ニ適スルモノ

煮沸時間ハ被消毒物件ノ全部ヲ水中ニ浸シテ沸騰セシメタル後三十分以上トス

第六條 藥物消毒ニ供スル藥劑ハ左ノ七類トス

- 一 強石炭酸水(二十倍) 石炭酸五分鹽酸一分水九十四分
溶製石炭酸五十分鹽酸十分水九百三十五分
- 二 強クレゾール水(二十倍) 強石炭酸水ニ同量ノ水ヲ加ヘタルモノ
- 三 強クレゾール水(四十倍) クレゾール石鹼液十分水九十分
- 四 強クレゾール水(四十倍) 強クレゾール水ニ同量ノ水ヲ加ヘタルモノ
- 五 強クレシン液(二十倍) クレシン五分水九十五分
- 六 弱クレシン液(四十倍) 強クレシン液ニ同量ノ水ヲ加ヘタルモノ
- 七 昇汞水(千倍) 昇汞一分鹽酸十分水九百八十九分ニ少量ノ「スカレット」ヲ加ヘテ青色ス
- 八 昇汞錠二箇 水一リール
- 九 三五% フォルムアルデヒド水
- 十 格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分水九十五分
- 十一 煨製石灰末(十倍) 煨製石灰末一分水九分
- 十二 煨製石灰末 煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末トナシタルモノ
- 十三 石灰 煨製石灰末ニ代用スルトキハ其ノ倍量ヲ用ウ

第七條 消毒藥ノ用法ハ左ノ如シ

但シ格魯兒石灰水石灰末及煨製石灰末ハ用ニ臨ミテ新ニ之ヲ調製スヘシ

- 一 石炭酸水及クレゾール水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但シ液態半液態ノ物件ヲ消毒スルニハ強液ノ容量以上ヲ加フヘシ
 - 二 クレゾール液ハ排泄物、汚穢物、雜具、不淨場ノ消毒ニ適ス其ノ用法ハ石炭酸水クレゾール水ニ準スヘシ
 - 三 昇汞水ハ手指、牀板、戸扉、陶器、硝子器、及木製器具ノ消毒ニ適シ金屬製品、排泄物、汚穢物ノ消毒ニハ適セス但シ尿ノ消毒ニハ昇汞ヲ用非ルコトヲ得
 - 四 「フオルマリン」ハ通常各種物件ノ表面消毒ニ適ス本消毒ハ密閉シ得ヘキ函若ハ室内ニ於テシ其ノ容積一立方米毎ニ「フオルマリン」一四、三瓦（フオルムアルデヒド）五、〇瓦以上ノ割合ヲ以テ蒸汽ト共ニ噴霧セシムヘシ其ノ消毒時間ハ三時三十分以上トス
 - 五 格魯兒石灰水、石灰乳（供用毎ニ攪拌ス）、煨製石灰末及石灰ハ排泄物、汚穢物、溝渠、芥溜、床下等ノ消毒ニ適ス格魯兒石灰水及石灰乳ヲ以テ排泄物、汚穢物ヲ消毒スルニハ其ノ容量ノ四分ノ一、煨製石灰末ニアリテハ五分ノ一、石灰ニアリテハ十分ノ一ニ投シ善ク攪拌スヘシ溝渠、芥溜ニ對スル量ハ之ニ準シ床下ニアリテハ其ノ全面ニ撒布スヘシ
- 第八條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ
- 一 病者

傳染病者治癒シタルトキハ爪ヲ剪リ手指ヲ消毒シ加温昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭ヒ然ル後石鹼ヲ用非テ全身浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ
 - 二 屍骸

傳染病者ノ死骸ハ其ノ被服ニ昇汞水若ハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞水若ハ石炭酸水ニ浸シタル布ヲ以テ包ムヘシ
 - 三 傳染病者其ノ他病者ニ觸接シタル者

傳染病者其ノ他病者ニ觸接シタル者ハ其ノ都度手指ヲ消毒シ必要アルトキハ衣服ヲモ消毒シ且入浴スヘシ但シ病室内ニ用非タル避病衣ハ室外ニ出ル毎ニ必ス脱スヘシ
 - 四 病者、屍骸等ノ運搬具

傳染病者、屍骸等ノ用ニ供シタル運搬具ハ使用後毎回昇汞水若ハ「クレゾール」水ヲ以テ擦拭スヘシ
 - 五 便所、浴槽、芥溜、溝渠等

傳染病者ノ排泄物、汚穢物ノ混入セル糞尿盥ニハ格魯兒石灰水、石灰乳、煨製石灰末若ハ「クレゾール」液ヲ投シ善ク攪拌スヘシ但シ便房ハ昇汞水若ハ「クレゾール」液ヲ以テ消毒スヘシ傳染病者ノ入りタル浴槽ノ水ニハ昇汞若ハ格魯兒石灰ヲ加ヘテ浴槽ノ水千分ニ付昇汞約一分以上、格魯兒石灰約十分以上トナスヘシ尿ノ消毒ニ昇汞ヲ用非ル場合モ亦之ニ準ス病者混入ノ疑アル芥溜、溝渠、床下等ノ消毒ハ第七條二號及五號ヲ適用スヘシ
 - 六 被服、寢具、器具等

傳染病者ノ用非タルモノハ勿論其ノ他病者汚染ノ虞アル被服、寢具、器具等ハ其ノ種類ニ應

- 一 石炭酸水及クレゾール水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但シ液態半液態ノ物件ヲ消毒スルニハ強液ノ容量以上ヲ加フヘシ
 - 二 クレゾール液ハ排泄物、汚穢物、雜具、不淨場ノ消毒ニ適ス其ノ用法ハ石炭酸水クレゾール水ニ準スヘシ
 - 三 昇汞水ハ手指、牀板、戸扉、陶器、硝子器、及木製器具ノ消毒ニ適シ金屬製品、排泄物、汚穢物ノ消毒ニハ適セス但シ尿ノ消毒ニハ昇汞ヲ用非ルコトヲ得
 - 四 「フオルマリン」ハ通常各種物件ノ表面消毒ニ適ス本消毒ハ密閉シ得ヘキ函若ハ室内ニ於テシ其ノ容積一立方米毎ニ「フオルマリン」一四、三瓦（フオルムアルデヒド）五、〇瓦以上ノ割合ヲ以テ蒸汽ト共ニ噴霧セシムヘシ其ノ消毒時間ハ三時三十分以上トス
 - 五 格魯兒石灰水、石灰乳（供用毎ニ攪拌ス）、煨製石灰末及石灰ハ排泄物、汚穢物、溝渠、芥溜、床下等ノ消毒ニ適ス格魯兒石灰水及石灰乳ヲ以テ排泄物、汚穢物ヲ消毒スルニハ其ノ容量ノ四分ノ一、煨製石灰末ニアリテハ五分ノ一、石灰ニアリテハ十分ノ一ニ投シ善ク攪拌スヘシ溝渠、芥溜ニ對スル量ハ之ニ準シ床下ニアリテハ其ノ全面ニ撒布スヘシ
- 第八條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ
- 一 病者

傳染病者治癒シタルトキハ爪ヲ剪リ手指ヲ消毒シ加温昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭ヒ然ル後石鹼ヲ用非テ全身浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ
 - 二 屍骸

傳染病者ノ死骸ハ其ノ被服ニ昇汞水若ハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞水若ハ石炭酸水ニ浸シタル布ヲ以テ包ムヘシ
 - 三 傳染病者其ノ他病者ニ觸接シタル者

傳染病者其ノ他病者ニ觸接シタル者ハ其ノ都度手指ヲ消毒シ必要アルトキハ衣服ヲモ消毒シ且入浴スヘシ但シ病室内ニ用非タル避病衣ハ室外ニ出ル毎ニ必ス脱スヘシ
 - 四 病者、屍骸等ノ運搬具

傳染病者、屍骸等ノ用ニ供シタル運搬具ハ使用後毎回昇汞水若ハ「クレゾール」水ヲ以テ擦拭スヘシ
 - 五 便所、浴槽、芥溜、溝渠等

傳染病者ノ排泄物、汚穢物ノ混入セル糞尿盥ニハ格魯兒石灰水、石灰乳、煨製石灰末若ハ「クレゾール」液ヲ投シ善ク攪拌スヘシ但シ便房ハ昇汞水若ハ「クレゾール」液ヲ以テ消毒スヘシ傳染病者ノ入りタル浴槽ノ水ニハ昇汞若ハ格魯兒石灰ヲ加ヘテ浴槽ノ水千分ニ付昇汞約一分以上、格魯兒石灰約十分以上トナスヘシ尿ノ消毒ニ昇汞ヲ用非ル場合モ亦之ニ準ス病者混入ノ疑アル芥溜、溝渠、床下等ノ消毒ハ第七條二號及五號ヲ適用スヘシ
 - 六 被服、寢具、器具等

傳染病者ノ用非タルモノハ勿論其ノ他病者汚染ノ虞アル被服、寢具、器具等ハ其ノ種類ニ應

- 七 第三條以下ノ消毒方法ヲ適用スヘシ
患者ノ居室、屍室、車室、船室
傳染病者ノ居室、屍室及該病者若ハ屍骸ヲ容レタル車室、船室ハ昇水クレゾール水若ハク
レシ液ヲ以テ拭淨スヘシ消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムヘシ
密閉シ得ヘキ室ニアリテハ「フオル」ヨリ消毒ヲ用非ルコトヲ得
- 八 井戸、水槽、船底水等
水量二百分ノ一以上ノ格魯兒石灰若ハ燻製石灰末ヲ加ヘ十二時間以上ヲ經タル後汲出サシ
ム但シ利用ノ途アルトキハ蒸氣ヲ應用シ三十分以上沸騰セシムヘシ
- 第九條 消毒方法應用ノ際注意スヘキ事項左ノ如シ
一 蒸氣消毒施行ノ際被服類中ニ彈丸、火藥、燐寸等燻發又ハ發火シ易キ物品ヲ納レアルトキハ
先ツ之ヲ取り出スヘシ
- 二 百斯篤有菌鼠ニ觸レタル器具雜品及消毒ニ使用シタル雜巾、箆、座取等ノ類ニシテ危險ノ虞
アルモノハ燒却若ハ相當ノ藥液ヲ以テ消毒スヘシ
- 三 消毒藥液ハ加温シテ用非ルトキハ其ノ效力増進ス故ニ石灰類ヲ除ク外成ルヘク加温スヘシ
- 四 藥液ヲ以テ排泄物、汚穢物、浴槽水等ヲ消毒スルトキハ充分之ヲ攪和シタル後二時間以上靜
置スヘシ
- 五 藥液ヲ以テ衣類ヲ消毒セムトスルトキハ弱石炭酸水鹽酸ヲ加ヘ若ハ弱クレゾール水中ニ
六時間以上浸漬シ然ル後更ニ清水ヲ以テ滌フヘシ
- 六 被服類ヲ「フオル」ヨリ消毒ニ附スルトキハ嚴ニ重疊スルコトヲ避クヘシ

- 七 「フオル」ヨリ消毒ニ當リ室内ノ溫度ヲ昇騰スルトキハ其ノ效力ヲ増進シ消毒時間ヲ短縮シ
得ヘシ但シ第四條第三項ノ物件ヲ消毒スルニハ攝氏六十度ヲ超エシムヘカラス
 - 八 「フオル」ヨリ消毒後ハ二五%安母尼亞水ヲ室ノ容積一立方米毎ニ十六立方厘米ノ割合ヲ以
テ噴霧スルトキハ「フオル」アルデヒドヲ除クヲ得ヘシ
 - 九 傳染病者ノ屍骸ヲ棺ニ納ムルニハ口鼻肛門等ヲ栓塞シ要スレハ尙鋸屑其ノ他吸收性物質ヲ
棺底ニ敷キ汁液ノ棺外ニ漏洩スルコトヲ防クヘシ
 - 十 傳染病者若ハ其ノ屍骸ノ運搬具ニハ防濕布ヲ敷クヘシ該運搬具ニ裝セル被服寢具類及傳染
病者若ハ其ノ屍骸ヲ收容シタル諸室内ノ窓掛敷物等ハ各其ノ條下ニ示セル消毒ヲ行フヘシ
 - 十一 各種ノ消毒法ヲ行フコト能ハサルモノハ充分直射日光ニ曝スヘシ
- 陸軍第八十號
- 明治四十年陸軍大學校學生入學人員ハ約五十名トシ初審試驗ハ明治四十年四月二十五日ニ再審試
驗ハ同年十一月十三日ニ開始シ入學試驗科目別表ノ通定ム
- 明治三十九年十二月十二日 陸軍大臣寺內正毅

(別表)

明治四十年陸軍大學校入學試驗科目表	
職	初級戰術及野外要務
兵	概テ士官學校教育ノ程度ニ由ル
築城及交通學	同

特	(三十三年制)	將官及參謀ノ帽ニ在ル者之ヲ用フ
飾	緒	第一圖
刀	正副兵	高等官衙門官選番將校之ヲ用フ 右肩ヨリ左脇ニ掛ク 第一圖
短	靴	騎兵將校ハ長靴ヲ用フ

第四條 將官同相當官ノ軍裝ハ左表ニ列記スルモノヲ着用ス

品	目	若裝法及特別ノ規定
第二種帽	(茶褐色)	
軍衣	(茶褐色)	
短袴	(茶褐色)	房中茶褐色夏衣ト併用スルモ妨ナシ
夏衣	(茶褐色)	房中之ヲ用フ
夏短袴	(茶褐色)	房中之ヲ用フ
飾	緒	房中ノヲ用フ
外袴若ハ雨履	(茶褐色)	房中ノヲ用フ
夏外袴	(茶褐色)	房中ノヲ用フ
刀	刀頭共	隊伍ニ列シテ外袴若ハ雨履ヲ用フ非サルトキ之ヲ用フ
長靴		隊伍ニ列シテ外袴若ハ雨履ヲ用フ非サルトキ之ヲ用フ

一 房中ト稱スルハ六月一日ヨリ九月盡日迄ノ間トス但シ氣候ニ依リ必要ト認ムルトキハ東京
衛戍總督 衛戍司令官 衛戍副司令官 衛戍副官 衛戍副官ニ於テ之ヲ併用スルモノトシ得以下同シ

二 房中ニ在リテ若ハ一般通常服用ノ場合ニ於テハ特ニ茶褐色ノ袴(夏衣ヲ著スルトキハ夏
袴)短靴ヲ用フ

三十三年制軍服(肋骨製)軍裝ニ關スル規定

隊伍ニ列スルカ又ハ上長官以下ノ各級將校ト麻アリテ會同スル場合ヲ除ク外左ニ掲グルモノヲ用ウルコトヲ得但シ房中ニ參内シ若ハ一般通常服用ノ場合ニ於テハ特ニ紺色ノ袴(夏衣ヲ著スルトキハ白色夏袴)短靴ヲ用ウルモノトス

紺色第二種帽

紺色軍衣

白色短袴

白色夏衣 日服共(房中用)

第五條 上長官、士官、准士官ノ軍裝ハ左表ニ列記スルモノヲ着用ス

品	目	著	裝	法	特	別	規
第二種帽	(茶褐色)				房中	房中	房中
軍衣					房中	房中	房中
短袴	(茶褐色)				房中	房中	房中
夏衣	(茶褐色)				房中	房中	房中
夏短袴	(茶褐色)				房中	房中	房中
刀					房中	房中	房中
長靴					房中	房中	房中

- 十 觀兵式送迎式伺候式又ハ儀仗服務ノトキ
 - 十一 勳員部隊ニ屬スルトキ
 - 十二 衛戍勤務ニ服スルトキ
 - 十三 秋季演習及廉アル演習ノトキ
 - 十四 軍法會議ニ列スルトキ
 - 十五 下士以下ニシテ將校ノ正裝禮裝ヲ着用スル場合ニ相當スルトキ
 - 十六 一般通常服着用ノトキ
- 其ノ他一般ノ賀儀葬祭ニモ之ヲ着用スルコトヲ得
- 本條第九號第十號及其ノ他儀式ノ場合ニ於ケル軍裝ニハ將校ノ野鷹、旅籠及下士以下ノ水筒、雜囊、背負袋、器具、手旗、飯盒、豫備靴、携帶天幕、毛布、雨覆、蹄鐵囊、旅籠、麥囊、水與器ハ之ヲ裝著セサルモノトス
- 本條第十一號第十二號第十三號等ノ場合ニ於ケル軍裝ニハ時宜ニヨリ前項諸品ヲ省略スルコトヲ得
- 第十五條 略裝ハ前三條ニ列記スル場合ノ外之ヲ用ウ
 - 第十六條 勳員セル部隊ニ屬スル者ハ正裝禮裝ヲ爲スヘキ場合ニ於テ軍裝ヲ用ウ
- 守備又ハ特別ノ任務ニ由リ衛戍地外ニ駐屯スル部隊ニ屬スル者ニシテ正裝禮裝ヲ整ヒ得サルトキハ前項ニ同シ

第三章 雜則

第十七條 東京衛戍總督及衛戍司令官ハ當該衛戍地内ニ屯在スル軍人ノ服裝ヲ齊一ナラシムルノ

必要アルトキハ本規則ノ範圍内ニ於テ其ノ著裝法ヲ定ムルコトヲ得各部團隊長勤務、演習等ノ爲當該部團隊ニ於ケル服裝ノ齊一ヲ要スルトキ亦同シ

第十八條 外套ハ何レノ服裝ヲ論セス雨雪ノトキ又ハ防寒ノ爲室外ニ於テ着用シ氣味温熱ノトキ森ヲ用ウル軍裝略裝ニ在リテハ防寒ノ爲室内ニ於テモ亦之ヲ着用スルコトヲ得但シ儀式ノ場所ニ在リテハ雨雪ノトキ及上官ノ居室ニ在リテハ武裝シタルトキ又ハ許可ヲ得タルトキノ外之ヲ着用スルコトヲ許サス

第十九條 雨覆ハ室外ニ於テ外套ニ併用シ或ハ單ニ之ノミ着用スルモノトス

第二十條 將校ハ何レノ服裝ニ在リテモ白色革手袋ヲ用ウルヲ正則トス但シ軍裝略裝ニ在リテハ爛茶、茶褐色革製又ハ白、鼠茶、茶褐色其大小製ノモノヲ用ウルコトヲ得

第二十一條 下士以下ニシテ手袋ヲ給與シアル者ハ何レノ服裝ニ在リテモ之ヲ用ウヘシ但シ野戰砲兵聯隊、要塞砲兵聯隊乙大隊ノ隊伍ニ列スル者ニ在リテハ乘馬スル者ニ限り之ヲ用ウ

隊伍ニ列セサルトキハ手袋ヲ給與シアル者ト否トヲ問ハス白、鼠茶若ハ茶褐色ノモノヲ用ウルコトヲ得

第二十二條 勳章及記章ハ何レノ服裝ニ在リテモ之ヲ佩用ス而シテ菊花大綬章旭日桐花大綬章旭日大綬章勳一等瑞寶章又ハ功一級章ハ正裝禮裝ニノミ佩用シ其ノ他ノ服裝ニハ其ノ副章ノミヲ佩用スヘシ但シ軍裝略裝ニ於テ通常ノ勤務若ハ演習等ノ場合ニハ勳章記章ヲ佩用セサルモ妨ナシ

第二十三條 將官同相當官ハ隊伍ニ列セサルトキハ刀ニ代フルニ劔ヲ用ウルコトヲ得第一圖 其四

第二十四條 飾緒ハ軍裝略裝ニ於テ勤務若ハ演習等ノ場合ニハ絹絲製ノモノヲ用ウルコトヲ得第五圖

第二十五條 懸章ハ高等官衙副官ニ在リテハ特ニ長官ニ隨從スルトキハ外、週番及衛戍巡察將校ニ在リテハ勤務ヲ執ルトキハ外ハ之ヲ掛ケサルモ妨ナシ又勤務上必要アルトキハ外套ノ上ニ之ヲ着用スルコトヲ得

第二十六條 將校ニシテ乘馬本分ノ者乘馬スヘキ准ハ靴ニ拍車ヲ附シ又短靴ヲ穿ツ將校用スルトキハ總テ留革ヲ附著ス但シ徒步ノ場合ハ略裝ニ於テ留革ヲ用非サルモ妨ナシ

第二十七條 將校ノ馬裝中鞍褥及銜ハ軍裝略裝ニ於テ通常ノ勤務若ハ演習等ニハ制式外ノモノヲ用ウルコトヲ得

第二十八條 軍裝略裝ニ在リテハ騎兵將校准士官ハ刀帶ノ鈞鎖ヲ鈞革ニ換ヘ他ノ將校ハ刀帶ニ一條ノ鈞革ヲ用ウルコトヲ得

第二十九條 軍人ニ特別ニ支給シタル被服等ノ著裝ハ該地高級團隊長之ヲ定ムヘシ又防塞用被服ハ貸與若ハ支給セラレタル部隊ニ限り嚴寒ノ際之ヲ用ウルモノトス

第三十條 將校雨雪ノトキ乘馬スルトキハ膝覆ヲ用ウルコトヲ得

第三十一條 見習士官見習主計見習醫官見習藥劑官見習獸醫官ノ服裝ハ刀ヲ衣ノ上ニ佩フルノ外將校ノ例ニ準ス但シ正裝禮裝ノ場合ニハ軍裝ヲ用ウ

第三十二條 士官候補生見習士官一年志願兵主計生軍醫生藥劑生獸醫生ノ服裝ハ各階級ニ應スル當該兵科ノ下士兵卒ニ準ス但シ騎兵科士官候補生ハ士官學校分遣中校内ニ限り袴及夏袴ヲ長袴ニ調製混用セシムルコトヲ得

主計候補生見習主計ノ服裝ハ步兵科士官候補生ノモノニ準ス

第三十三條 主計生軍醫生藥劑生獸醫生ノ服裝ハ計手看護長手蹄鐵工長卒ノ例ニ準ス

第三十四條 幼年學校生徒砲兵工科學校生徒並戸山學校軍樂生徒徒ノ服裝ハ場合ノ如何ニ係ハラヌ唯一種ヲ用非制規ノ帽衣袴靴ヲ着用シ銃劔ヲ帶フルノ外當該長官適宜之ヲ定ムルモノトス

附則

一 服裝ニ關シ他ノ諸法規中本規則ト抵觸スルモノハ本規則ニ依ル

二 將校以下ノ三十三年制制服及三十八年制制服並下士以下ノ三十八年制紺色制服中外套、雨覆、夏外套ハ當分ノ内彼此代用スルコトヲ得又茶褐色日覆ヲ附シタル下士以下ノ改造帽ハ暑中茶褐色帽ニ代用スルコトヲ得

前項ノモノヲ除ク外各種制服ハ彼此混用スルコトヲ得ス

三 三十三年制制服ハ上長官士官准士官樂長及樂長ニ在リテハ略裝ニ、下士以下ニ在リテハ憲兵及騎兵ニ限り軍裝儀式ノ略裝ニ共ニ從前ノ規定ニ依リ當分之ヲ使用スルコトヲ得

四 下士以下ノ三十八年制紺色制服ハ茶褐色制服ト同一ニ使用ス但シ儀式ノ場合ニ在リテハ特ニ茶褐色制服ヲ着用スルモノトス

(圖略ス)

(參照)

明治三十四年九月二日陸軍第五十九號ハ本號ト同伴ナリ

○陸軍第八十二號

樺太守備步兵大隊ノ下士卒ニ附與スヘキ射擊徽章ノ員數ハ步兵射擊教範ノ規定ニ依ラス別表ノ通附與スルコトニ定メラル

逐隊附主計官治療品ニ在リテハ驅逐隊附軍醫官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得艦醫藥品教育圖書ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任中艇隊ニ於ケル艦長一人敷設隊ニ於ケル分隊長一人ハ各司命之ヲ命スヘシ

○海軍省達第七十號

海軍省達第七十號

海軍大臣齋藤實

右本籍ヲ横須賀鎮守府ニ改ム

明治三十九年十二月六日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第七十一號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治三十九年十二月十日

海軍大臣齋藤實

第三十一條第一項中第五表乃至第七表中本邦沿岸第二欄ヲ「第五表及第六表中本邦沿岸第二欄」並第七表中第三欄本邦沿岸ニ、第二項中「所屬船」ヲ「所屬艦船」ニ改ム

第三十三條ニ左ノ一項ヲ加フ
艦船新ニ關東州及韓國ニ在ル官衙部隊所屬ト爲リ本邦ヨリ回航スルトキハ最終ノ本邦港灣出航ノ日ヨリ、其ノ所屬ヲ離レ本邦ニ回航スルトキハ始メテ本邦港灣ニ到著ノ日迄第一項ノ例ニ依リ、該官衙部隊所屬ノ艦船航海スルトキハ第二項ノ例ニ依リ加俸ヲ支給ス但シ關東州及韓國ニ在ル官衙部隊所屬ノ艦船本邦ニ航海スルトキハ始メテ本邦港灣ニ到著ノ翌日ヨリ歸港ノ爲最終ノ本邦港灣出航ノ前日迄第五表乃至第七表中清韓ノ額ヲ支給セス

第二百二十九條中「水雷艇」ノ下ニ「潜水艇」ヲ加フ

第二百三十四條中「馬公要港部」ヲ「臺灣、關東州、韓國及樺太」ニ改ム

第二百三十六條 給與令第八十九條但書ニ依リ驅逐艦、水雷艇、潜水艇及淺吃水砲艦ニ於テ割増食料ヲ支給スルハ左ノ各號ノ一ニ當ル場合ニ限ルモノトス

- 一 驅逐艦及水雷艇ノ乘員該艦艇所屬部團所在地外ニ於テ自ラ糧食ヲ調辨スルトキ又ハ部團所在地ニ於テ該部團ヨリ糧食ノ配給ヲ受クルコト能ハサルトキ並艦隊附屬驅逐艦ノ乘員該艦乘組主計官ヲ離レ自ラ糧食ヲ調辨スルトキ
- 二 潜水艇ノ乘員該艇所屬ノ部團若ハ母艦ヲ離レ自ラ糧食ヲ調辨スルトキ
- 三 淺吃水砲艦ノ乘員給與令第八十六條ニ依リ食料ヲ受クルトキ

○海軍省達第七十二號

軍艦職員勤務令中左ノ通改正ス

明治三十九年十二月十日

海軍大臣齋藤實

第一章第五百五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第五百五條ノ二 艦長ハ彈火藥庫給排氣弁ハ雨天、夜間及必要ノトキハ之ヲ閉塞シ其ノ他ハ開放セシメ置クヲ例トスヘシ

○海軍省達第七十三號

海軍兵學校規則中左ノ通改正ス

明治三十九年十二月二十一日

海軍大臣齋藤實

第九條 學年ハ三學年ニ分チ毎年九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル

附則
本達施行ノ際現在ノ生徒ニ限リ其學年ハ從前ノ通トス

〔參照〕

海軍省達第六十一號海軍兵學校規則(明治三十二年三月三十日)抄錄
第九條 學年ハ三學年ニ分テ每年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル

○海軍省達第七十四號

海軍機關學校規則中左ノ通改正ス

明治三十九年十二月二十一日

海軍大臣齋藤實

第八條 學年ハ三學年ニ分テ第一及第二學年ハ每年九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル第三學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年十二月二十日ニ終ル

附則

本達施行ノ際現在ノ生徒及明治四十年一月入校ノ生徒ノ第一及第二學年ハ每年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終リ第三學年ハ一月十日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

〔參照〕

海軍省達第五十九號海軍機關學校規則(明治三十七年三月二十二日)抄錄
第八條 學年ハ三學年ニ分テ第一及第二學年ハ每年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル第三學年ハ一月十日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

○海軍省達第七十五號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「水無月」ノ次ニ「長月、松風」ヲ加フ

明治三十九年十二月二十六日

海軍大臣齋藤實

法令全書

告示

○宮内省告示第一號

皇太子妃殿下ニハ御父從一位大勳位公爵九條道孝薨去ニ付左ノ通御服喪遊ハサル

一週年 自明治三十九年一月四日

一期 自明治四十年一月三日

二期 五十日

三期 二百六十五日

明治三十九年一月四日

宮内大臣子爵田中光顯

○宮内省告示第二號

今般皇太子妃殿下御服喪ニ付御喪期中同妃殿下ヘ伺候ノ向喪服着用方左ノ通定メラル

明治三十九年一月四日

宮内大臣子爵田中光顯

第一期

男子

○大禮服

一 黒紗ヲ以テ左胸ニ纏フ

一 黒紗ヲ以テ帽ノ飾章ヲ覆フ

一 黒紗ヲ以テ劍ノ柄ヲ卷ク

一 襟飾及手套白

但宮内高等官ノ小禮服之ニ準ス

○通常禮服

- 一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ
- 一 黒羅紗ヲ以テ帽ヲ卷ク
- 一 襟飾及手套白

○通常服

- 一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ
- 一 帽黒羅紗ヲ以テ之ヲ卷ク
- 一 襟飾及手套黒

○陸軍正裝及禮裝

○海軍正服及禮服

- 一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ
- 一 黒紗ヲ以テ肩章ヲ覆フ
- 一 黒紗ヲ以テ劔ノ柄ヲ卷ク

○陸軍軍裝及通常禮裝略裝

○海軍軍服及通常軍服夏服宮内官供奉服

一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ 第二期第三期之レニ倣フ

但下士官ハ夏期服制ノ別ナク黒紗ヲ左腕ニ纏ヒ兵卒ハ喪章ヲ付セス

○文官ニシテ帶劔アル制服

- 一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ

一 黒紗ヲ以テ劔ノ柄ヲ卷ク

但略服ニハ黒紗ヲ左腕ニ纏フ

前項總テ七位勳七等以下及判任官宮内省備等外吏ハ喪期服制ノ(特羽織)別ナク黒紗ヲ左腕ニ纏フ一般備吏以下ハ喪章ヲ付セス

婦人

○褂袴

- 一 髮 垂髮髪ヲ引ク
- 一 元結 白

- 一 喪服 白布
- 一 褂 布黒椋
- 一 袴 布柑子色

- 一 扇 ホンボリ黒骨鈍色地

但手套傘(西洋)等ヲ用フルトキハ總テ黒靴ヲ用フルトキハ柑子色又ハ黒

○西洋服

- 一 服ハ黒地質ハ毛織飾ハ黒ノ縮紗
- 一 帽ハ黒ノ縮紗ヲ以テ造ル
- 一 手套扇傘及飾品等總テ黒
- 一 靴及足袋黒

第二期

男子

○大禮服

一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ

一 黒紗ヲ以テ劔ノ柄ヲ卷ク

一 襟飾及手套白

但宮内高等官ノ小禮服之ニ準ス

○通常禮服

一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ

一 襟飾及手套白

○通常服

一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ

一 帽黒 黒羅紗ヲ以テ之ヲ卷ク

一 襟飾黒

一 手套 黒又ハ鼠色

○陸軍正裝及禮裝

○海軍正服及禮服

一 黒紗ヲ以テ左腕ニ纏フ

一 黒紗ヲ以テ劔ノ柄ヲ卷ク

○文官ニシテ帶劔アル制服

一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ

婦人

○褂袴

一 素服ヲ除ク外第一期ニ同シ

○西洋服

一 服(無紋)及飾ハ黒

一 帽及飾ハ黒

一 手套及扇傘及飾品等總テ黒

一 靴及足袋黒

第三期

男子

○大禮服

一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ

一 襟飾及手套白

但宮内高等官ノ小禮服之ニ準ス

○通常禮服

- 一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ
- 一 襟飾及手套白

○通常服

- 一 黒羅紗ヲ以テ帽ヲ卷ク
- 一 襟飾黒

○陸軍正裝及禮裝

- 海軍正服及禮服
- 一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ

○文官ニシテ帶劔アル制服

- 一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ

婦人

○掛袴

- 一 髮 垂髮
- 一 元結 白

- 一 褂 生絹純色

- 一 袴 生絹萱草色

- 一 扇 ホンポリ黒骨純色地
- 但手套(形)等ヲ用フルトキハ黒又ハ鼠色靴ヲ用フルトキハ萱草色又ハ黒

○西洋服

- 一 服及飾ハ黒
- 一 帽及飾ハ黒
- 一 手套ハ黒又鼠色又ハ白

○外務省告示第一號

明治三十九年一月七日ヲ以テ在伯林帝國公使館ヲ帝國大使館ニ改ム

明治三十九年一月十二日

外務大臣加藤高明

○外務省告示第二號

明治三十九年一月七日ヲ以テ在華盛頓帝國公使館ヲ帝國大使館ニ改ム

明治三十九年一月十八日

外務大臣加藤高明

○内務省告示第一號

一 明治三十九年歲時記 全一冊 區岡縣或紫野住吉村大字春吉七百六番地是松宅次郎發行
 右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治三十九年一月四日

内務大臣男爵清浦奎吾

○内務省告示第二號

一 催眠術新報臨時増刊第參拾六號(男色情催眠術) 一冊 東京市下谷區谷中阪町三十六番地古屋節發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ明治三十九年一月二日發賣頒布禁止及刻版並印本
差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治三十九年一月四日

内務大臣男爵清浦奎吾

○内務省告示第三號

- | | | | |
|----------|-------|----------|-------|
| 一 戀世の中 | 十二枚一組 | 一 龍田乃にまき | 十二枚一組 |
| 一 美奈れさくら | 十二枚一組 | 一 縁むすび | 十二枚一組 |
| 一 松の月 | 十二枚一組 | 一 いろ芝居 | 十二枚一組 |
| 一 元祿の雪 | 十二枚一組 | 一 御年玉 | 十二枚一組 |
| 一 花ふぶき | 十二枚一組 | 一 若ん湯 | 十二枚一組 |
| 一 初きからす | 十二枚一組 | 一 吾妻衆 | 十二枚一組 |
| 一 時雨傘 | 十二枚一組 | 一 出雲のちぎり | 十二枚一組 |
| 一 雪 | 十二枚一組 | 一 寶の入船 | 十二枚一組 |
| 一 夜の花 | 十二枚一組 | 一 都乃錦 | 十二枚一組 |
| 一 雪をふくろ | 十二枚一組 | 一 色紅葉 | 十二枚一組 |
| 一 元祿 | 十二枚一組 | 一 友芝居が | 十二枚一組 |
| 一 壽 | 十二枚一組 | 一 目關笠 | 十二枚一組 |
| 一 雪ははね | 十二枚一組 | 一 京にしき | 十二枚一組 |
| 一 ひよりの友 | 十二枚一組 | 一 ぶや草 | 一枚 |

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ明治三十九年一月十日發賣頒布禁止及刻版並印本
差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治三十九年一月十一日

内務大臣原敬

○内務省告示第四號

- | | | |
|---------|-------|-------|
| 一 ハイカラ | 十二枚一組 | 發行者未詳 |
| 一 つや小まぢ | 十二枚一組 | |
| 一 は、みくき | 十二枚一組 | |
| 一 初まよみ | 十二枚一組 | |

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ明治三十九年一月十日發賣頒布禁止及刻版並印本
差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治三十九年一月十一日

内務大臣原敬

○内務省告示第五號

- | | | | |
|------------|-------------|-------|-------|
| 一 帝國印透繪はかき | 花鳥等ノ圖ニ春畫ヲ | 六枚一組 | 發行者未詳 |
| 一 萬葉印透繪はかき | 山水ノ圖ニ春畫ヲ | 六枚一組 | |
| 一 黒水印透繪はかき | 山水及花鳥ノ圖ニ春畫ヲ | 六枚一組 | |
| 一 滿州印透繪はかき | 花鳥等ノ圖ニ春畫ヲ | 六枚一組 | |
| 一 朝鮮印透繪はかき | 山水ノ圖ニ春畫ヲ | 六枚一組 | |
| 一 乃木印透繪はかき | 山水等ノ圖ニ春畫ヲ | 六枚一組 | |
| 一 す、みふね | | 十二枚一組 | |
| 一 花のさきのけ | | 十二枚一組 | |
| 一 夏味つゞ | | 十二枚一組 | |
| 一 名所 | | 十二枚一組 | |
| 一 凱旋及やぶ | | 十二枚一組 | |

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ明治三十九年一月十二日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治三十九年一月十三日

內務大臣原敬

○內務省告示第六號

一野乃聲 第一卷第一號 一册

東京市赤坂區青山町六丁目百二番地吉田敬次發行

右出版物ハ安寧秩序ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ明治三十九年一月十八日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治三十九年一月十九日

內務大臣原敬

○內務省告示第七號

一明治三十九年丙午太歲

一册

東京市本所區外手町十六番地松浦國英發行

右出版物ハ略本層類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治三十九年一月二十三日

內務大臣原敬

○大藏省告示第一號

明治三十九年二月一日ヨリ同月二十八日マテ稅關ニ於テ外國貨幣ノ換算ニ適用スル內外貨幣比較表左ノ通之ヲ定ム

但本表所掲ノ外國貨幣ト日本金貨トノ比較ハ從前ノ通

明治三十九年一月四日

大藏大臣男爵曾根荒助

內外貨幣比較表

外 國 貨 幣	上 海 一 兩	日 本 金 貨	一 圓 四 二 〇
---------	---------	---------	-----------

清 國 兩	天 津 一 兩	一	五 〇 〇
	漢 口 一 兩	一	四 五 四
盛 西 哥 弗 銀	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一	〇 五 一
英 官 利 弗 銀	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一	〇 一 〇
香 港 弗 銀	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一	〇 一 〇
英 領 印 度 貨	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一	六 五 七
暹 羅 貨	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一	五 九 五

○大藏省告示第二號

明治三十八年十二月九日發行
一大藏省證券額面貳萬五千圓 此證券七枚

壹萬圓券

二枚

壹千圓券

五枚

右東京市神田區裏糺樂町一番地三輪信次郎所有ノ處明治三十八年十二月二十八日盜難ニ罹タル趣届出ニ付之ヲ授受、賣買、引換及支拂ヲ停止ス

明治三十九年一月六日

大藏大臣男爵曾根荒助

○大藏省告示第三號

臺灣事業公債法第三條第四項ニ由リ種類交換ノ爲メ回收シタル原證券ノ額面金額種類、枚數、發行年、記號及番號等左ノ如シ

明治三十九年一月八日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

一 軍事公債證書

右三種の表裏面左方ニ於ケル主任局長ノ印章ヲ削除シ右方ニ於ケル大藏大臣ノ印章ヲ左方ニ移ス
一大日本帝國政府五分利公債證書
一臺灣事業公債證書
一國庫債券

右三種トモ表面ニ於ケル大藏大臣ノ爵氏名及主任局長ノ官氏名印章、裏面ニ於ケル大藏大臣ノ爵氏名及主任局長ノ官氏名ヲ削除ス

○大藏省告示第八號

明治三十八年法律第十二號及同年法律第十七號ニ依リ割引ノ方法ヲ以テ本月十五日大藏省證券ヲ發行セリ其發行額仕拂期日額面金額種類、枚數及番號左ノ如シ

明治三十九年一月十六日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

一大藏省證券額面貳千九百萬圓

此證券五千六十枚

仕拂期日 明治三十九年四月三十日

内

貳千五百萬圓

此證券四千六百六十枚

但明治三十八年法律第十二號ニ依ルモノ

内

拾萬圓券

自四六〇〇番

六十枚

壹萬圓券

自四〇〇九番

千六百枚

千圓券

自四九〇〇番

三千枚

四百萬圓

此證券四百枚

但明治三十八年法律第十七號ニ依ルモノ

壹萬圓券

自七〇〇番

○大藏省告示第九號

明治三十八年十二月二十三日中ノ島稅務署火災ノ爲メ左記ノ書類焼失ニ付明治三十九年二月十五日限り再出スヘク若シ期日迄ニ提出ナキモノハ無効タルヘ

明治三十九年一月十六日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

一 所得稅

明治三十八年分所得金額決定ニ對シ所得稅法第三十六條ニ依リ提出シタル審査請求中ノ書類

明治三十八年分所得金額ニ對シ同法第四十條ニ依リ提出シタル更訂請求中ノ書類

明治三十八年分營業稅課稅標準額ニ對シ營業稅法第二十九條ニ依リ提出シタル減損申立ノ書類

二 營業稅

明治三十八年分營業稅課稅標準額ニ對シ營業稅法第二十九條ニ依リ提出シタル減損申立ノ書類

三 諸拂戻

租稅及租稅外拂戻請求書提出セシモノニシテ未ダ仕拂ノ通知ヲ受ケサルモノ

○大藏省告示第十號

熊本稅務監督局管内折尾稅務署ヲ明治三十九年一月十八日福岡縣遠賀郡折尾村大字折尾六百八十一、四百八十八番ノ二、四百九十三番ノ一、四百九十四番ノ二、四百九十五番ノ一、四百九十六番ノ一、四百九十七番ノ二ニ移ス

明治三十九年一月十七日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省告示第十一號

一第五回國庫債券額面千萬圓

明治三十九年三月十五日抽籤執行

償還期限明治三十九年五月至二十六日
 一 第五回國庫債券額面參千貳百萬圓 明治三十九年三月十五日抽籤執行
 償還期限明治三十九年六月至二十六日
 一 第五回國庫債券額面貳千參百萬圓 明治三十九年三月十五日抽籤執行
 償還期限明治三十九年七月至二十五日
 一 第五回國庫債券未償額殘額
 償還期限明治三十九年八月至二十六日
 右償還ス但シ買入銷却共ノ他籤札ノ都合ニ由リ償還金額ニ多少増減ヲ生スルコトアルヘシ
 明治三十九年一月二十二日
 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省告示第十二號
 明治三十八年八月九兩月中日本銀行ニ交付シタル大日本帝國政府五分利公債證書ノ額面金額種類、枚數、發行年、記號及番號等左ノ如シ
 明治三十九年一月二十四日
 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

額面金額	枚數	發行年	記號	番號	附屬利札	事由
五百圓	10,000	明治三十六年	Y	自一〇八〇〇 至二〇八〇〇	明治三十八年九月渡以降	種類交換發行
百圓	5,000	明治三十五年	シ	自八八四〇 至一八八四〇	同	同

○大藏省告示第十三號
 明治三十八年九月中日本銀行ニ交付シタル國庫假債券ノ額面金額種類、枚數、記號及番號等左ノ如シ
 明治三十九年一月二十四日
 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

額面金額	枚數	發行年	記號	番號	附屬利札	事由
貳拾五圓	六	同	シ	自四七六二 至四七六二	明治三十八年六月	消滅又ハ紛失代リ交付
五拾圓	一	同	シ	1071111	同	消滅代リ交付
貳拾五圓	一	同	同	八八九六	同	紛失代リ交付

○大藏省告示第十四號
 明治三十八年九月中日本銀行ニ交付シタル國庫債券ノ額面金額種類、枚數、發行年、記號及番號等左ノ如シ
 明治三十九年一月二十五日
 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

額面金額	枚數	發行年	記號	番號	附屬利札	事由
千圓	一	明治三十七年	シ	11063	明治三十八年六月	明治三十六年勅令 第二百九十一號ニ 依リ新規發行
百圓	八	同	同	自五五三三 至五五三三	同	同
同	一	同	同	三五三三〇	明治三十八年十二月 渡以降	同
同	三	同	同	自三五三三 至三五三三	明治三十八年六月 渡以降	同
同	五	同	同	自三五三三 至三五三三	明治三十八年十二月 渡以降	同
同	五	同	同	自四〇〇一 至四〇〇一	明治三十八年六月 渡以降	同
五拾圓	九	同	同	自四〇〇一 至四〇〇一	明治三十八年十二月 渡以降	同
同	一	同	同	四〇〇一七〇	同	同
貳拾五圓	一	同	同	六六六六〇	同	同

五拾圓	五九七九	同	同	自一三三三	同	同
貳拾五圓	一八八〇	同	同	自一六二四	同	同
壹萬圓	五	同	同	自三三三三	同	同
五千圓	一三三	同	同	自一三三	同	同
千圓	五五五	同	同	自三三三三	同	同
五百圓	八八八	同	同	自四四四	同	同
百圓	八	同	同	自八八	同	同

右ノ内新規發行ノ分償額參千參百五拾圓萬四千八百七拾五圓

内

四千參百五拾圓

貳百九拾七萬七拾七拾五圓

壹萬五千百五拾圓

參千五拾五萬四千六百圓

明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依ル分

明治三十七年法律第一號ニ依ル分

標章專賣法ニ依ル分

明治三十八年法律第十二號ニ依ル分

○大藏省告示第十五號

明治三十八年六月大藏省告示第二二五號紛失ニ係ル國庫假債券番號中貳拾五圓券番號第一〇六九四
 一番ハ請求書ニ誤記アリタル旨ヲ以テ訂正方本人ヨリ申出ニ付第一〇六九四ニ番ト更正ス

明治三十九年一月二十五日

○大藏省告示第十六號

紛失又ハ消滅シタル國庫假債券ノ額面金額種類、枚數記號及番號等左ノ如シ
 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

額面金額	枚數	記號	番號	種類	證明金領收	記名者
百圓	一	同	三〇一五	第八期マテ	長谷部孝輔	
同	二	同	六八三二	同	土井壽賀藏	
同	一	同	六八三三	同	橋本宗三郎	
五十圓	一	同	三七三〇	第五期マテ	足邊きみ	
貳拾五圓	一	同	三〇九四〇七	第八期マテ	細内千太郎	
同	一	同	一八二七七	同	村上文左衛門	
同	一	同	一八七三七五	同	村上文左衛門	
同	一	同	五二五五	第六期マテ	古谷徳藏	
百圓	一	同	九〇九四〇	第三期マテ	川端七郎次	
貳拾五圓	一	同	六六三六二	第六期マテ	大西五郎助	
同	一	同	一六五二九	同	奥村安兵衛	
同	一	同	五八七三七	同	小山忠治郎	
同	一	同	三二四八九二	同	森本ヤシ	
同	一	同	二六〇八五七	同	土井壽賀藏	
同	一	同	二八八八〇〇	同	森川頼周	
同	一	同	四一七八一三	同	西本喜久	
同	一	同	四〇七三二	同	坂田敏二	

五拾圓	五、九七九	同	同	自一三三二二	同
貳拾五圓	一、八、八〇	同	同	自一六一九〇	同
壹萬圓	五	同	同	自一六五五四	同
五千圓	二、三三	同	同	自一三三三三	同
千圓	五、四二五	同	同	自一三三三三	同
五百圓	八、八四六	同	同	自一三三三三	同
百圓	八	同	同	自一三三三三	同

右ノ内新規發行ノ分償額參千參百五拾四萬四千八百七拾五圓

四千參百五拾圓
 貳百九拾七萬七拾七拾五圓
 壹萬五千百五拾圓
 參千五拾五萬四千六百圓

明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依ル分
 明治三十七年法律第一號ニ依ル分
 煙草專賣法ニ依ル分
 明治三十八年法律第十二號ニ依ル分

○大藏省告示第十五號
 明治三十八年六月大藏省告示第二五五號紛失ニ係ル國庫假債券番號中貳拾五圓券號第一〇六九四
 一番ハ請求書ニ誤記アリタル旨ヲ以テ訂正方本人ヨリ申出ニ付第一〇六九四二番ト更正ス
 明治三十九年一月二十五日
 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省告示第十六號
 紛失又ハ消滅シタル國庫假債券ノ額面金額種類、枚數、記號及番號等左ノ如シ
 明治三十九年一月二十五日
 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

額面金額	枚數	記號	番號	拂込金額	領收	記名者
百圓	一	ホ	三三〇一五	第八期マテ	長谷部孝輔	
同	二	同	六八三三	同	土井壽賀藏	
同	一	同	六八三三	同	橋本宗三郎	
同	一	同	三七三三〇	第五期マテ	足邊きみ	
同	一	同	三〇九四〇七	第八期マテ	細内千太郎	
同	一	同	一八二七七	同	村上文左衛門	
同	一	同	一八七三七五	同	古谷儀藏	
同	一	同	五二五五	第六期マテ	川端七郎次	
同	一	同	九〇九四〇	第三期マテ	大西五郎助	
同	一	同	六六三六二	第六期マテ	奥村安兵衛	
同	一	同	一三五五九	同	小山忠治郎	
同	一	同	五八七三七	同	森本ヤシ	
同	一	同	三二四八九二	同	土井壽賀藏	
同	一	同	二六〇八五七	同	森川頼周	
同	一	同	二八八八〇〇	同	西本喜久	
同	一	同	四一七八一三	同	坂田裁二	
同	一	同	Month	同	同	

